四四　軍の場に戎衣輕く、秋の霜に露の命消えを爭ふ武士のならひばかり悲しきはあらざりけり。嗚呼、君に事へてまめなる志をいたさむ人、必ず孝ある人なり。亂世のあさましさ、忠臣孝子おほかた幸なく、赤きむくろさながら駒のひづめにかけられ、白き骨くちて道の草をこやせり。空しくちりひぢと共にその名埋れけむ人いくそばくぞや。鋤き殘したる片岡には、草苅るうなゐも靈ありなど憚りて、茂き藪原ふみわけたる跡だになし。雨そぼふる宵、月くらき曉、青き火もえ、さけぶ聲きこゆなど、翁嫗は語るぞかし。おもふに、忠臣孝子君のため親のために棄てけむ身のさるはかなき執をのこして、めめしう人に見ゆべしやは、さることいひさわがるゝも亦幸なきが上の幸なきになむ。（四二、女）

解答　戰場ニ出デ軍裝甲裝々々シク利劍閃メク下ヲ潛ツテ、命ノ消ユルヲ爭フ武士ノ習ヒ位悲シイモノハナイコトデアル。嗚呼君ニ仕ヘテ忠實ナル志ヲ盡サウト思フ程ノ人ハ、必ズ孝行ノ心アル人デアル。亂世ノアサマシサニ、忠孝ノ人ハ概ネ不幸デ、赤軀サナガラ馬ノヒヅメニ蹴チケラレ、白骨朽チテ道傍ノ草ヲ肥ヤシテキル。空シク塵埃ト共ニソノ名埋モレテ後世ニ傳ハラザル人ハソモ〳〵幾何デアラウ實ニ非常ナ數ニ達ヒナイ。鋤殘シタル片岡ニハ、草ヲ苅ル子供モタタリガアルナドト恐レテ、茂キ草原ヲフミワケタ跡モツイテキナイ。雨ガジョボ〳〵ト降ル曉ヤ、月ノウスグライ明方ナドニハ、青イ火ガモエタリ、叫喚ノ聲ガキコエタリスルナドト翁ヤ嫗ハ語ツテキル。想フニ忠臣ヤ孝子ノ親ノ爲メ君ノ爲メニ命ヲ棄テタ者ガ、其樣ナツマラナイ執念ヲコノ世ニノコシテ、女々シク人ニ見ラレネウヤ、ソンナ事ナイヒ醫ガレルノモ、亦實ニ不幸ノ上ノ不幸ト稱スベキモノデアル。

（1）戎衣輕く　秋の霜に露の命消えを爭ふ　戎衣ハ軍裝ナリ、秋の霜ハ一面文字通リニ解スベク、一面ニハ劍ノ露の命　ハカナクモロキ命ナリ。　消えを爭ふ　命ヲ輕ゴトト見ルベシ。カクテコノ文ノ味ノアル所ヲ知ルベキ也。

ンジテ戰フ事。「軍裝甲裝甲裝シク、利劍閃メク下ヲクグリテ、ハカナキ命ノ消ユルヲ爭ヒアフ」ト也。石川依平ノ詠ナル武士のいのちを露とあらそひしあらのの末にあきかぜぞふくトイフ歌、マサニ異曲同巧ト云フベシ。（2）まめなる志をいたさむ人　忠實ナル志ヲ盡サウト思フ程ノ人ハノ意。（3）赤きむくろさながら駒のひづめにかけられ　むくろハ體也、今多クハ死體ニイフ。赤きハ白き骨トイフ語ノ白きト對照シテイヘルニテ、卽チ生々シキ死體ノ意ニイヘルナリ、血ニマミレテ赤キナリナドト立入リテ見ザル方面白カラム。「生々シキ死體ハソノママ馬蹄ニケチラサレ」ノ意。さながらハトリ片付ケモセズ、ソツクリソノママ也。（4）ちりひぢと共にその名埋れけむ人いくそばくぞや　塵埃ト共ニ其名ヲ埋マツテ了ツタ人ハ幾何アルカワカラヌトノ意。空シク戰死シテソノ名後世ニ傳ハルコトナキモノヲイヘル也。（5）草苅るうなゐも靈ありなど憚りて、茂き藪原ふみわたる跡だになし　草苅子供モタタリガアルナドト長レ憚ツテ近寄ラナイノデ、茂キ草藪ノ原ハ蹈ミ分ケタ足跡スラツイテ居ナイ。（6）さるはかなき執をのこしてめめしう人に見ゆべしやは　ソンナツマラヌ執念ヲコノ世ニ殘シテ、女々シイ樣子ヲ人ニ見ラレル樣ナ事ガアラウカ、決シテソンナ事ハナイノ意。

四五（イ）公方樣御他界遊ばさる

解答　（イ）將軍樣ガ薨ゼラレタ。

(ロ)介錯の腰元をさし添ふ
(ハ)行脚僧の頭陀袋
(ニ)言語道斷の振舞　(四二、女)

必考 ○行脚僧の頭陀袋　行脚ハ禪ノ語、頭陀ハ梵語ニテ意ハ行脚ト相同ジク、僧ノ旅行シテ行ク行ク食ヲ乞ヒ、露宿ナドシテ修行スルコトニテ、サル僧ノ掛クル袋ヲツヅダ袋トハイフ也。

四六 往古學問といへば、專ら儒教の研究にして、人々修身齊家の道を學ぶにありき。室町時代の季、天下糜爛し、文學は燈火の將に滅せむとするが如くなりしを、五山の僧侶に依つて、纔に其の命脈を繫がれしに、元和偃武の後、國家寧靜し、漸く文事に志す者出で殊に德川家康公は、林道春を任用して、大に文學を奬勵したりき。

江戸に學校の開かれしは、寛永の始、彼の道春私に上野忍が岡に弘文院を建てたるを嚆矢とす。元祿中、綱吉將軍林氏に命じて之を湯島臺に移し、大に生徒を收養せしめ、後寛政に至り、執政松平定信卿之を官學に改め、從來幕府の士にあらざれば入學を許さゞりし制度を擴張して、士庶を問はず入學する便を開きぬ。又天保の末には、朝廷に於ても、搢紳の學を修めずして遊惰に耽り易きを憂へ、學習所を創設して、紈袴の子弟を教育せしめ給へりき。(四二、女)

解答 (1)儒教の研究　孔孟ノ教ヲ學ビシラベルコト。
(2)天下糜亂し　天下ガミダレテゲチャ〳〵ニナルコト。
(3)五山の僧侶　京五山、鎌倉五山トテ京都及鎌倉ニ各五禪寺アリ、ココナルハ京ノ天龍寺、相國寺、建仁寺、東福寺、萬壽寺ナイヘル也。
(4)命脈を繫がれしに　ドウニカ絶エズニツヅイテヲツタコト。
(5)元和偃武　元和ハ德川初期ノ年號、偃武ハ軍事ノヲサマルコト、武ヲ用ヰザルコト。元和ニナツテ世ガ平和トナリタルコトヲイフ。
(6)嚆矢　嚆矢ハ鳴鏑ナリ、昔戰爭ノ時ハ最初ニ嚆矢ヲ發シ、ソレヨリ戰鬪ヲ開始スルヲ例トセルヨリ、凡テ事ノ始メノ義ニ用ヰル。
(7)制度を擴張し　オキテヲトリヒロメルコト。
(8)士庶を問はず　武士モ一般農工商ノモノモ共ニダレカニ、將軍綱吉ハ林氏ニ命ジテ之ヲ湯島臺ニ移シ、大ニ生徒ヲ收養サセ、後寛政ニ至ツテ、執政松平定信ガ之ヲ官立ノ學校ニ改メテ、コレマデハ幕府ノ士デナクテハ入學ヲ許サナカツタノヲ、ソノ制度ヲヒロメテ、武士庶民ノ差別ナク入學スル便ヲ開イタ。又天保ノ末ニハ、朝廷デモ、貴族ガ學問ヲ修メナイデ、遊惰ニ耽リ易イ事ヲ心配セラレテ、新規ニ學習所ヲコシラヘテ、貴族ノ子弟ヲ教育サセラレタノデアツタ。

解答 昔學問トイヘバ、專ラ儒教ノ研究デ、人々身ヲ修メ家ヲ齊フル道ヲ學ブノデアツタ。室町時代ノ季ニ天下ガ亂レテ了ツテ、文學ハ燈火ノ今ニモ消エヤウトスル樣ナ有樣デアツタノヲ、五山ノ僧ニ依ツテドウニカソノ壽命ヲツナイデヲツタガ、德川ノ始メ漸ク戰ガ治マツタ後ニ、國家モシダイニナツテ、段々文學ニ志ス人間モ出テ來タシ、殊ニ德川家康ハ、林道春ヲ任用シテ大ニ文學ヲ奬勵シタノデアツタ。

江戸ニ學校ノ開カレタノハ、寛永ノ始メ林道春ガ上野ノ忍ガ岡ニ私立ノ弘文院ヲ建テタノガ始マリデアル。元祿年中

レノ區別ナクノ意。(9)搢紳（シンシン）　朝廷ニ仕フル高貴ノ人々ヲイフ。(10)紈袴（クワンコシテイ）の子弟　貴族ノ子弟ノコト。紈袴ハ白練（シロネリ）ノ絹ニテ仕立テタル袴ニテ、昔支那ノ貴公子ノ用キタルモノナルヨリコノ稱アル也。

東京外國語學校

一　その處のさまをいはゞ、南に覽（かけひ）あり。岩を疊みて水をためたり。林、軒近ければ、爪（つま）木を拾ふに乏しからず。名を外山（とやま）といふ。正（まさ）木（き）のかつら跡をうづめり。谷しげけれども、西は、はれたり、觀念のたよりなきにしもあらず。（三五）

參考　○かけひ　高ク地上ニ架シアル樋（トヒ）也。　○爪木　手デ折リ集メル程ノ小サキ薪。　○正木のかつら　枝ハ南天ニ似タルモノニテ黑ミアリ、冬ノ始メニ古葉紅葉シテ美シキモノナリトゾ。　○觀念のたより　觀念トハ佛ノ語ヲ深ク心ニ念ズルコト。西方晴レタレバ西方ナル彌陀ニ向ヒテ念ズルニ便宜ナリト也。

解釋　ソノ處ノ有樣ヲイヒテ見ルト、南ニ懸樋（カケヒ）ガアリ、岩ヲ疊ンデソノカケヒガラ落チル水ガ溜メテアル。軒近クニ林ガアルカラ、小木（コギ）ヲ拾フニ不足ハナイ。ソノ林ノアル處ノ名ハ外山トイフノデアル。分ケテ來ル人モナイノデ、正木ノ葛ガ一杯ニ生ヒ茂ツテキル。谷ガ深イケレドモ、西ノ方ハ晴レテ居ルカラ、西方彌陀ニ向ツテ悟道ヲ念ズル便宜ハナイデモナイ。

二　惺窩答へずして出づ。慨然として曰く、彼れ尙覇主に屬することを思はず、又將に謀る所有らむとす。嗚呼生靈の苦を受くる、一に何ぞ之を忍ぶことの甚しきやと。（三五）

解釋　惺窩ハ返答ヲシナイデ立出デ、大イニ慨イテ曰フニハ、彼ハ尙將軍ニ屬スルコトヲ考ヘナイデ、將ニ謀叛ヲ企テヤウトシテ居ル。嗚呼ソンナ事ヲシテハ、人民ハ非常ナ苦ヲ受ケルノデアルニ、彼ハドウシテコレヲ平氣ニ思ツテ居ルノデアラウカ、實ニ殘念ナコトデアル。

注意 本題ハ口語體ニ書キ改メタトアリ、解釋トイフヨリハ、ヤヤ答案ノ文ニ注意シ、作文トシテノ價値ヲモ存センコトヲ勉ムベキノミニテ、別ニ取立テテイフ程ノコトモナカラム。

三

(イ)滿漢人
(ロ)六尺の孤
(ハ)矛盾
(ニ)族長政治
(ホ)弱冠（三五）

解答
(イ)滿州ヨリ起リタルヲ滿人トイヒ、支那ノ本土所謂中國ニ生レタルヲ漢人トイフ。
(ロ)父君ナキ年少ノ君ヲイフ。
(ハ)自身ノ說ノ前後撞著シテ相合ハザルコト。（前出）
(ニ)未開ノ時代ニ行ハレタルモノニテ、地方地方ノ一族ノ長タルモノガスベ行フ政治ヲイフ。
(ホ)年二十歲ヲイフ。（前出）

四 からは、けうとき山の中にをさめて、さるべき日ばかり、詣でつゝ見れば、程なく、卒都婆もこけむし、木の葉ふりうづみて、夕の嵐、夜の月のみぞ、ことゝふよすがなりける。思ひ出でゝ、忍ぶ人あらむほどこそあらめ、そも、また、ほどなくうせて、聞き傳ふるばかりの末々は、哀とやは思ふ。（三六）

參考 ○けうとき　人氣疎ク寂シキヲイフ。○卒都婆　梵語也、死者ノ骨ヲ埋メタル處ノ標識トシテ高ク立テタル石、木標ナドヲイフ。今ハ塔婆トモイヒテ、重ニ細長キ板ナルヲイヘリ。○ことゝふよすが　訪問ヲスルタヨリノ義也、全體ノ意ハ解答ノ通リ。○忍ぶ人あらむほどこそあらめ　忍ぶハ戀慕ヲ也、ほどこそあらめハ、今ノ「ウチハマアトモカクモ」ナドニ類シ、前後ノ關係ニ應ジ種々ノ意ヲ含蓄スル句也。コヽナルハ解ノ文ニヨリテソノ意ヲ悟ルベシ。

五

(イ)破竹の勢。
(ロ)斷腸の響。
(ハ)六日の菖蒲、十日の菊
(ニ)繁昌は友を生し、衰微は友を試む。
(ホ)その夜廿二才を一期として、吹きそめたる秋風に、脆くも桐の一葉と散りにけり。（三七）

參考 ○桐の一葉　秋ニナルトマツサキニ桐ノ葉ガ散リ始ムルモノト信ゼラレタルヨリ、ソノ第一番ニ散リタル葉即チ桐ノ一葉ハ、秋ヲ報ズルモノトシテ古來詩ニ歌ニ屢アラハレタリ。

解答
(イ)刀ニテ竹ヲ破ルニ一節ノ後ハ刃ヲ迎ヘテ自然ニ裂クルガ如ク、事ノ勞セズシテ進ミハカドルナドニイフ。
(ロ)腸ヲ斷切ルガ如クモノ悲シク身ニ泌ミワタル響。
(ハ)菖蒲ハ五日ノモノ、菊ハ九日ノモノナルヨリ、スベテ時機ニオクレテ間ニ合ハザル譬ニイフ。
(ニ)繁昌シテキル時ハ人ガ皆ヨツテ來ルガ、衰微シテ來ルト多ク遠ザカルガ人情ナレバ、繁昌ハ友ヲコシラヘ、衰微ハ友ヲタメストイフ也。
(ホ)ソノ夜二十二歲ヲ一期ニシテ、吹キソメタ秋風ニ依ツテ桐ノ一葉ガ散ルヤウニ、モロクモ死ンデ了ツタ。

注意 (ホ)ハ傍線ノ部分ノミノ解ナリ。

六 終日花をミる△
彼の生徒の行狀をミよ△

解答 終日花ヲ觀△ル
彼ノ生徒ノ行狀ヲ視△ヨ

途中で妙なものをミて來た
僕の願をキイて吳れるか　（三七）

參考　○觀ハ觀察ト熟語スルガ如ク、見物スル意ノ字也。視ハ聽ト一對ノ字ニテ特ニ氣ヲツケテミント欲シテミルコトナリ。見ハ聞ト一對ノ字ニテモノノ目ニカカルコト、ミツケル事也。コレニヨリテ各個ノ場合ニソレ〳〵ノ文字ヲ付スベキ所以ヲ知レ。又聽ハ聞トハ違ヒテ、キキイレル意、氣ヲツケテキク意、又イカニモト合點スル意ヲ含有セル語也。

七

（イ）協商
（ロ）壟斷（三七）

參考　○壟斷　ハ岡ノ斷チキリタル如ク高ク聳エタル所ヲイフ。孟子ノ中ニ、「賤丈夫アリ、必ズ壟斷ヲ求メテ而シテ之ニ登リ、以テ左右ヲ望ミテ而シテ市ノ利ヲ罔ミス」トアルヨリ出デタル語ナリ。

解答　（イ）相談スルコト、モノ事ヲ相談シテトリキメル事。
（ロ）利益ヲ獨占スル事。

八

一道にたづさはる人、あらぬ道の筵にのぞみて、「あはれ我道ならましかば」といひ、心にも思へること、常の事なれど、よにわろく覺ゆるなり。知らぬ道の羨しく覺えば、あなうらやまし、などか習はざりけんといひてあ

解答　或ル一ツノ道ヲ以テ立ツテキル人ガ、ソノ專門以外ノ席ニ臨ンデ、「アアコレガ自分ノ道デアツタラバ十分ニ技量ヲ示サウモノヲ」ナド云ヒ、心ニモ思ウテ居ルノハ、ヨクアル事ダガ、ドウモ非常ニツマラナク思ハレル。若シ知ラナイ道ガ羨シク思ハレルナラ、「嗚呼羨マシイ、ナゼ私ハ之ヲ習ヒマセンデシタラウ」ト、アツサリ云ツテノケル樣ニスレバヨイノダ。

りなん。（三八）

參考　○あらぬ道の筵　專門以外ノ會席、音樂家ガ畫工ノ席ニ列スル如キヲイフ。　○よにわろく　よにハ非常ニトイフ意ノ副詞、わろくハ行爲ノ善惡トイフヨリモ、品劣リテ品位ナクウマミナキ側ニツキテイヘル也。

九

孔明は、道德を懷抱し、功名を遺外し、草廬にて一生を終んとせしに、はからざるに蜀の先主（劉備）の三顧に遇て、不得已して出仕へしが、一朝關羽張飛が上に立て、君臣魚水の如くなりき。（三八）

解答　孔明ハ道ヲ守リ德ヲ行ヒ、功名ヲ外ニシテ、草ノイホリデ一生ヲ終ヘヤウトシテ居ツタ處ガ、意外ニモ蜀ノ先主ニ三度マデ尋ネテ來ラレテ、仕方ナシニ出仕ヘタガ、一朝關羽ヤ張飛ノ上ニ立ツテ、君臣水魚ノゴトク仲ヨクアツタ。

解答　○君臣魚水　君臣水魚トイフニ同ジ、蜀志ニ出デタル先主ノ言ニ「孤ノ孔明アルハ猶ホ魚ノ水アルガ如シ」トアルヨリ出デタル語也。

一〇（イ）幣害　（ロ）父母兄弟、（ハ）勸迎會　（ニ）招侍、（ホ）倒低

解答　（イ）弊害　（ロ）父母兄弟　（ハ）歡迎會　（ニ）招待　（ホ）到底

注意　本題ハ誤字ノ訂正ナリ。

一一　ひまゆく駒のあしにまかせて、文永も五年になりぬ。故時賴朝臣は、康元元年にかしらおろしての

參考　時ノタヅノハ早イモノデ、文永ノ年モモウ五年ニナツタ。故ノ時賴朝臣ハ、康元元年ニ剃髮シテ入道シテ後、世ニ忍

ち、しのびて諸國を修行しありきけり。あやしのやどりにたちいりては、その家ぬしがありさまをとひきゝ、[2]ことわりあるうれへなどのうづもれたるをきゝひらきては、「我はあやしき身なれど、むか[3]しよろしきしうをもちたてまつりし、いまだ世にやおはすると、消息たてまつらむ、[4]もてまうでて聞え給へ」などいへば、[5]なでうことなき修行者の、なにばかりかはと思ひながら、その文をもちてあづまへ行て、しかく〳〵と敎へしまゝにいひて見れば、入道殿時賴の御消息なりけり。(三九)

解答 (1)ひまゆく駒の足にまかせて　時ノタツニ任セテノ意。時ハ止メンニ由ナク、タチヤスキモノナルナイヘルマデ也。(2)ことわりなるうれひなどのうづもれたる　うれひハ訴也。道理ニ叶ヘル告訴ナドノ通ラズシテソノママニナリヲルナイフ。(3)よろしきしう　よろしきハよきヨリヤ下樣ニテ、相當ナ、カナリナノ意ナルコト前ニモイヘリ。(4)もてまうでて聞え給へ　持テ詣デテ申上ゲ給ヘト也。まうでハ賤シキ所ヨリ貴キ所ニ到ルナイフ、之ニ反シテ諸國ヲ修行シテアルイタ。キタナゲナ家ニ立チ入ツテハ、其家ノ主人ノ有樣ヲ尋ネテ見タリ、理由ノアル訴ナドガ通ラナイデ泣寢入ニナツテ居ルノヲ聞キ開イテハ、「自分ハ賤シイモノダガ、昔相應ナ主人ヲモツテ居ツタ事ガアル若シカソノ方ガ、マダ御在世デアルカモシレナイカラ、手紙ヲ一本書イテ上ゲヤウ、持參シテ御出掛ニナリ、其事ヲ申上ゲナサイ」ナドイフノデ、何デモナイツマラヌ修行者ダモノ、何大ジタ事ガアルモノカトハ思ヒナガラ、兎ニ角ソノ手紙ヲ持テ鎌倉ヘ行ツテ、コレコレト修行者ノ敎ヘタ通リニ云ツテ見ルト、ソレハ入道時賴ノ御手紙デアルトイフ有樣デアツタ。

シ貴キ所ヨリ賤シキ所ニ行クヲバまかるトイフ也。(5)なでうことなき修行者のなにばかりかはと思ひながら　何トイフコトモナイツマラヌ修行者ノ何程ノ事ガデキルモノカトハ思ヒナガラノ意。かはハ反語ニテ「なにばかり(ノ事)かは(アラム)」ト補ヒテ見ルベシ。

注意 本題ハ傍線ノ所ノミノ解釋ナリ。

一三　藏人ありのまゝに奏聞す。天機殊に御心よげにうち笑ませ給ひて、「林間に酒を煖めて紅葉を燒くといふ詩の心をば、それらにはたれが敎へけるぞや、やさしうも仕りたるものかな」とて却つて叡感にあづかりて、敢へて勅勘なかりけり。(四〇)

解答 ○藏人　モト禁中校書殿ノ御書籍ヲ司ル役職ナリシガ、後嵯峨ノ時、別ニ藏人所トテ、殿上ニ近侍シテ機密ノ文書及ビ諸訴ヲ司ル職ヲ立テラレシヨリ後ハ、ソレニ仕フルモノノ職名トナルニ至レリ、ココナルモ元ヨリ後者也。

○林間に酒を煖めて紅葉を燒く　唐ノ白樂天ノ詩中ノ句ニテ、コノノ對句ヲバ石上題レ詩掃二綠苔一トイヘリ。林ニテ紅葉ヲ燒キテ酒ヲ煖メタリト也。

解答 藏人ガ事實ヲ有リノママニ申上ゲタ。天皇陛下ニハ、御機嫌殊ニ麗ハシク、御愉快相ニ御笑ヒ遊バサレテ「林間ニ酒ヲ煖めて紅葉ヲ燒ク」トイフ詩ノ意味ハ、ソノ樣ナモノ共ニダレガ敎ヘタノカ、仲々洒落タコトヲヤツタモノデアル」ト宣ハレテ、却ツテ天子樣ノ御感ニ預リ、別段ノ御咎メハナカツタノデアツタ。

一三　ろこくも、せつとうかんたいのすゐめ

解答 露國モ絶東艦隊ノ衰滅ヲ坐視スルニ忍ビズヤアリ

つをざしするにしのびずやありけん、さらにバルチックかんたいのせいえいをえらびて、たいへいやうだいにかんたい、だいさんかんたいをそしきし、とほくぜつとうにはけんして、にほんかんたいにふくしうし、ふたたびとうやうにいうしせんことをはかれり。(四〇)

一四 忠度(ただのり)、(俊成に)宣ひけるは、かかる身として、御ため憚(はばかり)あれども、一門榮華盡きて都に安堵せず、西海へ落ち下り侍る、亡びん事疑なし、世靜まりて後、定めて勅撰の沙汰候はんか、縱ひ身は八重の鹽路の底に沈むとも、藻鹽草かき置く末の言の葉、後の世までも朽ちず、片見に傳はり侍れかしとおもひ出で、河尻より忍び上りて候、これぞ年頃よみ集めたりし舊詠ともにて侍る、身と共に波の下に水屑となさん事、遺憾に侍り、之を砌下に進らせ置き候、勅撰の時は、必ず思し召し出だせよ」とて、卷物一卷、泣く泣く鎧の引合せより取り出でたり。(四一)

解答 (1)都に安堵(アンド)せず　都ニ安心シテ居ラレヌトノ意。ルルコト。沙汰ハ公ヨリノ指令ナイフ、天子ノ勅命ニテ歌集ヲ作ルコトナイヘル也。(2)勅撰の沙汰　勅撰ハ勅命ニヨリ歌集等ノ書物ヲツクラキ海底ニ沈ムノ意。海ノ深キサマ、遠ク遥ケキサマヲバ八重の鹽路の八瀬路(フシホヂ)のナドイフ也。(3)八重の鹽路(シホヂ)の底に沈む　深言の葉　鹽ヲ採ルニ、マヅ海藻ヲ掻キ集メ乾シテ之ヲ積(ス)ノ上ニ積ミ、上ヨリ汐水ヲ汲ミカケテ垂レシム、之ヲ藻鹽草トイフ。カク藻鹽草ハ掻キ集ムル者ナルヨリ、書キノ緣語トシテ用ヰタル迄ニテ、別ニ文字上ノ意義ナシ。單ニ書殘ス言葉ノ末トイフコト也。(4)藻鹽草(モシホグサ)かき置く末の言葉ノ末トイフコト也。(5)後の世までも朽ちず　後世マデモ殘ツテノ意。(6)片見に傳はれ侍れかし　自分ノ形見トシテ世ニ傳レヨトノ意。(7)水屑(ミクヅ)　水中ノチリ、アクタ也。(8)砌下(セイカ)　砌ハ石階也、直接ソノ人ヲ指サズシテ、ミギリノ下トイヘルニテ、閣下、机下ナドト同ジク尊敬ノ語也。(9)鎧の引合(ヒキアハ)せ　鎧ノ右ノ脇ニテ、脇立(ワイダテ)ノ上ニ引合ハスル所也。コノ右ノ脇ヲクツロゲテ懷中ヨリ詠草ヲ取出セリト也。脇立トイフハ鎧ヲ著ル前ニ右ノ脇ニアツル具ニテ、札(サネ)ノ上ヲ染革ニテ包メル也。

一五 あたり近き池の水鳥の、こゑ〳〵になケム。更ニ、バルチック艦隊ノ精鋭ヲ選ビテ、太平洋第二艦隊、第三艦隊ヲ組織シ、遠ク絶東ニ派遣シテ、日本艦隊ニ復讐シ、再ビ東洋ニ雄視セムコトヲ圖レリ。

注意 ・本題ニハ「左ノ假名文ヲ漢字交リ文ニ書キ改メヨ。但シ漢字ハ便宜ヲ以テ假名ノ右側ニ書キ添ヘ其點盡ヲ正シクスルコトヲ要ス」トアリ。

參考 忠度ガ云ハレル事ニハ、「コンナ身トシテ、カレコレ申上ゲルノハ、アナタノ御爲メ憚ル次第デアルカ、平家一門ノ榮華ガツキテ、都ニ安ンジテモ居ラレズ、西海ヘ遁ゲ下リマスカラハ、亡ビル事疑モアリマセン、世ガ靜マツタ後ニハ、多分勅撰ノ事モアリマセウ、ヨシヤ身ハ海底ニ沈ンデモ、書キ殘シタ言葉ダケハ、後世マデモ朽チハテナイデ、自分ノ片見トシテ殘ル樣ニト思ヒ出シテ、河尻カラ忍ンデ上ツテ來マシタ。コレガ即チ年來詠ミ集メタ舊詠デアリマス、コノ身ト共ニ波ノ下ニ沈メ、水中ノチリアクタトスル事モ殘念デアリマス、之ヲ御手許ニ差出シテ置キマス、勅撰ノ時ニハ必ズ思ヒ出シ下サイ」ト云ツテ、卷物ヲ一卷泣ク〳〵鎧ノ引合セカラ取リ出シタ。

參考 チキ近クノ池ニキル水鳥ノ、コエ〳〵ニ鳴イテ居

くもきこゆ。さこそ波のうきねのさむからめと、それさへ哀をそへて、さても心あらん友もがなと、人ゆかしう思ふ折ふし、いつもとひかはす人のもとより文もて來ぬ。（四二）

解答 さこそ波のうきねのさむからめと云々　嘯々波ノ上ニ浮イテ寢テ居ルノハ寒イ事ダラウト、ソレマデガ、哀ヲ添ヘル種トナツテ、サテモ心アル友ガホシイト相手欲シク思フト也。水鳥のうきねの床ナドノ句ヨク歌ニ見ユ。多クノ場合、浮キニ憂キヲ兼ネテ悲シキ方面ニ云ヒナラヘリ。心あらんハ、人情ニ富ンダ、同情心ノアル、風流心ノアル、考ノアル、上品ナ等多クノ意ニ用ヰラルレド、要スルニ「話セル」トイフ俗語ノ意味ニ近シト覺ユ。ゆかしハ追求的興味ヲ起セル心的狀態ヲイフ。人ヲ欲シク思フ也、相手ホシ也。

ルノモ聞エル。サゾマア波ノ上ニ寢ルノハ寒カラウト、ソレマデガ哀ノ情ヲソヘテ、サテモ話セル友達ガ欲シイモノダト、相手ホシク思フ矢先ヘ、イツモ往來シテ居ル人ノ所カラ手紙ヲ持ツテ來タ。

專門學校入學者檢定試驗

一

（イ）もはら
（ロ）おどろ〳〵し
（ハ）いらへ
（ニ）うべなふ
（ホ）妥協
（ヘ）歸納
（ト）有職
（チ）子規
（リ）胡簾
（ヌ）青丹吉（三六）

解答
（イ）專ラ也。他ヲ顧ミズ只ソノ事ノミニノ意。
（ロ）仰山ナリノ意。スベテ物事ノ驚クベキ程ナルニイフ。
（ハ）返答ノ意。
（ニ）承諾スル、同意スル等ノ意。
（ホ）讓リ合ヒ、折レ合ヒテ相談ヲ纏ムルコト。
（ヘ）論理學上ノ言葉ニテ許多ノ事實ヲ集メテ一致ノ點ヲ求メ其中ニ存スル原理ニモトヅキテ最高ノ原理ニ論及スル事。
（ト）故實典例等ヲ明ラムル學問ヲイフ。
（チ）時鳥トモ杜鵑トモ書ク、鳥ノ名也。
（リ）矢ヲ盛リテ背負フ具也。
（ヌ）ならノ枕詞也。

二

（イ）禮に、下ニ公門ニ式ス路馬ニといふことあり。忠臣と孝子とは、不下爲ニ昭々ニ變節、不下爲ニ冥々ニ惰行といへり。

解答
（イ）禮記ニ「公ノ門ノ所デハ乘物カラ下リ、君ノ車馬ニ遭ツテハ車ノ横木ニ凭ツテ禮ヲナスベキモノダ」トイフコトガアル。「忠臣ト孝子トハ人前ノアキラカナ所ダトテ節ヲ變ジタリ、クライ見エナイ所ダカラトテ行ヲナマケルコトハナイ」ト云ウテヰル。

(ロ)かへらじとかねて思へば梓弓なきかずに入る名をぞ留むる。

(ハ)高綱は、究竟の逸物にのりたれば、うちかは早しといへども、淵瀬をいはずさゞめかして金に渡し、向の岸近くなりて、馬綱にかゝり、足をさと歩み除きけり。

(ニ)能をつけむとする人、よくせざらむ程は、懇に人に知られで、内々よく習ひ得て、さし出でたらむこそ、いと心にくからめといふめれど、かくいふ人、一藝も習ひ得たることなし。(三六)

參考 ○路馬　路ハ大ナリノ義ニテ、君ノ車馬ナイフ也。門ヲ路門トイヒ、寢ヲ路寢トイヒ、車ヲ路車トイフガ如キ、皆大ノ字ノ意ニシテ君ニ關シテイフ語也。　○梓弓　アヅサノ木ニテ作レル弓、ココニハ亡き數に入るノ入るヲ射るニ掛ケ、ソレニ對スル枕詞トモナリ、且戰陣ニ向フ折カラトテ、弓ヨリ射離サレシ矢ノ如クノ意ヲモ含メテイヘルモノカ。コノ語アリテ初メテ全文活躍スルヲ見ル。　○究竟　極メテ勝レタル事、最ヨキ事ナイフ。　○逸物　スベテ衆ニ卓越セルモノナイフ。

(ロ)兼ネテヨリ歸ラヌモノト覺悟シテキルノデアルカラ、死ヌル人數ニ入ルベキ姓名ヲココニ書キ留メル譬デアル。

(ハ)高綱ハ、飛切上等トイフ逸馬ニ乘ツテ居ツタノデ、宇治川ガイクラ早クテモ、淵デモ瀬デモ構ハズニザアザアト音ヲ立テテ眞直ニ馬ヲ渡シ、向ノ岸近クナツタ所デ、馬ガ綱ニカカツテ、足ヲサツトフミハヅシタ。

(ニ)身ニ藝能ヲツケヤウトスル人ハ、ウマク出來ナイ間ハ、ナマツカ人ニ知ラレナイデ、内々ニ十分稽古シテ、上手ニナツタ所デ、人中ニ發表スルノガ、一番奥ユカシカラウト云ウテ居ルモノモ有ルラシイケレド、コンナ事ナイフ人ハ、一藝モ習ヒ得タタメシハナイモノデアル。

三　彼の資朝卿は、日野の一門にて、職大理を經、官中納言に至りしかば、君の御おぼえも他に異にして、家の繁昌時を得たりき。俊基朝臣は、身儒雅の下より出でて、望勳業の上に達せしかば、同官も肥馬の塵を望み、長者も殘盃の冷に從ふ。宣哉不義而富且貴於我如浮雲といへること。これ孔子の善言、魯論に記する所なれば、なじかは違ふべき。夢の中に樂盡きて、眼前の悲こゝに來れり。(三七)

參考 ○大理　檢非違使ノ長官卽別當ノ唐名也。　○朝臣　コレハ四位ノ人ニ對スル敬稱、姓ノ朝臣トハ別也。卿ハ三位以上ニイフ。　○儒雅　正シキ道ノ學、儒學ナイフ。　○肥馬の塵を望み、殘盃の冷に從ふ　杜子詩集ニ朝扣ニ富兒門ニ暮隨ニ肥馬塵ニ殘盃與ニ冷炙ニ到處潛悲辛ト見エテ、同僚モ俊基ノ肥馬ニ跨リ塵ヲケタテテ歩ク樣ヲ羨ミ望ミ、長者モ殘盃ノ冷タクナツタノヲ頂戴ストノ意ニテ、要スルニ人皆之ヲ敬ヒ之ニ媚ビタリト也

解説 彼ノ資朝卿ハ、日野ノ一門デ、職ハ檢非違使ノ別當ヲ經、官ハ中納言ニ至ツタカラ、天皇ノ御寵愛モ他ト異ナツテ居テ、家ノ繁盛ハ大シタ者デアツタ。俊基朝臣ハ、身正シキ學者ノ門カラ出テ、人望ガ勳業以上ニ達シテ居タノデ、同ジ役ノモノモ、立派ナ身分ノ人モ、皆コビヘツラフトイフ有樣デアツタ。「不義ニシテ富ミ且ツ貴キハ自分ニ取ツテハ浮雲ノ如ク何モナラヌモノダ」トイツテアルノハ、如何ニモ尤モノ事ダ。コレハ孔子ノ善言デ、論語ニ出テ居ル事ダカラ、何デ違フ事ガアラウ。夢ノ中ニ樂ハ盡キテ、眼前ノ悲ガ今ココニ來タノデアル。

○不義而富且貴於我如浮雲　論語述而篇ニ見エタリ。資朝、俊基等ノ繁榮モ、浮ベル雲ノ如クハカナカリキトノ意ヲ利カセン爲メ引用セル也。　○管論　論語ヲイフ、孔子ハ魯ノ人ナレバ也。

四　山中に入れば、人跡稀に、雉兎芻蕘の往きかふ道、そこともわかず、終に、ふみたがへて、港に出づ。黃金花さくとよみし金華山海上に見渡され、數百の廻船入江につどひ、人家、地を爭ひて、竈の烟、立ちつゞきたり（三七）

參考　○芻蕘　草ヲ取ルモノ、薪ヲ取ルモノ。草カリ、木コリ也。　○黃金花さく　萬葉集十八ニ大伴家持卿ノ歌「すめろぎの御代榮えむと東なる陸奥山に黃金花さく」トアリ、聖武ノ朝、陸奥國ヨリ始メテ黃金ヲ出セル時ノ賀歌ノ一ツ也。黃金花さくハ黃金ノ產出ヲイヘル也。

五

(イ)隨身　(ロ)引出物　(ハ)猿樂　(ニ)口分田

解答　山中ニ道入ルト、人ノ足跡モ稀デ、雉ヤ兎ヤ草苅木コリノ往來スル道モハツキリワカラズ、終ニ道ヲ迷ツテ港ニ出タ。昔大伴家持ガ黃金花さくト詠ンダ金華山ハ海上ニ見渡サレ、數百ノ廻漕船ハ灣內ニ集マリ、人家ハ一杯ニ立並ンデ、竈ノ煙ガ立チツヅイテ居ル。

(イ)朝廷ヨリ賜ハル護衛ノ兵ヲイフ。
(ロ)祝賀ナドノ後ニナス贈物ヲイフ。古昔馬ヲ引出デ客ニ贈ル習アリシヨリ出デタル語也。
(ハ)古クハ散樂トモ云ヒ、後ニハ音樂歌舞備ハリテ職業トシテ演ズルヲ稱トナリタリ。
(ニ)大化革新以後班田收授ノ法ニヨリ國民ニ分チツクラシメタル田ヲイフ、六歲以上ノ男ニハ二段、女ニハソノ三分ノ二。

(ホ)直衣　(ヘ)羽林　(ト)夕ばえ　(チ)志學の年　(リ)止鵲　(ヌ)十善の君　(ル)おほけなく　(ヲ)たつき　(ワ)みもすそ川の流　(カ)うつし心　(ヨ)理想（三七）

六　俗語ならぬ『なか〳〵』といふ副詞を用ひて短文を作れ。（三八）

七　さくら咲く比良の山風吹くまゝに、花になりゆく志賀の浦波（三八）

(ホ)古代服ノ一、至尊ヲ始メ奉リ、貴人ノ平服タリシモノ。
(ヘ)近衛府ノ唐名。
(ト)夕日ノ光、物ニ映ジテ美シキヲイフ。
(チ)十五歲。論語ニ「吾十有五ニシテ學ニ志ス」ト見エタリ。
(リ)二位三位ノ典侍ノ稱ニイヒ又洽ク身分貴キ婦人ヲモ稱ス。
(ヌ)天子ヲ申シ奉ル。佛家ニテ前世ニ十善戒ヲ保タレタルヲヌ天子ニ生レラレタリト云フヨリ起ル語
(ル)身分不相應ニ、分限モ知ラズ等ノ意。
(ヲ)テヅテ、方便、タヨリ等ノ意。
(ワ)天照大神ノ御子孫ナル天皇ノ御系統ヲイフ。（前出）
(カ)顯心ニテ、平常ノ通リタシカナル心ヲイフ。
(ヨ)理性ニヨリテ最良ナリト想像セル目的、到達セントスル終局點ヲイフ。

解答　仲秋ハ無月ナルゾナカ〳〵ニ面白キ。面痩セ給ヘレドナカナカヤメカシウテ等。

解答　櫻花爛漫タル比良山上ニ風ガ吹キ渡ルト、ソレニツレテ琵琶湖ニ花ガチツテ、花ノ波ガヨセテクル、實ニ美シイ景色デアル。

八 (イ)株を守り、舟にきだつくるともがらには、說きあかさむよすがもなし。

(ロ)いざたまへ。たまあへる友のつどひなり。この月に、夜すがらのかたらひせむは、いかに。いざたまへ。

(ハ)京のならひ、なにわざにつけても、みなもとは、田舍をこそたのめるに、絶えて、のぼるものなければ、さのみやは、みさをも作りあへむ。念じわびつゝ、物、かたはしより、すつるが如くすれども、更に目みたつる人もなし。たま〳〵換ふるものは、金を輕くし、粟を重くす。乞食、道のへに多く、うれへ悲ぶ聲、耳にみてり。(三八)

參考 ○株を守り舟にきだつくる　共ニ人ノ愚ニシテ一事ニ拘泥スルヲイフ。韓非子ニ「宋人田ヲ耕ス者アリ、田中ニ株アリ兎走リテ株ニ觸レ頸ヲ折リテ死ス、因リテ其ノ耒ヲ釋テ株ヲ守リテ兎ノ再ビ觸ルルヲ待ツ、兎遂ニ復來ラズ」云々トアリ。又呂氏春秋ニ「楚人江ヲ涉ル者有リ、其劒舟中ヨリ水ニ墜ツ、遽ニ其舟ヲ刻ミテ曰ク是吾劒ノ從ツテ墜チシ所也ト、舟止リ其刻スル所ノ處ニ從ヒ水ニ入リ之ヲ求ム」云々トアリ。コレラノ話ヨリ出デタル句ニテ、漢文ニ上ナルヲ守株トイヒ、次ナルヲ刻舟求劒トイフ。

解答 (イ)復兎ヲ捕ヘヤウトシテ株ヲ守リ、ココカラ物ヲ落シタトテ舟ニキダツケルトイフ、融通ノキカナイヨカラズ家ノ連中ニハ、イツテキカセル事モ出來ナイ。

(ロ)サアイラツシヤイ。心ノ合ツタ友人ノ會合デアル。コノ月ニ對シテ、夜通シ話スノハ如何デス、サアイラツシヤイ。

(ハ)京ノ習ハシトシテ、何事ニツケテモ、ソノ源ハ田舍ヲタノミトシテ居ルノデアルノニ、絶エテ、上ツテ來ルモノモナイノデ、サウサウ、品格ヲ保ツテバカリモ居ラレナイ。モウ我慢ガシキレナクナツテ、物品ヲ片端カラ丸デ捨テル樣ニシテ賣ツテモ、一向、見タテテ買ハウトスル人モナイ。タマニ交換デモスルト、金ハ輕ク見テ、五穀ノ方ヲ重クスルトイフ有樣デ、乞食ハ道傍ニ澤山居リ、憂ヒ悲ム聲ハ、耳ニ充チ溢レル程キコエテキル。

九 小川の漣漪にも岳影皺み、千本松原の露隕つる處、欹帆風帆皆清灣に涵せるこの高根の上を行き、搢紳の別墅の楣間を照す紫嵐の色は、又尋常一樣の家に入る。(三九)

參考 ○漣漪　漣猗トモカク、小波也。　○紫嵐　嵐ハアラシノ外ニ山ヨリ立昇ル水蒸氣卽チ山氣ノ意ニモイフ也。

注意 本題及以下三問中左側ニ‖線ヲ附シタルハ問題ニ「特ニ假字ヲ添ヘヨ」トアルモノ、其餘ノ假名ハ例ノ參考ト知ルベシ。

解答 小川ノサザ波ニモ山岳ノ影ガ皺ニナツテ寫リ、千本松原ノ露ノオチル處ニハ、大キナ美シキ帆、風ヲ一杯ニ孕ンダ帆ガ、皆清キ灣ニ映ジタ此山ノ上ヲ進ンデ行キ、紳士ノ別莊ノ梁ノ間ヲ照ス紫ノ山氣ノ色ハ、又普通一般ノ家ニモ入ツテ來ル。

一〇 あまの住家ばかりあはれなるはなし。繪にかきすさびたるなどは、なか〳〵にをかしきものから、さて住みなばなに心ちかせまし。(三九)

參考 ○書きすさびたる　すさびハ興ノ進ム意、興ニ乘ジテ書ク、興味深ク書キナス等ノ意。　○ものから　モノ

解答 漁夫ノ住家位趣ノ深イモノハナイ。繪ニ書キ興ジタノナドハ仲々面白イモノノ、サテカウシテ住ンデ見タラバ又ドノ樣ナ心持ガスル事デアラウカ、サゾ寂シク心細イ事ダラウ。

ナガラ、モノノ等ノ意。

一一 (イ)まつ引いて、追ひざまに、筈の隱るゝ程射こみたり。

(ロ)大童になりて、鎧の袖、草摺ちぎり捨て、面も振らず割つて入る。(三九)

參考 ○追ざまに　後ヨリ、追懸ケテ等ノ意。　○筈　矢ノ尖端ノ弦ニアタル所ナイフ。　○大童　髪ノ結目解ケテ亂ルルコト。　○草摺　鎧ノ腰ニ分レテ垂ルル短キ裾ナイフ。

一二 吉野山こその栞の道かへて、まだ見ぬかたの花をたづねむ。(三九)

參考 ○こその栞の道かへて　栞ハ山ニ入ルモノノ野路ヲ忘レザラム爲メニ枝ヲ折リテ覺エトスルナイフコト前ニモ說ケリ。ココハ單ニ今年ハ又去年トハ別ノ方面ノ路ヲ訪ネテトイフ丈ケノ意也。

一三 (イ)逆旅　(ロ)連歌　(ハ)儲の君　(ニ)里内裏

解答 (イ)逆ハ迎也、宿屋、旅宿ナイフ。　(ロ)三十一文字ノ歌ヲ上ノ句下ノ句ト分チ二人シテ應答シテ作ルモノナイフ。　(ハ)皇太子ノコト。　(ニ)昔、内裏ニ故障ナドアルトキ、天皇ノ一時移リ住ミ給ヘル御所ナイフ。

(ホ)矢束　(ヘ)宣命　(ト)遣水　(チ)古今集(四〇)

一四 (イ)まだきに　(ロ)ほとほと　(ハ)さうざうし　(ニ)やなぐひ　(ホ)かづけもの　(ヘ)あらましごと(四〇)

一五 久かたのひかりのどけき春の日にしづ心なく花の散るらん。(四〇)

一六 げにや、廬生が見し榮華の夢は五十年、其の邯鄲の假枕、一炊の夢のさめしも、粟飯炊ぐ程ぞかし。あはれや、げにも、われも、

解答 (イ)時ニ先ダツテ、夙ニ、兼ネテ等ノ意。　(ロ)殆ンドトイフニ同ジ。　(ハ)寂シキコト、淋ゝしノ音便也。　(ニ)矢ヲ盛リテ背負フ具。　(ホ)纏頭也、謝勞、褒賞等トシテ人ニ與フルモノ。　(ヘ)心ニ豫想シオク事ノ意。

解答 日ノ光モユツタリトノドカナ春ノ日ニ、何故、花ハアノ樣ニ靜カナ心モナク遽テテ散ツテ了フダラウ。

解答 實ニ、廬生ノ見タ榮華ノ夢ハ五十年間ノ事デ、其邯鄲ノ旅ニアツテウト眠ツテ見タ夢ノ覺メタノモ、只粟飯ヲ焚ク間ノ事デアツタ。アア、實際、自分モ寢テ、夢

(ホ)矢ノ長サヲイフ、束ハ一握リノ長サ也。　(ヘ)古、立后、立太子、大臣ノ任命等ノ時ノ勅語ヲ古文ノ風ニ書キタルモノノ稱也。　(ト)流水ヲ塞ギ導キテ、庭ノ面ナドヲ流シ遣ルモノ。　(チ)延暦五年、紀貫之等ノ勅ヲ奉ジテ撰ミタル歌集ノ名。

うちも寢て、夢にも昔を見るならば、慰むこともあるべきに、のう御覽せよ、かほどまで住みうかれたる、故郷の、松風寒き夜もすがら、寢られねば夢も見ず、なに思ひ出のあるべき。（四〇）

參考 ○廬生が見し榮華の夢　榮達ノ情ニ眷戀タリシ廬生ガ、邯鄲ノ道中ノ邸舍ニテ道士呂翁ニ遭ヒ、靈中ノ枕ヲ受ケテ熟睡シ、生涯榮達ノ經歷ヲ夢ミ年八十ヲ逾エ病ミテ斃ズルニ至リテ覺ムレバ、舍ノ主人ガサキニ蒸シキタル黍ノ未ダ熟セザル程ナリキトイフ話、枕中記ニ見ユ。邯鄲の夢、一炊の夢ナドノ如ク、世ノハカナキヲ云ヘル熟語ハ、皆此故事ニ基ヅケル也。○住みうかれたる故郷　住浮レニアラズ、住ミ憂シノウヨリ冬枯ナドノ枯ニ移リ、荒涼タル意ヲキカセタルモノト見ユ。又故郷ハ昔都ナドアリテ榮エシ地ノ衰ヘサビタルニモイフ、ココニモソノ意ヲコメテ讀ミ味フベシ。

一七 海老は浪に泳ぎ、愚老は汀にたゞよふ共に老いて腰かがまる。汝は知るや、生涯浮べる命いくほどぞ。吾は知らず、幻中の一瞬の身。（四一）

解答 海老ハ浪ニ泳ギ、愚老ハ水際ニ漂ウテヰル。共ニ年寄ツテ腰ガマガツテヰル。汝ハ知ツテ居ルカ、生涯浮ベル身ノ命ノ長サドノ位アルカトイフ事ヲ。自分ハ一向分ラヌ、實ニマボロシノ中ニマタタキスル程ノ身ノ命イツマデツヅク事ヤラ。

一八 ひとりともしびの下に文をひろげて、見ぬ世の人を友とするこそ、こよなうなぐさむわざなれ。文は文選のあはれなる卷々、白氏文集、南華の篇。この國の博士どものかけるも、いにしへのには、あはれなること多かり。（四二）

參考 ○文選　梁ノ昭明太子ノ撰ニ係ル大部ノ文集。

解答 獨リ燈火ノ下ニ書物ヲヒロゲテ、見タ事モナイ世ノ人、即古人ヲ友トスルノハ、實ニ無上ノ慰メトナル事デアル。文ハ文選ノ面白イ卷々、白樂天ノ文集、莊子ナドガ一番ヨイ。我ガ國ノ博士タチノ書イタノモ、昔ノモノニハ趣ノ深イ事ガ澤山ニアル。

○南華の篇　莊子ノ書ヲイフ。唐ノ玄宗ノ時、莊子ヲ封ジテ南華眞人トナシタレバカクイフ也。

一九 (イ)ひれふす
(ロ)調度
(ハ)斧の柄もくたしつべし
(ニ)竹の園生
(ホ)うなゐ（四三）

參考 ○斧の柄もくたしつべし　くたすハ腐ラス也、くだすト濁リテヨム可カラズ。コレハ晉ノ樵夫王質トイフモノ、山ニ入リテ木ヲ伐ルニ、二童子ノ棋ヲ圍ムヲ見、ソノ面白サニ見トレテアル程ニ、イツカ斧ノ柄朽チテアリキトイフ

解答 (イ)平伏也、下タクナリテ伏スコト。
(ロ)手マワリノ小道具ヲイフ。（前出）
(ハ)非常ニ興味ガアルタメ、餘事ヲ忘レ時ノタツノモ知ラズニ居ルガラウノ意。
(ニ)親王、皇子ノ異名也。
(ホ)モト幼者ノ頂ニ垂ルル髮ヲイヒ、後ニハオモニ童男童女ノコトニイヘリ。

故事ニモトヅケル也。　○竹の園生　梁ノ王子孝王ガ竹園ニ居リシ故事ヨリ出デタル語。

解答　奈良ノ都ハ荒レハテテ了ツテ、寺ノ建物バカリガ空シク昔ノ名殘ヲ留メテキルシ、鎌倉ノ府ハ衰廢シテ了ツテ、亡魂空シク雨ノ夜ニ泣クトイフ有樣デアル。アア時勢ハ水ノ流ノ如ク一タビ逝イテハマタ還ツテ來ヌ、人間ノ富貴モ果シテドレ丈ケノ間デアルカ。吉凶禍福交々往カフ内ニ、歳月ハ徒ニスギ去ツテ、人生榮華ノ夢モ早クサメハテテ了ツタノデアル。

二〇　青土よし奈良の都は荒れはて丶、伽藍徒に古の名殘を留め、星月夜鎌倉の府は廢れ盡して、陰鬼空しく雨に哭す。あゝ東流の水一たび逝いて復歸らず、人間の富貴果して幾時ぞ、塞翁が馬上歳月徒らに過ぎて、邯鄲の枕頭芳夢早くさめぬ。（四二）

参考　○青土よし　奈良ノ枕詞。　○伽藍　梵語ナリ、寺ノコトニテ譯シテ精舍トイフ。　○星月夜　モト星ノ輝キテ月夜ノ如ク見ユルヲイフ語ナルガ、又鎌倉ノ枕詞ノ如クニモ用ヰラル。ココナルモ然リ。　○東流　川ヲイフ、支那ノ地勢ハ東低ク川皆東流スルヲ以テ川ヲ東流トイフ也。　○塞翁が馬上　人間萬事塞翁ガ馬トイフ諺ニヨリテ書キタルモノニテ、人生禍福ノハカリガタク定ムベカラザルヲイフ。　○邯鄲の枕頭　四十年度ノ項ニ詳註セリ。

解答　遠ク千里ヲ隔テテ居リマスケレド、多年直接眼前ニイロ〳〵御話申ス樣ナ心持ガ致サレマスノデ、誠ニ唐突デハ御座イマスガ、新年ノ御祝詞ヲ申上ゲマス。

二一　千さとをへだて侍れど、こゝらの年月まのあたりかたらひかはし侍る心ちせらるゝままに、うちつけたるものから、立きかへる年のほぎ言聞え侍り。（四二）

参考　○ここらの　多クノ、澤山ノ等ノ意。　○うちつけたるものから　卒爾デハアルガ、藪カラ棒デハアルガ等ノ意。スベテうちつけにトイフ副詞ハ、俄ニ、急ニ等ノ義ニ用ヰラルルモノト知ルベシ。

二二　薄くこく野邊のみどりの若草にあとまで見ゆる雪のむらぎえ。（四二）

参考　○むら消　斑ニ消エタコト、一齊ニ消エズ、消エ殘リタル所モアリシナイフ。草ノ濃キハ雪ノ早ク消エシ所ヲ後マデキエノコリタル所ト、雪ノ全ク無クナリタル後マデモ、草ノ色ニヨリテ、ソノ雪ノ斑ニ消エタル有樣ガヨクワカルト也。

二三　(イ)ゆくりなく出で立つ
(ロ)うつろふ花の色
(ハ)なか〳〵に興あり
(ニ)あからさまのふるまひ
(ホ)所せきありさま
(ヘ)上のをのこ
(ト)御幸
(チ)腹卷

解答　(イ)不意ニ出立シタ。
(ロ)散リギハニナツテ變ル花ノ色。
(ハ)却ツテ面白味ガアル。
(ニ)一寸シタ行爲、カリソメノ擧動。
(ホ)窮屈ナ樣子。
(ヘ)殿上人、昇殿ヲ許サレタル人。
(ト)上皇ノ外ベ出デ行カセ給フコト。
(チ)甲ノ一種ニテ、鎧ノ下ニ重ネテ着又ソレダケヲモ着用シタル一種ノ武具。腹ニ卷キ着中ニテ引合ハスル樣ニ作レルモノ也。

(リ)かづけ物
(ヌ)閼迦棚（四二）

參考 ○御幸 みゆきトモ讀ムベシ。天子ノ外ヘ出デ行カセ給フヲ行幸トイヒ、皇后、東宮ニハ行宮ト云フ。コレト區分センガ爲メニ、上皇ナルヲ御幸ト書キ分ケ、音讀スルヲ常トセル也。

(リ)纏頭也、謝勞、褒美等トシテ人ニ與フル者。（前出）
(ヌ)佛ニ供フル水ナドヲノセオク棚。

文法之部

本書所用 略語一覽

名……名詞	主……主語	下一……下一段活用	
代……代名詞	述……述語	上二……上二段活用	
形……形容詞	客……客語	下二……下二段活用	
動……動詞	補……補語	加變……加行變格活用	
副……副詞	修（形）……修飾語（形容詞）	佐變……佐行變格活用	
助動……助動詞	修（副）……修飾語（副詞）	奈變……奈行變格活用	
助……助詞	四段……四段活用	良行……良行變格活用	
咏……咏嘆詞	上一……上一段活用	自、他……自動詞、他動詞	

大學豫科及各地高等學校

一 品詞上及文章上ヨリ左ノ二文ヲ解剖セヨ

(イ)學びて時に之を習ふまたよろこばしからずや
(ロ)身を立て道を行ひ名を天下に揚ぐるは孝の終なり（三五 豫備）

解答 (イ)マヅ品詞上ヨリ解剖スル事下ノ如シ。

動　助　名　助　代　助　動　副　形容動詞　助動助
學び　て　時　に　之　を　習ふ　また　よろこばしか　ず　や

よろこばしからハ形容詞ノ副詞法よろこばしくヨリ其行變格ノ動詞ありニ連續シ、くあノ約リテかトナリタルモノニテ、之ヲ「其行轉用格」ナド稱スル文法家モアリ。

次ニコレヲ文章上ヨリ解剖スル時ハ左表ノ如キモノトナル。

形容詞

主	客	述	修(副)	客	述	主	修(副)	述
(人)ハ	(物事ヲ)	學びて	時に	之を	習ふ	(事モ)	また	たのしからずや

複文

(ロ)マツ品詞上ヨリ解剖ス

名　助　動　名　助　名　助　動
身　を　立て　道　を　行ひ　名　を　天下　に　揚ぐる

名　助　動　助　名　助　動
揚ぐる　こと　は　孝　の　終　なり

更ニ文章法ニヨリ解剖スレバ下ノ如シ

形容詞

主	客	述	客	修(副)	述	主	補	述
(人)ハ	身を	立て	道を	行ひ	名を	天下に	揚ぐる	(事)は

孝の終	なり

複文

二

左ノ文章ノ誤ヲ正セ但理由ヲシルスニ及バズ

弓を射らんとするものは姿勢を正しふし只一本の矢をもあだになせじと心をゆるむこと

(三五選拔)

解答　弓を射んとする者はまづ姿勢を正しいし只一本の矢をもあだになさじと心をゆるむること

參考　○射らん　射ハ上一段活用ノ動詞ナレバ、射んト改ムルナリ。　○正しふし　形容詞正しくノ音便ニテ、tadashi-ku=tadashi-u トイフ譯ナレバ、正しうト改ムベキナリ。但先年文部省ニテ公ニセル「文法許容ニ關スル事項」ニヨレバ、差支ナキモノト認メラレアル也。以下「許容案」ニ云々ト云フハ、皆コレヲ指セルモノト思フベシ。　○なじ　じハ否定ノ助動詞ナレバ、動詞ノ第一變化未然段ニ連ルベキナリ。而シテなずハ佐行四段活用ノ動詞ナレバ、當然なさじトアルベキ也。單ニせじトイフ時ノせハ佐行變格ノ動詞ナリ、混ズベカラズ。　○ゆるむこと　ゆるむハ下二段ノ活用ニシテ、ソノ連體段ハゆるむるタリ、而シテことハ體言ナレバ、卽ゆるむるト改メタル也。

三

左ノ動詞及助動詞ノ活用法ヲ示セ

教、報、す(動詞)、す(助動詞)　(三五選拔)

解答　教ハ波行下二段、報ハ也行上二段、すハ佐行變格ナリ。助動詞すノ活用ハ佐行下二段ノ如シ。今之ヲ表示スルコト下ノ如シ。

動	語 ＼ 活用 ＼ 活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
	教(テシ)	へ	へ	ふ	ふる	ふれ	へよ
	報(ムク)	い	い	ゆ	ゆる	ゆれ	いよ
	上二						
	下二						

詞	す	佐變	せ	し	す	する	すれ	せよ

助動詞	語／種類	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
	す	使役	せ	せ	す	する	すれ	せよ

四 左ノてにをはノ區別ヲ示セ

(イ)に、へ、　(ロ)だに、さへ、(三五選抜)

解答 (イ)にハへト等シク方角ヲ示ス助詞ナレドモ、ソノ指ス所明ラカニシテ、場所ノ觀念明確ナル場合、ソノ指ス所ノ或特殊ナル一點ニ限ル場合ニ用キラル。へハ之ニ反シ、モト邊ノ意味ニシテ、空漠ニ某ノ方角、ソノ邊ト指ス詞也。例ヘバ「東京へ出で高等學校に入學す」ノ如シ。

(ロ)だにハ最明瞭ナル或ハ低キ一ツヲ擧ゲ「マシテ他ノ物ハ云フ迄モナシ」トノ意ヲ表ハス詞ナリ。サレバ口語ノ「デサヘモ……ダノニ、マシテ」「ホンノ……位ナモノヲ」等ニ當ル場合多シ。さへハ之ニ反シ、モト添ノ意ニテ、有ルガ上ニ更ニ加ハル意ヲ示ス詞也。「日本文法の一はしだにわきまへざるものの、英語文法を云々せんがごときは、をこの業と云ふべし」「夜はいと暗きに、雨さへ降り出でたれば、その苦しさ云ばん方なし」

參考 ○に　此助詞ニハ、體言ニ連ナルベキモノト、用言ニ連ナルベキモノトノ二種アリ、ソノ内マタ幾多ノ類別アレド、カカル問題ニ在リテハ、元ヨリ之ヲ解答スベキ必要ナカラム。尚解答ニ於テ與ヘタルにトヘトノ區別ハ、只根

本ノ差違ヲ示セルモノニシテ、實際ニハ必ズシモ然ラザルガ如シ。

五 左ノ動詞ノ活用ヲ示セ　但シ一動詞ニシテ二種ノ活用アルモノハ各コレヲ示セ

とく(解)こる(懲)ひらく(開)うう(植)く(來)うかぶ(浮)けみす(閲)　(三六)

解答

語／活用	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
解	四段(他)	か	き	く	く	け	け
	下二(自)	け	け	くる	くる	くれ	けよ
懲	上二	り	り	る	る	れ	りよ
開	四段(他)	か	き	く	く	け	け
	下二(自)	け	け	くる	くる	くれ	けよ
植	下二	ゑ	ゑ	う	うる	うれ	ゑよ
來	加變	こ	き	く	くる	くれ	こよ
浮	四段(自)	ば	び	ぶ	ぶ	べ	べ
	下二(他)	べ	べ	ぶ	ぶる	ぶれ	べよ
閲	佐變	せ	し	す	する	すれ	せよ

六 例ヲ擧ゲテ左ノ助動詞及ビてにをはノ用法ヲ示セ

る　さす　べし　や　か（三六）

解答

助動詞
- る……受身ノ意ヲ表ハシ　四段活用、奈變、良變ノ未然段ニ接ス　押さる、死なる、有らる。
- さす……使役ノ意ヲ表ハシ　四段活用、奈變、良變以外ノ未然段ニ接ス　着さす、受けさす。
- べし……推量、義務、能力、命令等ノ意ヲ表ハシ　良變ノ連用段、其他ノ各動詞ノ終止段ニ接ス　彼も來べし（推量）、國民たるものは皆兵役に服すべきなり（義務）、三尺の屏風も飛ばば越ゆべし（能力）、明日午前九時出頭すべし（命令）

助詞
- や……疑問ノ辭　動詞、形容詞及助動詞ノ終止段ニ接ス　押すや、來や、美しや、べしや。
- か……疑問ノ辭　動詞、形容詞及助動詞ノ連體段ニ接ス　死ぬるか、するか、美しきか、べきか。

參考　るノ轉シテ敬相トナリ、や、かニ咏嘆ノ意アル等、説クベキ點、コレ以外ニ甚多カレド、答案トシテハ、元ヨリソノ要ナキコトナルベシ。又や、かノ辭、文中ニ在ル時ハ、共ニ用言ノ連體段ニテ結ブヲ通則トス。春や來る、鳥やなく。誰かある、何事かあるべき。ノ如シ。序手ニ記憶シ置クベキ也。

七　左ノ文中ノ誤ヲ正セ但シ理由ヲシルスニ及バズ

事を企つ者の艱苦に堪えかねてついに果さずなりぬるこそさばかりの心にいかで思ひ立ちけめとおぼゆ、（三六）

解答　事を企つる者の艱苦に堪へかねてついに果さずなりぬるこそさばかりの心にいかで思ひ立ちけんとおぼゆれ。

參考　○企つ　下二段活用ニシテ、連體段ハ企つる也。　○堪え　波行下二段活用ナレバ堪へト改ム。絶えハ也行下二段也、マギル可カラズ。　○こそ……けれ　係結ハ前後ノ呼應ナレバ必ラズソノ間ニ思想ノ連絡アランコトヲ要ス。今此文ヲ一考セバ、なりぬるこそ『さばかりの心にていかで思ひ立ちけむ』とおぼゆれニシテ『　』中ハ一個ノ挿入文タルニ止マリ、「ナツタノチハ　何々ト　思フ」ノ形式ニシテ、なりぬると思ひ立つトノ間ニハ、何等思想ノ連絡ナキ事ヲ知ルベシ。要スルニ主文ノ係ノ挿入文ニ及バズトイフ原則ヲ記憶セバ足レリ。尚次ノ例ヲ見バ更ニ明瞭ナラム。

(1) 君こそ「千代に」と歌ひけれ　君カ、歌ツタ、「千代ニ」ト　也。

(2) 「君こそ千代に」と歌ひけり　「君ハ千代ニマシマセ」ト或者ガ歌ツタ　也。

(2)ノ場合ハ係こそニ對スルましませ等ノ結ガ畧セラレテアルモノ也。

八　ハタラク語トハタラカヌ語トノ區別ハイカニ　「あめ」（雨）ガ「あまぐも」「あまやどり」等ニ於イテ「あま」トナル如キハ如何ニ説明セラルベキカ（三七）

解答　ハタラク語　動詞、形容詞、助動詞等語尾變化アルモノ。

ハタラカヌ語　名詞、代名詞、副詞、助詞、咏嘆詞等語尾變化ナキモノ。

あめ（雨）ガ　あまぐも」「あまやどり」等「あま」トナルハハタラクニアラズ、音ノ轉化スル也、音便也。古來同行ノ音轉ナドイヘド、ame-gumo＝ama-gumo；ame-yn-dori＝ama-yadori ノ如ク、發音上ノ便宜ニヨリ母音ノ旋化セル者ト説カ

バ、最モ明カナラム。

九 左ノテニヲハノ意義ヲ説明セヨ

ながら　で　せば　（三七）

解答 ながら　(一)ゴト、ゴメ等ノ意　柿を皮ながら食ふノ類。(二)ト同時ニノ意　道を歩きながら書をよむノ類。(三)ニモ係ラズノ意　口に道徳を稱へながら行は禽獸にも劣れりノ類。

で　ズシテノ意ニテ、否定助動詞ずト助詞てトノ連結セルモノト見ユ。學校にも行かで遊び居るはいかにぞやノ類也。

せば　せハ左行變格動詞ノ未然段、左行下二段ノ未然段、四段活用ノ已然段、若クハ助動詞すノ未然段ニシテ助詞ニアラズ、ばハ用言ノ未然段ニ接シテ未定ノ條件ヲ表ハシ、ソノ已然段ニ接シテ既定ノ條件ヲ示ス助詞也。

勉強せば　見せば……未定

推せば　見渡せば……既定

參考 要スルニせハ助詞ニアラズ、ばハ條件法ノ助詞也。せばト熱ストモ之ヲ一攫ニ助詞トハ稱スベカラズ。或ハ又、絶えて櫻のなかりせば、夢と知りせばノせばヲ指セルモノカ。サレド、ソノせモ、大槻博士ノ云ハルル如ク、過去ノ助動詞しかニ對スル將然トナスヲ可トナスベク、トマレカクマレせばハ助詞ニハアラザル也。

一〇 左ノ例中誤謬アルモノアラバ訂正スベシ　但シ説明ヲ要セズ

(イ)病せし人　きならせし衣　言ひいだせし折　かたりつくしし時

(ロ)秀吉答へて言ひけらく彼の國人をしてわがいろはを用ゐしめむのみといふ

殿下のしか言ひし由御伴の人ぞのたまひし

さばかり強からむとはいかで思ひ寄らるべしと驚き合ひにけり　（三七）

參考 (イ)病せし人(正シ)　きならしし衣　言ひいだしし時　かたりつくしし時(正シ)

(ロ)秀吉答へていひけらく彼の國人をしてわがいろはを用ゐしめむのみと

殿下のしかのたまひし由御伴の人ぞ言ひし

さばかり強からむとはいかで思ひ寄らるべきと驚き合ひにけり

參考 (イ)しは過去ノ助動詞ニシテ、左變ノ未然段、其他ノ動詞ノ連用段ニ接スベキ者タリ、而シテ病せハ佐變、他ハ悉ク四段活用ナルヲ思ハバ、訂正ノ理由自ラ明カナルベシ。(ロ)ノいひけらくハいひけるノ延音ニテ、下ノいふトハ時相合ハズ、且今日ノ普通文トシテハ、斯ク上下ニ同一義ノ語ヲ重出スルコトヤヤ穩當ナラズ見ユレバ、下ノいふヲ取去リタル也。尚上ニ曰ふ、曰ひけりノ如ク終止法ヲ用ヰアル時ハ下ニと字ヲ添ヘテ之ニ應ズベク、曰く、曰ひけらく等中止法ナル時ハソノ必要ナシトノ論、一般ニ行ハルルモノノ如クレド、必ズシモ拘ハルノ必要ヲ認メズ。殿下の云々ハ敬語ノ用法ヲ誤レルモノナリ。最後ナルハ、上ニいかでトイフ疑問ノ副詞アリ、其下ニかトイフ疑問助詞ノ省畧セラレアルコト云フマデモナシ。コノかニ對スル呼應トシテ、下ヲべきト連體法ニ改メタル也。

一一　左ノ文中ヨリ活用スル品詞ヲ摘出シテ一々其語尾ノ變化ヲ示セ

をさなかりし時より御身に養はれ且敎へられたる恩は永くわすれぬぞ　（三八）

解答

語 ＼ 品詞 ＼ 活用	活段 未然	連用 終止	連體 已然	命令
をさなかり　形容動詞	良變轉用	から	かり	かる	かれ	かれ
し　助動詞	（時）	○	○	き	し	しか	○
養は　動詞	四段	は	ひ	ふ	ふ	へ	へ
れ　助動詞	（受身）	れ	れ	る	るる	るれ	れよ
敎へ　動詞	下二段	へ	へ	ふ	ふる	ふれ	へよ
られ　助動詞	（受身）	られ	られ	らる	らるる	らるれ	られよ
たる　助動詞	（時）	たら	たり	たり	たる	たれ	○
わすれ　動詞	下二段	れ	れ	る	るる	るれ	れよ
ぬ　助動詞	（否定）	ず	ず	ず	ぬ	れ	○

一二　左ノ例中傍線ヲ施セル部分ヲ説明セヨ

(甲)イ、われも行かなんロ、われも行きなん

(乙)雪深くつもりにければ道も知れざるに足に任せて行きにゆく　（三八）

解答　(甲)イわれも行かなんトロわれも行きなんトハなんガ未然（段行ヵ）ニ接セルト連用段（行き）ニ接セルトノ區別ニテ、行かなんノなんハ他ニアツラヘ望ム意ヲアラハス願望ノ助動詞ナリ、花も咲かなん、月も出でなんナドイフ。「何ヤシテ奥レレバヨイナア、何ヤシテ貰ヒタイナア」ノ意ナリ。サレバ本文ノ如ク自己ニ對シテカク云フハ如何アラム自己ニ對スルニハ「われも行かばや」トアルベキ也。行きなんノなんハ過去ノ助動詞ぬノ變化ナニ未來ノむノ添ハリタルモノニテ、即未來完了ノ助動詞也。「ソノ頃ハ私モ行ツテ居ルダラウ」ノ意ニ用ヰラレタルモノト知ルベシ。

(乙)ナルニハ一括表示スルヲ便トスベシ。

雪深くつもりにければ道も知れざるに足に任せて行きに行く

(1)現在完了ノ助動詞ぬノ變化。にけれト相接シテ過去完了ノ意ヲナス。積ツテ了ツタカラ、スツカリ積ツタカラ。

(2)助詞。「ニ因リテ」ノ意。又「ノニ」「ニモ係ラズ」ノ如ク、思フニ違ヒ事ノ反スル意ヲアラハス助詞トモ見ルベシ。

知レナイノデ、知レナイノニ。

(3)助詞。相對スルモノヲ指ス詞ナリ。

(4)助詞。重用セル動詞ノ中間ニ入リテ「又」ノ意ヲナセル也。ドシ〳〵ト行ク、ドコマデモ行ク。

一三　左ノ文ニ誤謬アラバ訂正セヨ但シ説明ヲ要セズ

(イ)一分の時さへ空しふ過すな

(ロ)思ひきやこゝにして汝に逢へりとは　（三八）

解答 (イ)一分の時だに空もう過すな
(ロ)思ひきやここにして汝に逢はんとは

參考 (イ)ニ關スル場合ハ既ニ詳說セリ。(ロ)ナル思ひきやハ「思ヒ掛ケヤウヤ」ノ意。而シテ思ヒ掛ケルトハ未來ニ起ルベキ事件ヲ想像スル働ヲイフ。サレバ、之ガ呼應トシテ下文逢はんとはノ如ク未來ノ形式ヲ用ヰルベキ事、元ヨリ論ヲ俟タザル也。

一四 左ノ文中ヨリ活用スル品詞ヲ擇ビテ一々ソノ語尾ノ變化ヲ示セヨ

名を外山といふ正木のかづら跡をうづめり谷繁けれと西は晴れたり觀念の便り無きにしもあらす　(三九)

解答

語 ＼ 活用	未然	連用	終止	連體	已然	命令
いふ（動詞 四段）	は	ひ	ふ	ふ	へ	へ
うづめ（動詞 四段）	ま	み	む	む	め	め
り（助動（時））	ら	り	り	る	れ	○
繁けれ（形容ク活）	く	く	し	き	けれ	○
晴れ（動詞 下二）	れ	れ	る	るる	るれ	れよ
たり（助動（時））	たら	たり	たり	たる	たれ	○

あら	動詞	良變	あら	あり	あり	あれ	あれ
ず	助動（否定）	ず	ず	ぬ	ね	○

參考 本文ノ例ノ如クうづむヲ四段活用トシテ用ヰルハ、古文ニ限ル事ニテ、今文ニテハ下二段活用ニ限ル。從ツテうづめりトハイフベカラズ、必ラズうづめたりトアルベシ。りトイフ現在完了ノ助動詞ハ、四段活用ノ已然段ニ限リ接スベキモノナル事ヲ忘ルベカラズ。

一五 左ノ文中傍線ヲ施セル部分ヲ說明セヨ

今日行かずば約束を守らぬになりぬべしとて雨ををかして出で行きぬ　(三九)

解答 第一ノぬハ否定ノ助動詞ずノ連體段ニシテ「守ラナイ事ニ」ノ意。第二及第三ノぬハ共ニ現在完了ノ助動詞ニテ、上ナルハ「ナツテ了ウダラウ」、下ナルハ「出デ行ツタ」「出テ行ツテ今ココニハ居ラヌ」等ノ意ナル也。

一六 左ノ三語ノ意義ヲ說明セヨ

散れば　散りなば　散りたりせば　(三九)

解答 散ればハ四段活用散るノ已然段ニばトイフ條件法ノ助詞ノ添ハリタルモノニテ、既定條件ヲ表ハスモノト稱スベク、又順態既定前提法トモイハルベシ。「散ルカラ」ノ意也。
散りなばハ散リトイフ動詞ニ現在完了ノぬノ變化なが添ハリ、更ニ前述ノばノ添ハリタルモノナリ。而シテなハぬれニ對スル未然法ナレバ、コノ語ハ「散ツテ了フナラ」ノ意ニテ、未來完了ノ條件法トモ稱スベキモノ也。

散りたりせばハ朝複雑ナリ。一應表示スレバ

散り（動詞ノ連用）＋たり（現在完了ノ助動詞）＋ば（條件ノ助詞）

トナル。コノ場合ノばハ未ダ一般ニ認メラルルニ至ラズ、せばヲ一ツノ助詞ノ如ク見ル人モアレド、大槻博士ノ説ニヨリ、表ノ如ク考フルテガ當レリトナスベシ。カクテ、散りたりせばハ「散ッテ了ッタナラバ」ノ意トナル、ヤハリ未來完了ノ條件法トモ稱スベカラム。

一七　左ノ文ニ誤謬アラバ訂正セヨ説明ヲ要セズ

(イ)荷も國家をして泰山の安きにおかむと欲せば國民たるもの豈自ら奮はざるべけむや

(ロ)人約束を違ふ時は信用を失ふべし（三九）

解答　(イ)荷も國家を泰山の安きにおかむと欲せば國民たるもの豈自ら奮はざるべけむや

(ロ)人約束を違ふる時は信用を失ふべし

又ハ人約束に違ふ時は信用を失ふべし

參考　違ふニハ二種ノ活用アリ、他動詞ナルハ下二段ニシテ、自動詞ナルハ四段活用ナリ。時ハ體言ナレバ之ニ接スルニハ連體段ヲ以テスベキコト論ナシ。故ニ他動詞ノ場合ハ違ふる時ハトイフベク、自動詞ノ場合ニハ違ふ時ハニテ可ナリ、約束ヲ云々トイヘバソノ下ニ他動詞ヲ用ヰルベク、約束ニ云々トイヘバ自動詞ヲ用ヰルベシ。コレ二樣ノ訂正ヲ爲シ得ル所以ナリ。

一八　左ノ詞ノ活用ヲ示セ

似る　沈む（自動詞）　沈む（他動詞）　絶ゆ　報ゆ　す　ぬ（終止ノ形）　同じ　深し

（四〇）

解答

語＼品詞	活用	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
似る	動詞	上一	に	に	にる	にる	にれ	によ
沈む	動詞（自）	四段	ま	み	む	む	めれ	め
沈む	動詞（他）	下二	め	め	むる	むる	めれ	めよ
絶ゆ	動詞	下二	え	え	ゆる	ゆる	えれ	えよ
報ゆ	動詞	上二	い	い	ゆる	ゆる	いれ	いよ
す	助動詞（否定）		す	す	ず	ぬ	れ	○
ぬ	助動詞（時）		な	に	ぬる	ぬる	ぬれ	ね
同じ	形容詞	シク活	じく	じく	じく	じき	じけれ	○
深し	形容詞	ク活	く	く	く	し	き	けれ

一九　左ノ文中ヨリ副詞ヲ摘出シ、且ツ其ノ副詞ハ何レノ語ヲ修飾（限定）セルカヲ告ゲヨ

ほと〳〵と折々叩く水鶏の聲いとあはれに聞ゆ　（四〇）

解答　ほと〳〵と＝叩くヲ修飾ス　折々＝叩くヲ限定ス　いと＝あはれヲ限定ス　あはれに＝聞ゆヲ修飾ス

二〇　左ノ文中ニ誤謬アラバ之ヲ正シ、且ツ簡明ニ其ノ理由ヲ說ケ

（イ）此の品に手を觸れるべからず

（ロ）任重ふして負擔に堪えず　（四〇）

解答　（イ）此の品に手を觸るべからず

（ロ）任重うして負擔に堪へず

べからずハ變格動詞ノ外ハ凡テ終止段ニ接スベキモノナリ。然シテ觸るハ下二段ノ動詞ニテ、其終止段ハ觸るナレバ、觸るべからずトナサザル可カラズ、觸れるトイフハ口語ノ活用也。重うしてハ重くしてノくノ音便ナレバぶトアルハ正シカラズ、但許容案ニテハ之ヲ是認セリ。堪へハ波行下二段、絶えハ也行下二段ナリ、堪えトアルハ此二者ヲ混ジ誤レルモノ也。

二一　左ノ文中ヨリ活用スル語ヲ摘出シテソノ語尾ノ變化ヲ示セ

（イ）飢うとも周の粟は食はじ

（ロ）人にして鳥にだも如かざるべけんや　（四一一高）

解答

語 ＼ 品詞活用	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
飢う（イ）	動詞 下二	ゑ	ゑ	う	うる	うれ	ゑよ
食は（イ）	動詞 四段	は	ひ	ふ	ふ	へ	へ
じ（イ）	助動詞（推量否定）	○	○	じ	○	○	○
如か（ロ）	動詞 四段	か	き	く	く	け	け
ざる（ロ）	助動詞（否定）	ざら	ざり	ざり	ざる	ざれ	ざれ

べけんハ助動詞べしノ變化べくヨリ良變ニ轉ジテべからトナリ、未來ノむガ添ハリテべからむトナリタルモノガ、更ニ一轉シテ成リタル語ニシテ、べけむトハ活用セズ。じハ別ニ活用ナケレド、助動詞ノ中ニ加ヘラルルモノナレバ、表示シ置ケル也。

二二　左ノ文ニ誤アラバ之ヲ正シ其理由ヲ略述セヨ

（イ）今の中に勉めずむば後に悔ゆれども及ばざらむ

（ロ）功を急ぎ過ちするな　（四一一高）

解答　（イ）今の中に勉めずんば後に悔ゆとも及ばざらむ

（ロ）功を急ぎて過ちすな

ずんばハずばトイフ假定條件法ノ撥音便ナレバずむばトハイフベカラズ。悔ゆともト改メタルハ上下スベテ假定法ナルニ呼應セントテ也。殊ニ況ンヤ「後に」トイフ未來ヲ意味セル副詞アルヲヤ、イカデ悔ゆれどもノ如ク既定ノ法ヲ用キテ可ナルベキ。すなハなハ指定命令ノ語ニテ動詞ノ終止段ニ附クベキモノ也、するなトアルハ連體段ニ附接セルモノニテ、ソノ誤レルコト云フ迄モナシ。

二三 左ノ文ヲ文章法ノ上ヨリ解剖セヨ

昨日は東に走り今日は西に走る（四一高）

解答

主	修（副詞）	修（副詞）	述	修（副詞）	修（副詞）	述
昨日は（余）	東に	奔り		今日は	西に	走る

二四 左ノ五語ノ活用ヲ説明セヨ

いく（「花を活く」ノ「いく」）　いく（長く生くべき人ノ「いく」）　あつらふ（「制服を誂ふ」ノ「あつらふ」）　かゞむ（「指を風む」ノ「かゞむ」）

いぬ（「遲く寢ぬ」ノ「いぬ」）（四一高）

解答

活用 / 語	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
活く	下二段	け	け	く	くる	くれ	けよ
生く	上二段	き	き	く	くる	くれ	きよ
誂ふ	下二段	へ	へ	ふ	ふる	ふれ	へよ
風む	下二段	め	め	む	むる	むれ	めよ
寢ぬ	下二段	ね	ね	ぬ	ぬる	ぬれ	ねよ

二五 左ノ文ニ就キテ傍線ノ語ノ性質（種類上ノ性質）ト意義トヲ説明セヨ

こゝろしたりせば　さるあやまちはあるまじかりけるものを、など、さは、こゝろゆるしたりけむ（四一二高）

解答

せば　時ノ過去ノ助動詞しかニ對スル未然段ト見ルベキせニ條件法ノ助詞ばノ添ハリタルモノニテ、「心シテ居ツタナラバ」ノ「タナラバ」ニ當ル意也。

さる　副詞ノ「然」（シカ）ガ變ハリニ移リ、約マリテ成リタル一種ノ形容動詞ニテ、「ソノ樣ナ」ノ意也。

まじかり　推量否定ノ助動詞まじノ連用段まじくヨリ、變ハリニ轉ジ、約マリテ成立セル語ニテ、「マジソアル」「アルマイノデアル」等ノ意。

など　副詞ニテ「何故ニ」「ナゼ」「如何シテ」ノ意也。

けむ　過去ヲ推量スル意ノ助動詞ニテけむ、けめト活用シ「記シタデアラウ」「許シタデアツタラウ」ノ意。

二六 左ノ文ニ誤謬アラバ訂正ヲ加ヘテ其ノ理由ヲ説明スベシ

(イ)年老いて、氣力大に衰へり。

(ロ)例のやまひ起りてやおくれたるなるべし。（四一二高）

解答 (イ)年老いて氣力大に衰へたり。
(ロ)例のやまひ起りてやおくれたるなるべき

(イ)リノ助動詞ハ四詞活用ノ已然段ニノミ接シテ現在完了ノ意ヲ表ハスベキモノ也。衰ヘハ下二段ナレバたりト改メザルベカラズ。(ロ)上ニやノ語アル時ハ、下ハ之ニ應ジテ連體段ニテ結ブヲ法トス。然ルニべしハ終止ノ形ナレバ、即べきト改メタル也。

二七　スベテノ過去ノ助動詞ノ活用ヲ示セ

第一活用	第二活用	第三活用	第四活用	第五活用	第六活用

（四一三高）

解答

第一變化	第二變化	第三變化	第四變化	第五變化	第六變化
て	て	つ	つる	つれ	てよ
な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね
たら	たり	たり	たる	たれ	
せら	せり	せり	せる	せれ	
*					

ら	り	り	る	れ	
けら	けり	けり	ける	けれ	
き			し	しか	
*					

＊せりハ名詞ニツキテ勉強せり、運動せる人等トナル。
＊りハ四段活用ニノミ接ス。

二八　左ノ傍線ヲ施セルやヲ説明セヨ

(イ)何くれといどむことに勝ちたるぞうれしきや
(ロ)かくいだづらに老い果てむとは思ひかけきや
(ハ)知らずさるためしいにしへにありきや否やを（四一三高）

解答 イヅレモ助詞ニシテ、(イ)ナルハ咏嘆ノや。(ロ)ナルハ反語ノや、(ハ)ナルハ疑問ノやナリ。

二九　左ノ文中ニ誤謬アラバ之ヲ正シ且ツソノ理由ヲ述ベヨ

天下の學生をして親しくかゝる大家の教を受けるの機會を得せしむるをうれば如何ばかりの奬勵とやなるべき（四一三高）

解答 天下の學生をして親しくかかる大家の教を受くるの機會を得しむるをえば如何ばかりの奬勵とかなるべき受くるハ下　段ノ動詞ナリ、受けるトイフハ口語ノ形ナレバ、文章語トシテハ誤リナリ。得ハ下二段ノ動詞、しむハ

未然段所屬ノ助動詞ナレバ得しむトアルベキ也。されば、既定條件法ノ言ヒ方也、前後ノ呼應上ココハ假定條件法ナラザル可カラズ、即チ、たらば、ト改メタル也。如何ばかりノ如キ上ニ疑問ノ副詞アル時ハ下ノかトイフ疑問助詞ヲ用ヰル法トス。

三〇 左ノ文ヨリ動詞、形容詞及ビ助動詞ヲ摘出シ、且ツ各ノ語尾活用ヲ示セ

湯本といふ所に泊りたるに山風烈しく吹きおとづれ谷川高く咽びて夜半の夢しばしば破れぬ（四一高）

解答

語 ＼ 活用	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
動詞	いふ	四段	は	ひ	ふ	ふ	へ	へ
	泊り	四段	ら	り	る	る	れ	れ
	おとづれ	下二	れ	れ	る	るる	るれ	るれよ
	咽び	四段	ば	び	ぶ	ぶ	べ	べ
	破れ	下二	れ	れ	る	るる	るれ	れよ
形容詞	烈しく	シク活	しく	しく	し	しき	しけれ	○
	高く	ク活	く	く	し	き	けれ	○

助動詞						
	たる	（時）	たら	たり	たり	たる	たれ	○
	ぬ	（時）	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ぬれ

ハ現在完了ノ助動詞ノ變化ナレド一般ニ助詞ノ内ニ加フルヲ以テ擧ゲズ

三一 (イ)ヲ受身（所相）ノ文ニ(ロ)ヲ使役ノ文ニ變ゼヨ

(イ)強盗山中にて旅人を襲ふ　(ロ)生徒日々課業を教師に受く（四一高）

解答 (イ)旅人山中にて強盗に襲はる　(ロ)教師生徒をして日々課業を受けしむ

三二 左ノ文ニ誤謬アラバ正シ且ツ簡明ニ其ノ理由ヲ說ケ

(イ)無用の事には關係せまじきものなり

(ロ)もし明日雨降れども彼は歸國すべし（四一高）

解答 (イ)無用の事には關係すまじきものなり

(ロ)もし明日雨降るとも彼は歸國すべし

(イ)まじきハ終止段ニ屬スベキモノナルニ、關係せハ佐變ノ未然段ナレバ、即チ關係すまじきト改メタル也。(ロ)もし明日ノ如キ未來ノ副詞ニ對シテハ、之ニ對スル動詞ノ法ハ、當然未來ノモノ、假定ノモノナラザル可カラズ、然ルニ降れどもハ既定逆態前提法ナレバ、之ヲ改メテ降るともトナシタル也。

三三 次ノ漢字ニ國訓ノ假名ヲ附セヨ

水、泡、扇、幸、男、（四一高）

解答　水、ミヅ　泡、アワ　扇、アフギ　幸、サイハヒ　男、ヲトコ

三四　左ノ文章中ヨリ活用語ヲ指摘シテ一々其活用ヲ表示スベシ

かれは貧困なりしかども先輩の同情を得てつひに成功せり（四一五高）

解答

語 ＼ 活用段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
*貧困なり（形容動詞 長變）	なら	なり	なり	なる	なれ	なれ
しか（助動詞（時））	○	○	き	し	しか	○
得（動詞 下二）	え	え	う	うる	うれ	えよ
*せり（助動詞（時））	せら	せり	せり	せる	せれ	○

解答　○貧困なりノなりハ花なり、鳥なりノ如キ指定ノなりトハ異ニシテ、貧困にトイフ副詞ヨリあり ニ接シタルモノト見ルベシ。This is a dag. He is poor. 等英語ノ例ト對照セバ、ヨクソノ區別ヲ悟リ得ベシ。

○成功せりチハ左變ノ成功せニリノ添ハレルモノト觀クモアランカ。サレドコノりハ四段ノ已然段ニノミツクヲ法トスル事、前ニモ述ベタル如クナレバ、ココナルハせりチ助動詞ト見做シ、ソレガ名詞ノ下ニ接シタルモノト見ルヲ可トナスベシ。

三五　左ノ施線ノ語ニツイテソレゾレ意義ノ異同ヲ述ベヨ

（イ）いざ行かむ　いざ知らず

（ロ）霞か雲かはた雪か　あしくはたあらざりけり（四一五高）

解答　（イ）いざ行かむノいざハ感嘆詞ニシテ「サア」「ドリヤ」等人ヲ誘フ時又ハ心ノ進ム時ニ發スル聲ナリ。いざ知らずハ題ノ誤ニテいざ知らずトアルベシ、コノいざハ、下ニ必ズ「知ラズ」ヲ承ケテ、「否」「ドウデアラウカ」等ノ意ヲナス副詞也。

（ロ）霞か雲かはた雪かノはたハ接續詞ニシテ「又」「或ハ」等ノ意。あしくはたあらざりけりノはたハ副詞ニシテ「亦」「ハヤリ」等ノ意ナリ。

三六　左ノ來ノ字ニ振假名ヲ附ケテ文法上ノ説明ヲ加ヘヨ

こゝに來なば　こゝに來な　こゝに來し時（四一五高）

解答　ここに來なば　ここに來な　ここに來し時

來ハ加變ノ動詞ニテこ、き、く、くる、くれ、こよト活ク。なばノなハ時ノ助動詞ぬノ變化ニテ連用段ニ接スベキモノ、なハ否定ノ副詞ニテ終止段ニ接スベキモノ、しハ過去ノ助動詞きノ變化ニテ、加變ニ限リ未然ト連用トノイヅレニモ接スベキモノナレバ、卽チ如上ノ假名ヲ得ル譯トナル也。

參考　過去ノ助動詞き、し、しかハ、一般動詞ノ連用段ニ連ナルモノニテ、只佐變ト加變トニ例外アレバ、特ニ之

ヲ記憶センコトヲ要ス。

佐變	爲	せ	シ、シカ	し	キ
加變	來	こ	シカ	き	シカ

勉强しトモイハズ、春ききトモイフ可カラザル也。

三七 理由ヲ附シテ左ノ文中ノ誤謬ヲ正セ

(イ)とやせんかくやすべしと案じわづらふ

(ロ)試驗を終ればひとまづ歸らむ (四一五高)

解答 (イ)とやせんかくやすべしと案じわづらふ

(ロ)試驗を終へばひとまづ歸らむ

(イ)とわづらふハ波行四段活用ノ動詞ナレバ、其終止ハふナラザル可カラズ、又其語根ノわづらニシテわづろニアラザル由ハわづらひたり、わづらはばナドイフベクシテ、わづろひたり、わづろはばトハ云フ可カラザルヲ見テ明カナラム。(ロ)ハ上ノ試驗をトイフ目的語ニ對シ、連語ハ自動詞終はるニアラズシテ、他動詞終ふナラザル可カラズ、又文ノ意未來ヲ表メズモノナレバ、終ればノ如ク既定條件ノ法ヲ用ヰル可カラズ、必ラズ未定ノ條件法ヲ用ヰルベキナリ。此二個ノ理由ヨリ終れば、ヲ終へば、ト改メタル也。

三八 左ノ動詞形容詞ヲ名詞ニ轉換セヨ

(おぼゆ、のどけし、おこなふ、つとむ、なれ〳〵し、(四一六高)

解答 おぼえ(覺) のどけさ(長閑) おこなひ(行) つとめ(勤) なれ〳〵しさ(慣やしさ)

三九 次ノ文ノ正否ヲ記シ誤レルモノハソノ理由ヲ略述セヨ

(イ)萬事に油斷するな

(ロ)萬事に油斷なせそ

(ハ)敵艦白旗を掲げり

(ニ)友人は神戸に行けり (四一六高)

解答 (イ)萬事に油斷すな(改)

(ロ)萬事に油斷なせそ(正)

(ハ)敵艦白旗を掲げたり(改)

(ニ)友人は神戸に行けり(正)

なハ終止段所屬ノ副詞ナレバするなトハイフベカラズ。りハ四段活用ノ已然段ニノミ接スベキ助動詞ナレバ揭げノ如ク下二段ノ動詞ニハ接スベカラズ。

四〇 次ノ「てにをは」及ビ助動詞ヲ一ツヅヽ用ヰタル文三ツヲ作レ

ども、こそ、じ (四一六高)

解答 たとへ雨風はげしくとも我は必ず行くべし

人はただ誠の道をこそ踏み行ふべけれ

明日雨降らばいづくへも行かじ

四一　左ノ文ニ誤謬アラバ訂正セヨ

(イ)若し不行屆なる儀之あり候へども御免下さるべく候

(ロ)明日雨天に候へば延期致すべき筈に候

(ハ)人誰かその身の幸福を希はざる者なからんや　（四一 七高）

解答　(イ)若し不行屆なる儀之あり候ふとも御免下さるべく候

(ロ)明日雨天に候ばば延期致すべき筈に候

(ハ)人誰かその身の幸福を希はざる者あらんや

參考　(イ)(ロ)ハ時ノ呼應ノ誤ナリ。(ハ)ハ反語ノ誤ニテ、原文ノ如クニテハ意ナナサズ、凡ソ反語ハ誰か、豈、や等反語トナル語ヲ取リ去リ、ソノ餘ヲ反對ニ解釋スベキモノナリ。コノ例ヲ以テスレバ、その身の幸福を希はざる者あらんノ反對ハ、その身の幸福を希はざるもの無からんトナル、二重ノ否定ハ肯定ナレバ、ツマリ誰も希ふ譯トナル也。

四二　左ノ二ツノ「にし」ノ差別ヲ説明セヨ

(イ)死にし兒顏よかりき　(ロ)露と消えにし命かな　（四一 七高）

解答　(イ)ナルにしハ死にトイフ動詞ノ連用段ニしトイフ過去ノ助動詞ノ接シタルモノ。(ロ)ナルにしハ現在完了ノ助動詞にニ過去ノしノ接シテナレル過去完了ノ助動詞也。更ニ表示スレバ　(イ)死に(動)＋し(過去)　(ロ)消え(動)＋にし(過去完了)　トイフ譯ナル也。

四三　左ノ文ヨリハタラク詞ヲ摘出シテソノ品詞ト變化トヲ示セ

武士のならひ身を戰場の塵となしはつる事珍らしくも候はず　（四一 七高）

解答

語 ＼ 活用	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
なし	動詞	四段	さ	す	す	せ	せ
はつる	動詞	下二	て	つ	つる	つれ	てよ
珍らしく	形容詞	シク活	しく	し	しき	しけれ	○
候は	動詞	四段	は	ひ	ふ	ふ	へ
ず	助動詞（否定）	ず	ず	ず	ぬ	ね	○

四三　左ノ文中ヨリ活用スル單語ヲ摘出シ其ノ如何ナル活用形（段）ニ屬スルカヲ示セ

世の少年、多くは唯眼前の事にのみ紛れて月日を過す、かくては終に一つも成す事なくして身は老いぬべし、なげかはしきいたりならずや。（四一 八高）

解答　多く＝形容詞連用段　紛れ＝動詞連用段　過す＝動詞終止段　成す＝動詞連體段　なく＝形容詞連用段　老い＝動詞連用段

ぬ＝助動詞終止段　べし＝助動詞終止段　なげかはしき＝形容詞連體段　いたりなら＝形容動詞未然段　ず＝助動詞終止段

四四 左ノ文ヲ文ノ成分ニ解剖セヨ

子どもは餘念なく鮒を追ふ池の鯉魚を見守る（四一八高）

解答

主 子どもは

修（副） 餘念なく

形容小句 客 鮒を 述 追ふ

修（形） 池の

客 鯉魚を

述 見守る

四五 左ノ文ノ中ニ誤謬アラバ之ヲ正シ且ツ簡明ニ其ノ理由ヲ説ケ

（イ）人才學なくば身を立て能はず

（ロ）既に中學の業を卒へるが故にまさに進むで高等の學校に入りたり（四一八高）

解答 （イ）人才學なくば身を立つる能はず

（ロ）既に中學の業を卒へたるが故にまさに進んで高等の學校に入らんとす

（イ）能はずハ「何々する事」ノ下ニ接シテ、ソノ事ノ不可能ナルヲ示ス語法ナレバ、事トイフ語ノ省畧セラレタル場合ニハ直ニ連體段ニ接スベク、一段普通ノ動詞ノ如ク、他ノ動詞ノ連用段ニハ接ス可カラザルモノタル也。（ロ）卒へハ下二段ノ動詞ナレバリハ之ニ接スベカラズ。進んでハ進みでノ鼻音便ナレバ進むでト云フハ宜シカラズ。まさにトイフ副詞ハ蓋シ漢字ノ「將」ニ當ルモノナルベク、未來ヲ意味スル語ニテアレバ、下文之ニ應ジテ入らんとすノ如ク改メザル可カラザル也

各地高等工業學校

一 左ノ文句ニ誤謬アリヤナシヤ

人の言ひ傳ふ所此の如し

業を終はりて後寢に就く

紳士とはいかなる人をいふや（三五東京）

解答 人の言ひ傳ふる所此の如し

業を終へて後寢に就く

紳士とはいかなる人をいふか

參考 傳ふハ下二段ノ動詞ニテ、其連體段ハ傳ふる也。終りハ自動詞ナレバ、目的語「業を」ニ對シ他動詞終へヲ用ヰザル可カラズ。業終はりて後トナストモ可也。最終ノ文ハ上ニいかなるトイフ疑問辭アルヲ以テ、下ハかヲ以テ之ニ應セザル可カラズ。

二 左ノ文ヲ次ノ區別ニ依リ解説スベシ

眞の豪傑は人の爲し難き事を爲すと同時に人情に篤く恩愛に濃やかなるものなり能く人に忍び世に戻るをのみ偉人の業と心得るは豪傑の半面を遺れたるものなり

（語格）品詞ヲ名稱ヲ記シ活用アル者ハ其活用式ヲ記セヨ

同時に、濃やか、忍び、心得る、

（文法）左ノ文ヲ文章法ニヨリテ解剖スベシ（右側ニ各名稱ヲ記セヨ）

能く人に忍び世に戻るをのみ偉人の業と心得るは豪傑の半面を遺れたる者なり（四一仙臺）

解答（語格）同時に＝副詞（名詞同時ニ助詞ニノ添ハレル合成副詞）　こまやか＝副詞（こまやかニトイフ語ノニガアリト結ビテなりトナリ語根ノ如キ形ドナリテ殘リタル者）

忍び＝動詞　心得る＝動詞（名動心ト動詞得トヨリナレル熟語動詞）

語＼活用	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
忍び	上二	び	び	ぶ	ぶる	ぶれ	びよ
心得る	下二	え	え	う	うる	うれ	えよ

（文法）單文ナリ。之ヲ解剖スレバ左ノ如シ。

形容小句（人ニ係ル）

修（副）能く　第二客　人に　述　忍び　第二客　世に　述　戻る　客（事）をのみ　修（形）偉人の　補　業と　述　心得る　主（人）は

形容小句（事ニ係ル）

修（形）豪傑の　客　半面を　述　遺れたる　補　者　述　なり

各地高等商業學校

一　左ノ動詞、助動詞ノ活用ヲ示セ

閉づ　閲す（けみす）　老ゆ（以上動詞）

ぬ　ず　めり（以上助動詞）（三八山口）

解答

語＼活用	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
閉づ	上二	ぢ	ぢ	づ	づる	づれ	ぢよ
閲す	佐變	せ	し	す	する	すれ	せよ
老ゆ	上二	い	い	ゆ	ゆる	ゆれ	いよ

語＼種類	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
ぬ	時	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	れ
ず	否定	ず	ず	ず	ぬ	れ	○
めり	推量	○	めり	めり	める	めれ	○

二　左ノ文中ニ誤リアラバ正セ但シ理由ヲ要セズ

（イ）過日某地を占領し、際の如きは若し敵にして尚一時間支えたれば、我れは止むを得ず退却するならむと思はるるなり

（ロ）敵はつゐに國を割ひて和を請ふたり（三八山口）

解答

（イ）過日某地を占領せし際の如きは若し敵にして尚一時間支へたらば我れは止むを得ず退却したりしならむと思はるるなり

（ロ）敵はつひに國を割いて和を請うたり

參考　漢字漢語ハ左行變格ニヨリテ動詞ノ働ヲナス、而シテしハ佐變ニ限リ未然段ニ接スベキ助動詞ナレバしし ニアラズシテせし也。推しトイフベク勉強ししトハ云フヲ得ズ、前者ハ四段後者ハ佐變ナレバ也。支へハ波行ノ下二段活用ニシテ也行ノソレニアラズ。指定ノなりハ連體段ニ接スベキモノ也。（ロ）ナルハ假名遣ノ誤ナリ。割いてハ Sabi-te=sai-te ノ如ク父音ノ省畧、請うたりハ Kobi-tari=kou-tari ノ如クびノ發音いノ如ク轉ジ更ニうトナリタル母音ノ旋化ナリ。

三　次ノ二例ニ於ケルぬヲ文法上ヨリ説明シ且活用ヲモ記スベシ

（イ）花咲きぬ　（ロ）來ぬ人を待つ（三八長崎）

解答

（イ）ノぬハ時ノ現在完了ノ助動詞ノ終止ニシテ（ロ）ノぬハ否定ノ助動詞ノ連體也。二者ノ活用次ノ如シ。

解答

活段／語	未然	連用	終止	連體	已然	命令
(イ)ノぬ	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	れ
(ロ)ノぬ	ず	ず	ず	ぬ	れ	○

四 次ノ文ニ誤アラバ之ヲ訂正シ理由ヲモ附記スベシ

(イ)朝はやく起きるは健康にも益あり

(ロ)學びてこそ人たる甲斐あらん（三八 長崎）

解答 (イ)朝はやう起くるは健康にも益あり

(ロ)學びてこそ人たる甲斐あらめ

(イ)はやうハ早くノ音便ナレバ早ふトハ云フベカラズ。起きるハ口語ノ法ナリ、文語ニテハ上二段ノ活用ヲナス語ナレバ起くるナラザルベカラズ。(ロ)上ニこそノ係アルヲ以テ下ハ已然段ニテ之ニ應ゼザル可カラズ。即チあらんヲあらめト改メタル所以也。

五 次ノ語ノ活用及ビ種類ヲ問フ

似る　樂し　消ゆ　べし　落つ（三八 長崎）

解答

活段／語	未然	連用	終止	連體	已然	命令
似る（動詞 上一）	に	に	にる	にる	にれ	によ
樂し（形容詞 シク活）	しく	しく	し	しき	しけれ	○
消ゆ（動詞 下二）	え	え	ゆ	ゆる	ゆれ	えよ
べし（助動詞 指定）	べく	べく	べし	べき	べけれ	○
落つ（動詞 上二）	ち	ち	つ	つる	つれ	ちよ

六 る、らる二助動詞ハ幾種ノ意義ニ用ヒラル、カ例ヲ擧ゲテ説明セヨ（三九 山口）

解答 るらるハ共ニ動詞ノ未然段ニ連ル助動詞ニシテ、(一)受身　(二)自然　(三)敬相　(四)能力ノ四種ノ意義ニ用ヰラル。

(一)受身　馬に蹴らる。人に押さる

(二)自然　故郷の事も思ひ出ださる。行末の事のみ考へらる。

(三)敬相　師の云はるるやう。召させらる。

(四)能力　三尺の屏風も飛べば越えらる。讀まば讀まるべし。

參考 自然トイヘルハ、自然ニサル働ノ起ル意ナレバ也。文法家ノ中ニハ之ヲ自所相トイヒ、又反照ナド稱スルモ

アリ。おハ四段、奈變、良變ノ未然段ニ連ナルベク、らるハ自餘ノ動詞ノ未然段ニ接スベキモノ也。

七 左ノ文中ニアルぬトイフ語ノ意義ト活用トヲ示セ

馬賊は露軍を恐れぬと見えたり（三九 山口）

解答 コヽノぬハ現在完了ノ助動詞ニシテ「恐レタ」ノタノ意也。活用次ノ如シ。

未然	連用	終止	連體	已然	命令
な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね

參考 コノぬヲ「ナイ」節否定ノ意ト考フ可カラズ。とハ終止段所屬ノ助詞也。若シ「ナイ」ノ意ナランニハ恐れずと見えたりト云ハザルヲ得ザル也。

八 左ノ文ニ誤アラバ之ヲ訂正シ併セテ其ノ理由ヲ述ベヨ

(イ)人にないひそ
(ロ)敎ゆれど覺へず
(ハ)春は去りて夏を迎へ(り)（三九 長崎）

解答 (イ)人にないひそ
(ロ)敎ふれど覺えず

(ハ)春は去りて夏を迎へたり

(イ)な……そハ相應ジテ否定ヲ表ハスモノニシテ、な……そトハ云フ可カラズ。(ロ)敎ふハ波行下二段活用ニシテ覺ゆハ也行下二段也、問題ノ文ハ之ヲ顚倒セルモノナリ。(ハ)りハ四段活用已然段ニ接スベキモノニシテ、迎へハ下二段活用ナレバ迎へりトハイフ可カラズ。

參考 春は去りて夏を迎へたりトイフハ上下主格ヲ異ニシ文ノ統一ヲ缺クヲ以テ「春を送りて夏を迎へたり」トナスベシト論ズルモアランカ。元ヨリ一理ナキニアラズ。サレド「春は去りて、世は新綠の夏を迎へたり」ナドイフ文ハ、日本文トシテ最普通ノモノニシテ、敢ヘテ不正トナス可カラザレバ、本題ノ文ノ如キ、亦必ズシモ破格トハ云フ可カラズ。

九 左ノ文章ヲ解剖スベシ（單文複文重文ヲ區別シ各ノ文又ハ句ニ就キテ省略セラレタル語ヲ補ヒ主語客語補語修飾語ヲ示セ）

堪忍は無事長久の基。怒は敵と思へ。勝つ事ばかり知りて負くる事を知らざれば禍其の身に至る。（三九 神戸）

解答 主 堪忍は 修(形) 無事長久の 補 基 述 (なり)
主 (人) 提示客 怒は 補 敵と 述 思へ

單文

單文

主	客	述	客	述	主	修(副)	述
(人)	勝つ事ばかり	知りて	負くる事を	知らざれば	禍	其身に	至る

複文

一〇 べしトイフ助動詞ハ、幾種ノ意義ニ用ヰラルルカ、例ヲ擧ゲテ之ヲ説明セヨ　(四〇 山口)

解答

べし
- (1) 推量(ダラウ)　彼は必ず及第すべし
- (2) 義務(ネバナラヌ)　國民たるものはみな兵役に服すべし
- (3) 能力(デキル)　三軍も帥を奪ふべし匹夫も志を奪ふべからず
- (4) 命令(ナサイ)　明日午前中に出頭すべし

一一 やかノ二辭ヲ左ノ二動詞ニ接續セシメ疑問語トシテ各二ヲ擧ゲ示セヨ

(甲)有り　(乙)無し　(四〇 山口)

解答

甲
- 有りや
- 有るか

乙
- 無しや
- 無きか

參考 本問題ニ「示セヨ」ノ語アリ、コノヨハ不用ナリ、示すハ四段活用ニシテ、示せハヤガテ命令ノ語ナレバ、更ニヨヲ加ヘンガ如キハ、上一、下一、上二、下二、加變、佐變ノ如クヨヲ要スルモノト紛パシク、全ク蛇足トイフベシ。但シ之ヲシモ「示セヨ」ト讀ムト云ハバ、コレ既ニ常識ヲ逸シタル所論ナリ、吾人マタ何ヲカイハン。

一二 次ノ文ニ誤アラバ訂正シ且ツソノ理由ヲ説明セヨ

洋服地と帽子の見本を送れ　(四〇 長崎)

解答 洋服地と帽子との見本を送れ　又ハ洋服地と帽子の見本とを送れ　とハ上下相應ズベキ助詞也。尤、許容案ニヨレバ紛ルルコトナキモノハ下ノとヲ省畧スルコトヲ得ベシト雖ドモ、本題ノ場合ノ如キハ最紛ハシキモノ也。即チ洋服地、帽子共ニ見本ヲ送レトノ意カ、ハタ、洋服地ハ地トシテ完全ノモノヲ要シ、帽子ハソノ見本ヲ要ストノ意ナルカ。甚ダ不明瞭ナルベシ。サレバ場合ニ應ジテ、解答ヲ訂正文ノ何ヅレカ一ツヲ擇バザル可カラザル也。

一三 次ノ(甲)(乙)二例ノ文法上ノ差異ヲ説明セヨ

(イ)(甲)知らむ　(乙)知るらむ

(ロ)(甲)寒くば　(乙)寒ければ　(四〇 長崎)

解答 (イ)ノ(甲)ハ動詞知るノ未然段知らニ未來ノ助動詞むノ接シタルモノ。(乙)ハ同ジキ動詞ノ終止段知るニ推量ノ助動詞らむノ接シタルモノ也。

(ロ)ノ(甲)ハ形容詞寒しノ未然段寒くニばトイフ條件ノ助詞ノ添ハリタルモノニテ假定順態前提法ナリ。(乙)ハ同ジキ形容詞ノ已然段寒けれニばノ添ハリタルモノニテ、既定順態前提法ナリ。

一四 次ノ四文中何レガ正シキカヲ説明セヨ

(イ)品物に手を觸れべからず

(ロ)品物に手を觸るべからず
(ニ)品物に手を觸れるべからず
(ホ)品物に手を觸るべからず　(四〇 長崎)

解答　(ホ)ノ文正シ。他ハ皆誤レリ。べし、べからずハ動詞ノ終止段ニ接スベキモノニシテ、觸るハ下二段活用ノ動詞也。(イ)ハ未然段ニ接シタルモノ、(ロ)ハ連體段ニ接シタルモノ、(ニ)ノ觸れるハ口語ノ活用ニシテ文語ノ活用ニアラズ、以上三者ノ過誤ナル事、自ラ明カナルベシ。

一五　左ノ文中ニ誤アラバ訂正セヨ

(イ)通劵所持の方は東の入口より入場さるべし
(ロ)御手數誠に恐入候も何分の御談判下されまじく候や
(ハ)昨日總勘定を終へたり
(ニ)右御推選申上度履歴書相添不敢取如此御座候匆々　(四一 長崎)

解答　(イ)通劵所持の方は東の入口より入場せらるべし
(ロ)御手數誠に恐入候へども何分の御談判下さるまじく候や
(ハ)昨日總勘定を終へたり
(ニ)右御推薦申上度履歴書相添不取敢如此御座候匆々

參考　(イ)ハ入場ヲ佐變ニ働カシ、らるトベシトノ二助動詞ヲ重ネ加ヘタルモノニテ、らるハ未然段ニ接シ、べしハ終止段ニ接スベキモノナレバさるるべしナドトハイフベカラズ。(ロ)ノ候もハ許容案ニヨレバ之ヲ正シト認ムベキモノナレドモ、尙在來ノ文法ニ從ヒ候へども ト云フヲ可トスベシ。まじハ終止段ニ接スベキ助動詞ナレバ下されまじくトハイフベカラズ。(ハ)終りハ自動詞也。勘定をトイフ客語ニ對シテ他動詞終へヲ用キザルベカラズ。(ニ)ハ文字ノ誤ナリ。

一六　例ヲ擧ゲテなむトイヘル詞ノアラユル用法ヲ示セ　(四一 山口)

解答　なむトイフ語ニ三種アリ
(一)なむ　(未來完了ノ助動詞　現在完了ぬノ變化なニ未來ノむノ添ハレルモノ)　やがて花も咲きなむ(咲クダラウ)
(二)なむ　(願望ノ感嘆詞)　とく〳〵花も咲かなむ(咲ケバヨイ)
(三)なむ　(第二係ノ助詞)　花なむ美しき。咲き揃ひたりとなむ

一七　左ノ文章ニツキテ語語ノ品詞ヲ辨別セヨ

月色銀の如しこの良夜を如何せん　(四一 山口)

解答　月色　名　銀　名　の　助　如し　助動　この　代　良夜　名　を　助　如何　副　せ　動　ん　助動

一八　左ノ文中ニ誤アラバ訂正セヨ

(イ)當日雨天なれば巡延の事と心得るべし

(ロ)負ふた子に敎るられて淺瀨を渡る
(ハ)乍遣感幣店にては御引受申兼候に付宣敷御容謝被下成度候（四二 長崎）

解答 (イ)當日雨天ならば順延の事と心得らるべし
(ロ)負うた子に敎へられて淺瀨を渡る
(ハ)乍遣感幣店にては御引受申兼候に付宜敷御容赦被成下度候

參考 (イ)ノ雨天ハ未完ノ問題ナレバならばナラザルベカラズ。心得らるト改メタルハ敬語トナシタル也。(ロ)ノ負うたハ負ひたノ音便、但許容案ニヨレバふニテモ宜シキ也。(ハ)ハ文字ノ誤。

一九 左ノ文ニ誤アラバ正セ

(イ)汝若し今にして斷然之を廢さずば後必ず悔ふる事あり
(ロ)我商店にては性質慧敏にして事務に通曉の者を要す
(ハ)我兵士よ讐へ殺戮さるまでも誓ふて敵に降服するな
(ニ)汝自ら爲しえざることは之を人に强ゆべからず（四二 山口）

解答 (イ)汝若し今にして斷然之を廢せずば後必ず悔ゆる事あらむ
(ロ)我商店にては性質慧敏にして事務に通曉せる者を要す

(ハ)我兵士よ假令ひ殺戮せらるるまでも誓うて敵に降服すな
(ニ)汝自ら爲しえざることは之を人に强ふべからず

參考 (イ)廢せハ佐變也、廢さトハイフベカラズ。悔ゆハ也行上二段也、波行ニアラズ。又後トイフ副詞ニ對シ、下ハあらむト未來形ヲ以テ之ニ應ズベキ也。(ロ)事務ニハ副詞ノ形ヲナスモノナレバ下ニ通曉すノ如ク動詞ナラザル可カラズ。(ハ)讐へハ比喩ノ意ナリ「カリニ」「ヨシヤ」等ノ意ニハ假令ノ字ヲ用キザルベカラズ。殺戮ハ佐變ニ活カス、從ツテ殺戮さるハ不可也。誓うてハ誓ひてノ音便ナレバふハ不可也。禁止ノなハ終止段ニ接ス、卽すなトイフベク、するなトハ云フ能ハズ。(ニ)强ふハ波行上二段也、也行ニアラズ。

各地高等農學校

一

(一)見るこそ樂しけれ

(二)あら難有の御心

(三)夢と知りせば覺めざらましを

右文法ニ據リテ別紙ニ解剖スベシ（四〇東北）

解答

(一)見る　動　助(三段ノ係)こそ　形(三段ノ結)樂しけれ　主　見る(事)こそ　述　樂しけれ　單文

(二)あら　感　形　難有の　接頭語　御心　名　特殊ナル文ノ形式

(三)夢と知りせば覺めざらましを

名	助	動	助	動	助	動	助	動	助	動
夢	と	知り	せ	ば	覺め	ざら	まし	を		

副詞句　主(我)　客(ソヲ)　補(夢と)　述(知りせば)　主(目)　述(覺めざらましを)　複文

二

(イ)やうやうにいたはりまゐらせ

(ロ)無下にいひがひなく

(ハ)十年の計は木を植うるにあり

右文法ニ從ヒテ別紙ニ分解說明スベシ（四一東北）

解答

(イ)やうやうに　副詞。いたはりトイフ動詞ニ係ル。

いたはり　動詞。下行四段活用ノ連用段。接續法。

まゐらせ　動詞。下行下二段活用ノ連用段。中止法。

(ロ)無下に　副詞。形容詞なくニ係ル

いひがひなく　名詞。いふトイフ動詞トかひトイフ名詞トノ合成詞。

修(副)　主　述

無下に　いひがひ　なく　副詞句

形容詞。久活ノ連用段。中止法。

(ハ)十年　名詞。

の　助詞。

計　名詞。

は　助詞。

木　名詞。

を　助動。

植うる　動詞。和行下二段ノ連體段。
に　助詞。
あり　動詞。瓦行變格ノ終止段。

修(形)　主　　補　述
十年の　計は　客　木を　植うる　(事)に　あり

形容小句

單文

一　(イ)今一たびの行幸待たなむ　(三五千葉)
　　(ロ)いざ櫻我も散りなむ
　　(右二文の意義を文法上より詳細に説明せよ)

解答　(イ)今一度たびのハ行幸ニ對スル修飾語、行幸ハ待たなむニ對スル客語也。サテ待たなむハ願望ノ眩嘆詞なむガ四段活用ノ動詞待つノ未然段ニ接シタルモノニテ、全文ノ意ハ「今一度ノ行幸ヲ待ツテ吳ヒタイ」トイフ事也。
(ロ)いざハ促ス意ノ眩嘆詞、我もハ主語、散りなむハ現在完了ノ助動詞なニ未來ノむノ添リテ成レル未來完了ノ助動詞なむガ四段活用ノ動詞散るノ連用段ニ接シタルモノニテ、全文ノ意ハ「サア櫻ヨ私モ一所ニ散ツテ了ハウ」トイフ事也。

二　動詞ノ九種ノ名稱ヲアゲ必ズ例一ツ宛ヲアゲヨ　(三六千葉)

解答　四段活用(讀む)　上一段活用(着る)　下一段活用(蹴る)　上二段活用(强ふ)　下二段活用(受く)
(以上正格活用)
加行變格(來)　佐行變格(爲)　奈行變格(死ぬ)　瓦行變格(有り)　(以上變格活用)

三　左ノ文中誤謬アルモノアラバ正スベシ

(イ)勤むる時は勤め、遊ぶ時は遊ぶべし
(ロ)知らざるを恥ずるは善し、知れるを裝ふるが惡しきなり
(ハ)死ぬる者を見て、人の身の無常を感じむには、朽ちぬ名を傳えむ事をこそ勉むべきなり (三七 仙臺)

解答 (イ)勤むる時は勤め、遊ぶ時は遊ぶべし
(ロ)知らざるを恥づるは善し、知れるを裝ふが惡しきなり
(ハ)死ぬる者を見て、人の身の無常を感ぜむには、朽ちぬ名を傳へむ事をこそ勉むべきなれ

參考 (イ)勤むハ下二段ノ活用ナレバ、其連體段ハ勤むるニシテ勤むニアラズ。(ロ)恥づハ他行上二段也、佐行ニアラズ。裝ふハ四段活用ニシテ、上二段ニアラズ、サレバ裝ふるトハイフ可カラズ。(ハ)感ずハ佐行變格ニシテ未然段ハ感ぜナリ、感じむトハ云フ能ハズ。傳ふハ波行下二段ニシテ也行ニアラズ。こそニ對シ下ハなれト終止段ニテ結ブベキコト元ヨリ也。

四 次ニ擧ゲタル詞ノ活用ノ狀ヲ表ニシテ示セ

任す(マカ) 着る(キ) 切る(キ) 違ふ(タガ)(他動) 當選す (三七 千葉)

解答

語 ＼ 活用	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
任す	下二	せ	せ	す	する	すれ	せよ
着る	上一	き	き	きる	きる	きれ	きよ
切る	四段	ら	り	る	る	れ	れ
違ふ	下二	へ	へ	ふ	ふる	ふれ	へよ
當選す	佐變	せ	し	す	する	すれ	せよ

五
(イ)わがきらふことをもて人に強ゆべからず
(ロ)心だにわが思ふにはかなはぬを人を恨まむことわりぞなき

右誤謬訂正 (三八 仙臺)

解答 (イ)わがきらふことをもて人に強ふべからず
(ロ)心だにわが思ふにはかなはぬを人を恨みむことわりぞなき

參考 (イ)きらはずトハイヘドきろはずトハイハズ、ソノ連用段ノきらふナルベキコト論ナシ。強ふハ波行上二段也、也行ニアラズ。(ロ)恨むヲ四段活用トナスハ轉訛セル云ヒ樣ニシテ正シクハ上二段也。

六 往き能ふ 往き能はず

右ノ如キ英語直譯調ヲ正格ノ文語ニ訂正スベシ（三八 仙臺）

解答 往くを得又ハ往く事を得

往く能はず又ハ往く事能はず

參考 能ふノ語ハ打消ずヲ添ヘテノミ用ヰラルルヲ常トシ、又「事」トイフ體言ノ下ニ接スベキ語ナレバ、之ヲ省畧シタル場合ニハ連體段ニ接續スベク、決シテ連用段ニハ接スベカラザル也。尙、得ハ他動詞、能ふハ自動詞ナレバ、一ハ往くを得ずトイヒ、一ハ往く能はずトイフ。ヨク辨フベシ。

七 形容詞ノ中止法ト副詞法トヲ各例ヲ擧ゲテ說明セヨ（三八 千葉）

解答 形容詞ノ活用ハ

未然	連用	終止	連體	已然	命令
善く	く	し	き	けれ	○

ナリ。而シテ副詞法、中止法共ニコノ連用段ヲ用ヰ、ソノ外形全ク相同ジ。サレド二者ノ區別ハ次ノ如キ例ニヨリテ之ヲ知ルベシ。

中止法　天高く馬肥ゆ。　月清く水涼し。　雪は白く花は赤し。

副詞法　天高く見え渡る。　水清く流る。　雪白く降りつもる。

中止法ハ終止トナルベキモノノ他ノ文ニ接續センガタメ連用段ノ形ヲ取リタルモノニシテ、副詞法ハ下ノ用言ヲ修飾限定スル等全ク副詞ノ用ヲナスニ至レルモノ也。

八 左ノ俳句ノ文脈ヲ解剖セヨ

道端の木槿は馬に喰はれけり（三八 千葉）

解答

修（形）	主	第二客	述
道端の	木槿は	馬に	喰はれけり

道端の―木槿は―（馬に）―喰はれけり

單文

九 次ノ動詞及助動詞ノ語尾ノ變化ヲ示セ

勉强す。敎ふ。絕ゆ。飼ふ。煮る。さ。ら。る。つ。しむ。らむ。（三九 千葉甲）

解答

語 ＼ 活用 ＼ 活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
動詞 勉强す	佐變	せ	す	する	すれ	せよ
動詞 敎ふ	下二	へ	ふ	ふる	ふれ	へよ
動詞 絕ゆ	下二	え	ゆ	ゆる	ゆれ	えよ
動詞 飼ふ	四段	は	ふ	ふる	ふれ	へよ
動詞 煮る	上一	に	に	にる	にれ	によ

活段 ＼ 種類	未然	連用	終止	連體	已然	命令
助動詞 過去 き	○	○	き	し	しか	○
受身	られ	られ	らる	らるる	られれ	られよ
現在完了	て	て	つ	つる	つれ	てよ
使役	しめ	しめ	しむ	しむる	しむれ	しめよ
推量	○	○	らむ	らむ	らめ	○

一〇 次ノ文章中ノ誤ヲ訂セ

(イ)人の苦を見てうれしう思ふ人の心はあさましし

(ロ)文部大臣の出張されしは昨日なりし

(ハ)身體に害を及ぼせしは過度に勉強せし故なり（三九 千葉甲）

解答

(イ)人の苦を見てうれしう思ふ人の心はあさましし

(ロ)文部大臣の出張せられしは昨日なりき

(ハ)身體に害を及ぼしは過度に勉強せし故なり

參考

(イ)うれしうハうれしくノ音便ナレメふニハアラズ。形容詞ノ語尾ハ久活、志久活共ニし也、ししニアラズ。(ロ)

出張せられハ佐變也、されトハイフベカラズ。過去きノ終止段ハしニアラズき也。(ハ)及ぼすハ四段活用也、しハ正格活用及奈變亘變ニアリテハ連用段ニ接續スベキモノナレバ、及ぼしトイフベク、及ぼせしトハ云フ能ハザル也。

一一 次ノ動詞及助動詞ノ語尾ノ變化ヲ示セ

重んず。得。植う。居る。着る。ず。む。べし。さす。ぬ。（三九 千葉乙）

解答

動詞 活用 ＼ 活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
重んず	佐變	ぜ	じ	ず	ずる	ずれ	ぜよ
得	下二	え	え	う	うる	うれ	えよ
植う	下二	ゑ	ゑ	う	うる	うれ	ゑよ
居る	上一	ゐ	ゐ	ゐる	ゐる	ゐれ	ゐよ
着る	上一	き	き	きる	きる	きれ	きよ

助動 種類 ＼ 活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
助動詞 す	否定	す	す	ぬ	ぬれ	○
む	未來	○	○	む	むる	めよ	○
べし	推量 指定	べく	べし	べき	べけれ	○

詞					
さす	使役	させ	させ	さす	させよ
ぬ	現在完了	な	に	ぬ	ぬれ
				さする	さすれ
				ぬる	ぬれ

一二　次ノ文章中ノ誤ヲ訂セ

(イ)人を笑ふて喜ぶはあしし

(ロ)明日にならば雨ふる

(ハ)試驗に及第ししを以て入學を許可さる　（三九千葉乙）

參考

(イ)人を笑うて喜ぶはあし

(ロ)明日にならば雨ふらむ

(ハ)試驗に及第せしを以て入學を許可せらる

參考

(イ)笑うてハ笑ひてノ音便ニテ warau-hite＝warai-te ノ如ク母音ノ旋化ナリ。笑ふトイフ連體段ニハ、用言所接ノてハ接スベカラズ。あしハ形容詞ノ終止ナリ、あししトハイフベカラズ(ロ)明日ハ未來ナリ、下ニふらむノ如キ未來形ヲ以テ呼應スベキ事元ヨリ也。(ハ)しハ佐變ニ限リ未然段ニ接スベキモノナレバ及第せしトアルベキ也。許可ずハ佐變ナレバ許可さノ如キ活用ナシ。因ニ本問題及第十問ナルハ、許容案ニヨレバ概ネ是認セラルベキモノナレド、尚在來ノ文法ニ照シテ誤バ即チ誤ナリ、訂サザルベカラズ。

一三　(イ)畢竟人世は自ら悟るより他に道なし故に教育家の重視すべきは人をして自らさとらすに在り

(ロ)實に靈珠を握り荆玉を抱くが如かりしなり

(ハ)予は直ちに之れが批評を囑されしと雖遷延未だ成らざりし

(ニ)大難を負ふて立てる十五代將軍が……

(ホ)其結論を等しうしたるを見て歡喜に堪えざる也

右誤謬アラバ訂正スベシ　（四〇仙臺）

解答

(イ)畢竟人生は自ら悟るより他に道なし故に教育家の重視すべきは人をして自らさとらするに在り、

(ロ)正シ

(ハ)予は直ちに之れが批評を囑せられしと雖遷延未だ成らざりき

(ニ)大難を負うて立てる十五代將軍が

(ホ)其結論を等しうしたるを見て歡喜に堪へざるなり

參考

(イ)さとらするにノにハ連體段ニ接スベキ助詞也。さとらすにト終止段ニハ接スベカラズ。普通ニハ上ニしてノ語アル時ハ、下しむトイフ語ヲ以テ之ニ應ズルヲ法トス、サレドす、さす、しむ共ニ使役ノ助動詞ナレバ、接續上ノ過誤ナキ限リ、必ズシモ拘ハルノ要ナカラム。(ロ)如かりしハ如くなりしトモイフベシ。サレド如かりハ形容詞ノ連用段如くヨリ轉ジタルモノニテ、「如クアツタ」ノ意ナレバ本文ノ如キ場合之ヲ用キテ毫モ差支ナ

シ。（ハ）囑すハ佐變、囑されトハ云フ可カラズ。しハ連體段ナレバ、文ノ終止トシテハ上ニ第二ノ係アル時等ノ外ハ、之ヲ用ヰルベカラズ。（ニ）負うてハ負ひてノ音便ナレバふニハアラズ。（ホ）堪へハ波行下二段、絶えハ也行也、混ズベカラズ。

一四　受身ノ助動詞ノ用法ヲ説明スベシ（四〇千葉甲）

解答　受身ノ助動詞ハる、らるノ二ツ也。ソノ活用下ノ如シ。

未然	連用	終止	連體	已然	命令
れ	れ	る	るる	るれ	れよ
られ	られ	らる	らるる	らるれ	られよ

然シテ其接續スベキ動詞ハ下ノ如シ。

- 四段活用（打たる）
- る
  - 奈行變格（死なる）
  - 良行變格（有らる）
- らる
  - 上二段活用（着らる）
  - 下一段活用（蹴らる）
  - 上二段活用（報いらる）
  - 下二段活用（受けらる）
  - 加行變格（來らる）
  - 佐行變格（爲らる）

以上ノ區別ニ從ヒ二者共ニ動詞ノ未然段ニ連ル也。

一五　次ノ漢字ニ國訓ヲ附シテ其活用ヲ示セ（二種ノ活用アルモノハ各ヲ示セ）

見。往。植。射。浮。缺。（四〇千葉甲）

解答

語 ＼ 活段（自他活用）	未然	連用	終止	連體	已然	命令
見ル（他）	上一	み	みる	みる	みれ	みよ
往ク（自）	四段	き	く	く	け	け
植ウ（他）	下二	ゑ	う	うる	うれ	ゑよ
射ル（他）	上一	い	いる	いる	いれ	いよ
浮ブ（自）	四段	ば	ぶ	ぶる	ぶれ	べよ
浮ブ（他）	下二	べ	ぶ	ぶる	ぶれ	べよ
缺ク（他）	四段	か	き	く	け	け
缺ク（自）	下二	け	け	くる	くれ	けよ

浮ノ字ノ如キハうかむトモ讀ムベシ。うかむニモ四段（自動）ト下二段（他動）トアリ、うくニモ四段（自動）ト下二段（他動）トアレド、サノミハトテ之ヲ畧セリ。

一六 使役ノ助動詞ノ用法ヲ説明スベシ（四〇 千葉乙）

解答 使役ノ助動詞ニハす、さす、しむノ三アリ。ソノ活用左ノ如シ。

未然	連用	終止	連體	已然	命令
しめ	しめ	しむ	しむる	しむれ	しめよ
せ	せ	す	する	すれ	せよ
させ	させ	さす	さする	さすれ	させよ

然シテしむハアラユル動詞ニ連ルベク、すトさすハ各々相異ナリ。

- 四段活用（押さす）
- 上一段（着さす）
- 下一段（蹴さす）
- 上二段（報いさす）
- 下二段（受けさす）
- 加行變格（來さす）
- 佐行變格（爲さす）
- さす
  - す
    - 奈行變格（死なす）
    - 良行變格（あらす）

三者共ニ動詞ノ未然段ニ連ル也。

一七 次ノ漢字ニ國訓ヲ附シテ其ノ活用ヲ示セ（二種ノ活用アルモノハ各ヲ示セ）

消。爲。似。鑄。立。溶。（四〇 千葉乙）

解答

語 ＼ 活用	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
消ユ（自）	下二	え	え	ゆ	ゆる	ゆれ	えよ
消ス（他）	四段	さ	し	す	す	せ	せ
爲ス（他）	佐變	せ	し	す	する	すれ	せよ
爲ス（他）	四段	さ	し	す	す	せ	せ
似ル（自）	上一	に	に	にる	にる	にれ	によ
鑄ル（他）	上一	い	い	いる	いる	いれ	いよ
立ツ（自）	四段	た	ち	つ	つ	て	て
立ツ（他）	下二	て	て	つる	つる	つれ	てよ
溶ク（他）	四段	か	き	く	く	け	け
溶ク（自）	下二	け	け	くる	くる	くれ	けよ

一八 波行四段活用ノ動詞十個ヲ擧ゲヨ（四〇 金澤）

解答 歌ふ。洗ふ。爭ふ。言ふ。祝ふ。失ふ。疑ふ。行ふ。學ぶ。遊ぶ

一九　左ノ文章ノ誤ヲ正シ其ノ理由ヲ述ベヨ

(イ)立錐の餘地さへ無かりきとぞ

(ロ)冀くは仰ひで天に恥じざれ　(四〇 金澤)

解答　(イ)立錐の餘地だに無かりきとぞ

(ロ)冀くは仰いで天に恥ぢざれ

(イ)ノさへハ「添へ」ノ意ニテ有ルガ上ニ物ノ加ハル義也。本文ノ如ク最低キ一ツヲ云ヒテ、「マシテ廣キ餘地ナドハナカリキ」ノ意ヲ含マシメンニハだにナラザルベカラズ。

(ロ)ノ仰いでハ仰ぎてノ音便ニシテ afugi-te=afui-de ナレバひノ字ヲ用ヰルベカラズ。恥ぢハ他行下二段也、佐行ノ活用ニアラザレバ恥じトハ云フ能ハズ。

二〇　左ノ文ノ中ニ誤謬アラバ之ヲ示セ

(イ)少年に學ばされば老いて悔ゆるとも及ばず

(ロ)勉强しし甲斐ありて首尾よく入學せり

(ハ)之を聞きて涙落さぬものぞなかりし　(四一 千葉甲)

解答　(イ)少年の中(時)に學ばされば老いて悔ゆとも及ばず

(ロ)勉强せし甲斐ありて首尾よく入學せり

(ハ)正シ

説明　(イ)少年に學ぶハ「少年ニ就キテ學ブ」、「少年ニ見倣フ」等ノ意ニテ本文ノ場合ニ叶ハズ。ともハ終止段所接ノ助辭ナレバ悔ゆるともトハイフベカラズ。尚此文ノ呼應ヲ如何ハシク思ヒ、少年の中に學ばずば老いて悔ゆとも及ばじト改メシト云フモノモアルベシ、ソノ文ノ正シキコト元ヨリナレド、本題ノ文ノ如キ亦誤レリトハイフベカラズ、要ハ思想ノ既定カ假定カノ問題ニ過ギザル也。(ロ)ノ勉强すハ佐變ナレバ勉强しトハイフ能ハズ。(ハぞなかりきト考ヘ誤ルベカラズ。コゴノきハ過去ノ助動詞ニシテ、ソノ連體段ハしナレバぞなかりしト相呼應シテ可ナル也。

二一　左ノ文ノ中ニ誤謬アラバ之ヲ正セ

(イ)これより内に車乘入るゝべからず

(ロ)雨はふるとも風は吹かず

(ハ)行きても見たき心地なんせらる　(四一 千葉乙)

解答　(イ)これより内に車乘入るべからず

(ロ)雨はふるとも風はふかじ又ハ雨はふれども風は吹かず

(ハ)行きても見たき心地なんせらろる

説明　(イ)べからずハ終止段ニ接スベキ詞ナレバ入るべからずトハ云フ能ハズ。(ロ)雨は降るともハ假定逆態前提法ナレバ下ハ之ニ應ジテじトイフ推量ノ語ヲ用ヰザルベカラズ。下チずトシテアランニハ上ヲ既定ノ語トナシ降れども

ト改ムルヲ要スル也。（ハなんハ二段ノ係ナレバ、下ハ連體段ニテ結バザルベカラズ、即せらるニアラズシテせらるる也。

二三　左ノ文中ヨリ活用アル語ヲ取リ出シテ一ツ〳〵ニ其ノ種類及ビ活用ヲ擧ゲヨ

園生の梅のおひ風に、吾がすむ里も春めきぬ。門田の雪も群消えて、若菜つむべく野はなりぬ。（四一　仙臺）

解答

語＼命詞活用	活用	未然	連用	終止	連體	已然	命令
すむ	動詞	四段	ま	み	む	む	め	め
春めき	熟語動詞	四段	か	き	く	く	け	け
ぬ	助動詞	（現在完了）	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	れ
群消え	熟語動詞	下二	え	え	ゆ	ゆる	ゆれ	えよ
つむ	動詞	四段	ま	み	む	む	め	め
べく	助動詞	（推量指定）	べく	べく	べし	べき	べけれ	○
なり	動詞	四段	ら	り	る	る	れ	れ
ぬ	助動詞	（現在完了）	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	れ

おひ風のおひハモト動詞四段活用ナレド、コヽナルハ風ト熟シテ一個ノ合成名詞ヲナセルモノナレバ掲ゲズ。

二四　文法上ノ正、不正ヲ問フ（四一　金澤）

山ありとも　川なきとも
放歌するな　恩を忘るな
毎朝何時に起くるか

解答　山ありとも（正）　川なきとも（不正　なきともヲなくともト改ム）
放歌するな（不正　するなヲすなト改ム）　恩を忘るな（正）
毎朝何時に起くるか（正）

參考　ともトなトハ動詞ノ終止段ニ接スベキ詞、かハ連體段ニ接スベキ詞ナリ。但、なくともノ如ク形容詞ニ假定逆態法ノともノ接スルニハ、ソノ連用段ヨリスルヲ法トス。

海軍兵學校

一 左ノ文ニ誤アラバ正セ

(イ)かれ老ひたりとも戰場にのぞめば必ず壯者を凌がむ

(ロ)學問は重荷を負ふて坂を攀づが如し (四一)

解答 (イ)かれ老いたりとも戰場にのぞまば必ず壯者を凌がむ

(ロ)學問は重荷を負うて坂を攀づるが如し

參考 (イ)老ゆは也行上二段活用ニシテ、波行ノ活用ニハアラズ、サレバ老ひトハ云フベカラズ。此文前後ミナ假定ノ云ヒザマナレバ、のぞめばノ如ク既定順應前提法ヲ用ヰルハ宜シカラズ。

(ロ)負うてハ負ひてノ音便ナレバふニハアラズ。がハ連體段ニ接スベキ助辭ナレバ攀づが如しトハ云フ能ハザル也。

陸軍士官候補生

一 左ノ文章ノ誤謬ヲ訂正セヨ

(イ)若シ嗣子輔ケレバ輔ケ若シ不才ナレバ君自ラ取ル可シ

(ロ)思ハザリキ今日マタ敗ヲ見タリ

(ハ)戒メ戒メ爾ノ口ヨリ出ヅルモノハ爾ニ返ルナレ

(ニ)漢文ヲ明カナラシムルタメ訓點ヲ施シ英語ヲ國語ニ譯セ (三五)

解答 (イ)若シ嗣子輔クベクバ輔ケヨ、若シ不才ナラバ君自ラ取ル可シ

(ロ)思ハザリキ今日マタ敗ヲ見ントハ

(ハ)戒メヨ戒メヨ爾ノ口ヨリ出ヅルモノハ爾ニ返ルナリ

(ニ)漢文ヲ明カナラシメンダメ訓點ヲ施シ英語ヲ國語ニ譯セヨ

參考 (イ)若シノ語ニ對シベクバ、ナラバ等假定ノ法ヲ用ヰザル可カラズ。輔ケレバハ口語ノ云ヒザマニテ文語トハナラズ。輔ケハ下二段活用ノ動詞ナレバ、命令法ハ輔ケヨトイフベキ也。(ロ)ハ「今日マタ敗ヲ見ントハ思ハザリキ」トイフ文ヲ顚倒シタル迄ナレバ、下タリト終止形ヲ用ヰルベカラズ。(ハ)戒メハ下二段ノ動詞ナレバ命令段ハ戒メヨ也。ナレノ終止ヲ用ヰルハ、上ニコソノ係アル時、及命令ノ時。(ニ)明カナラシムルハ訓點ヲ施セノ如クソノ下ニ來ル動詞

ノ働ニヨリテ生ズベキ結果ヲ豫想スル所以ナレバ、未來形ヲ用ヰテ明カナラシメムトイフナリシトスベシ。譯ズハ佐變ノ動詞ナレバ其命令法ニハヨヲ添ヘザルベカラズ。

二　次ノ各動詞ノ終止段ニ送假名ヲ施セ

老、植、添、恥、取、見、歸、詣、（三五）

解答　老ゆ、植う、添ふ、恥づ、取る、見る、歸る、詣づ。

三　左ノ文中、文法（假名遣天仁遠波）ノ誤アラバ誤字ノ右傍ニ之ヲ正セ

但シ理由ヲ說明スルニ及バズ

江州志津嶽ノ戰ニ某一騎余吾ノ湖ノ邊ヲ引キ候ヘシニ敵ト覺シクテ後ロヨリ詞ヲカケシユヘ馬ヲ引キカエシウケ幸トコソ存ジ候フ御不祥ナガラ御相手ニナリ申スベキトテ進ミヨリ候フ故互ニ馬ヲ乘リ離シ鎗ヲアワセントシケルニ其人暫シ御待候ヘ今朝ヨリ雜兵ヲオヲク突キ崩シ候フ故鎗ヨゴレテ候フトテ湖ニ鎗ヲ打チヒタシ二三遍洗イツヽサラバトテ突キ合ヒシガ久シク勝負ナカリシ程ニ日モ暮レハテヽモノヽアヤメモワカズナリヌ其時アナタヨリ又詞ヲカケモハヤ鎗先モ見ヘズ候フ御殘多クハ候ヒドモ御暇申シ候フベシ某ハ靑木新兵衞トモウス者ニテ候フトテ立チ別レ候フ（三六）

解答　江州志津嶽ノ戰ニ某一騎余吾ノ湖ノ邊ヲ引キ候ヘシニ敵ト覺シクテ後ロヨリ詞ヲカケシユヘ馬ヲ引キカエシ候ヒバ其人申シ候フハ今朝ヨリヨキ敵ニ逢イ申サズ候フ御人體ヲ見ウケ幸トコソ存ジ候フ御不祥ナガラ御相手ニナリ申スベキトテ進ミヨリ候フ故互ニ馬ヲ乘リ離シ鎗ヲアワセントシケルニ其人暫シ御待候ヘ今朝ヨリ雜兵ヲオヲク突キ崩シ候フ故鎗ヨゴレテ候フトテ湖ニ鎗ヲ打ヒタシ二三遍洗イツツサラバトテ突キ合ヒシガ久シク勝負ナカリシ程ニ日モ暮レハテヽモノヽアヤメモワカズナリヌ其時アナタヨリ又詞ヲカケモハヤ鎗先モ見ヘズ候フ御殘多クハ候ヒドモ御暇申シ候フベシ某ハ靑木新兵衞トモウス者ニテ候フトテ立チ別レ候フ

四　左ノ文ニ文法ノ誤謬アラバ右傍ニ之ヲ訂正セヨ

タトイ食盡キ刀折ルルトモ如何デカ屈ス若シ食盡クレバ砂ヲ嚙ミテモ進マム若シ刀折ルレバ空拳ヲ揮イテモ戰ワム（三七）

解答　タトイ食盡キ刀折ルルトモ如何デカ屈ス　若シ食盡クレバ砂ヲ嚙ミテモ進マム若シ刀折ルレバ空拳ヲ揮イテモ戰ハム

五　左ノ文語ノ假名遣ニ誤謬アラバ右傍ニ之ヲ訂正セヨ

求メ　待テ　擧ゲ　報告セ　（以上命令法）

實施サシム　越ヘタリ　如何ニ處理スベキヤ（三七）

解答　求メ　待テ　擧ゲ　報告セ

實視サシム　越ヘタリ　如何ニ處理スベキヤカ

參考 命令法ハ四段、奈變、下變ノ外ハ必ズヨを加フベキ也。實視ハ佐變ナレバ實視さトハ働カズ。如何ノ如キ疑問副詞アル時ハ下かヲ以テ結ブヲ通則トス。

六 左ノ文ニ文法上ノ誤謬アラバ之ヲ訂正セヨ

疑イヲ人ニ問フハ智ヲ求メル道ナリ人ニ問ワズムバ知ルコト狹バクシテ心ノ迷ヒ解ズ

（三八）

解答 疑ヒヲ人ニ問フハ智ヲ求ムル道ナリ人ニ問ハズンバ知ルコト狹バクシテ心ノ迷ヒ解ケズ

參考 求メルハ口語ナリ、文語ニテハ、求ムルトイフベシ。問ハズンバノンハ鼻音便ニテズバノ間ニ入リタルモノナレバ、ムニテハアルマジキ也。ソノ餘ハトカク云フ迄モナカラム。

七 左ノ文語ノ假名遣ニ誤謬アラバ之ヲ訂正セヨ

報ヒヨ　祝エ　全フセ　（以上命令法）

重ムヅ　堪エ忍ブ　事ヲゴヅ勤トムルナル　（三八）

解答 報イヨ　祝ヘ　全ウセヨ

重シズ　堪ヘ忍ブ　事ヲゴヅ勤ムルナレ

參考 報ユハ也行ノ活用ニシテ波行ニアラズ。祝ブハ波行ニシテ也行ニアラズ。全ウセヨハ全くトイフ形容詞ガ佐變ニ活用シタル全くせよノ音便ナレバ全ふせナドトハ云フ可カラズ。重ンズハ重くすノ鼻音便ナレバ重ムズトモマシテ重ムヅトモイフベカラズ。コソハ第三ノ係ナレバソノ結ハナレト已然段ヲ用キザルベカラザル也。

八 左ノ動詞及ビ助動詞ノ語尾ノ變化ヲ未然、連用、終止、連體、已然ノ各段ニ書キ分ケヨ

讀む　堪へ　見る　有り　ず　（三九）

解答

語＼活用＼段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
讀む	ま	み	む	む	め	め
堪へ	へ	へ	ふ	ふる	ふれ	へよ
見る	み	み	みる	みる	みれ	みよ
有り	ら	り	り	る	れ	れ
ず（否定）	ず	ず	ず	ぬ	ね	○

九 左ノ動詞ヲ自動他動ニ分ケ之ヲ挿入シテ十字内外ノ文ヲ作レ

立つ　出づ　終はる　（三九）

解答 立つ　自動（四段）　一樹の寒梅丘上に立つ
　　他動（下二）　身を立て道を行ふは孝の終なり

出づ　自動（下二）　ゆゆしき大事いで來りぬ
　　他動（佐行四段）　手紙を故郷に出す

終はる　自動（四段）　業終はりて後寢に就く
　　他動（波行下二）　業を終へて後寢に就く

一〇　左ノ文ニ文法ノ誤謬アラバ之ヲ訂正セヨ

忍耐の志を堅ふせむには他の念を捨てずむばあるべからじ（三九）

解答　忍耐の志を堅うせむには他の念を捨てずんばあるべからじ

參考　堅うハ堅くノ音便ナレバふニアラズ、すんばハずばノ音便ナレバむニアラズ。せむハ佐變ノ已然段セニ未來ノ助動詞むノ添ハリタルモノナレバコレニテ宜シ。紛ル可カラズ。

一一　左ノ動詞及ビ助動詞ノ語尾ノ變化ヲ示セ

敎ふ　報ゆ　植う　居り　まじ（四〇）

解答

活用＼語	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
敎ふ	下二	へ	へ	ふ	ふる	ふれ	へよ
報ゆ	上二	い	い	ゆ	ゆる	ゆれ	いよ
植う	下二	ゑ	ゑ	う	うる	うれ	ゑよ
居り	良變	ら	り	り	る	れ	れ
まじ	（推量否定）	まじく	まじく	まじ	まじき	まじけれ	○

一二　左ノ副詞ヲ用ヒテ十字内外ノ句ヲ作レ

奚ぞ　必ず　恐らくは　曾て（四〇）

解答　奚ぞさる事あらん。必ず出頭すべし。恐らくは及第せざるべし。曾て見ざる所なり。

一三　左ノ文ニ文字及ビ文法ノ誤謬アラバ其右傍ニ訂正セヨ

支那は、東洋に置ける一帝國にして、其の板圖きわめて、をおひに、我が國と一帶の海水をへだてるのみにて、古來よりぞ、披我の交通頻煩なりけれ。（四〇）

解答　支那は東洋に置ける一帝國にして其の板圖きわめてなおひに我が國と一帶の海水をへだてるのみにて古來より彼我の交通繁煩なりけれ

一四　左ノ動詞ノ語尾ノ變化ヲ下ノ各段ニ書キ分ケヨ

未然段　連用段　終止段　連體段　已然段　命令段

讀む　射る　恨む　死ぬ（四一）

解答

活用＼語	活段	未然段	連用段	終止段	連體段	已然段	命令段
讀む	四段	ま	み	む	む	め	め

射る	上一	い	い	いる	いる	いれ	いよ
恨む	上二	み	み	む	むる	むれ	みよ
死ぬ	奈変	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	れ

一五 左ノ句ノ空位ニ適當ナル假名ヲ補塡セヨ

豈に欣然た［　　］

如何せば可な［　　］

はからざりき今日また白旗を見ん［　　］（四一）

解答 豈に欣然たらざらんや

如何せば可なるか　又ハ　らん

はからざりき今日また白旗を見んとは

一六 左ノ文ニ文字及ビ文法ノ誤謬アラバ其ノ右傍ニ訂正セヨ

藺相如の舍人相共に諫めて曰はく我等が父母を捨てて來りて君に使ゆるはただ君の高義を慕ふてなり然るに高義を慕ふてなり然るに今君廉頗を懼れて隱れたまふまことにかようの事はよのつねの人もはづかしく思ふことなりいはんや君にをいておや我等箇樣の君につかゑて何かせんたゞ暇を得て歸り去らむ（四二）

解答 藺相如の舍人相共に諫めて曰はく我等が父母を捨てて來りて君に仕ふ使ゆるはただ君の高義を慕ふてなり然るに今君廉頗を懼れて隱れたまふまことにかようの事はよのつねの人もはづかしく思ふことなりいはんや君にをいておや我等箇樣の君につかゑて何かせんただ暇を得て歸り去らむ

高等師範學校

一　左ノ歌ニツイテ品詞ヲ區別シ且活用アル語ハソノ活用及ビ段ヲモ指示セヨ

ふるさとゝなりにし奈良の都にも色はかはらず花はさきけり　（三五、男）

解答　ふるさと（名）　と（助動）　なり（助動）　に（助動）　し（助動）　奈良（名）　の（助）　都（名）　に（助）　も（助）　色（名）　は（助）　かはら（動）　ず（助動）　花（名）　は（助）　さき（動）　けり（助動）

活用アル語　動詞　なり（四段連用）　かはら（四段未然）　さき（四段連用）

助動詞　に（現在完了連用）　し（過去連體）　す（否定連用）　けり（過去終止）

更ニ語尾變化ノサマヲ表示スレバ下ノ如シ

動詞 活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
なり	ら	り	る	る	れ	れ
變ら	ら	り	る	る	れ	れ
咲き	か	き	く	く	け	け

助動 活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
に	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	れ
し	○	○	き	し	しか	○
す	す	す	す	ぬ	れ	○
けり	けら	けり	けり	ける	けれ	○

二　左ノ文中ノ用字用語ニ誤アラバ訂正セヨ

例へ人には知られざるも心に恥じざるべきや庭に栽ゆる草木も伸びたるを抑へたをれたるををこしなどしてこそよき姿にはなるなりと聞きしか　（三五、男）

解答　假令ひ人には知られずとも心に恥ぢざるべしや庭に栽うる草木も伸びたるを抑へたふれたるをおこしなどしてこそよき姿にはなるなれと聞きき

參考　例へバ實例也。「ヨシヤ」ノ意ハたとひニテ假令ノ字也。ざるもハ許容案之ヲ最認スレドモ正シクハ前後ノ場合ニ應ジテざれども、ざりとも、ずとも等書キ分クベキ也。ココハ假定ノ場合ナレバざりとも、ずともノイヅレカ一ツナラザルベカラズ。恥づハ他行上二段也。栽うハ和行下二段也。こそ……聞きしかニアラズシテ、こそ……なれと聞きき也。ヨク考フベシ。

三　約音ト略音トノ別ヲ問フ　（三五、男）

解答　約音トハ、二音以上ヲ連呼スル時、發音ノ便ニ隨ツテ、二音ノ一音ニ約マルナイフ。

さしあげ（指上）＝ささげ

ながいき（長息）＝なげさ
てあらひ（手洗）＝たらひ

ノ類卽チ之ナリ

畧音トハ、二音以上ヲ連呼スル時、發音ノ便ニ隨ツテ、其ノ中ノ一音ノ畧クルヲイフ。

あかいし（明石）＝あかし
かはうち（河内）＝かはち
とみやま（富山）＝とやま

ノ類卽チ之ナリ。以テ二者ノ區別ヲ知ルベシ。

四　左ノ歌ニ附テ文ノ構造ヲ說ケ

今日來ずば庭にやおとのいとはれん訪へかし人の花のさかりを（三五、男）

解答

副詞句
主　修（副）　述
（人）　今日　來ずば

第二客　主　述
庭にや　おとの　いとはれん

述　主　修（形）　客
訪へかし　人の　花の　さかりを

複文

單文

コノ歌ハ二個ノ文（センテンス）ヨリ成リ、前者ハ叙述文ニシテ複文、後者ハ命令文ニシテ單文、而シテ成分ノ倒置ナリ。

五　逃がすト逃げしむトノ意義ノ異同ヲ文法上ヨリ說明セヨ（三五、男）

解答　逃がすハ佐行四段活用ノ他動詞ナリ

逃げしむハ加行下二段活用ノ自動詞ニしむトイフ使役ノ助動詞ノ添ハリタルモノナリ

其意義ハ兩者相異ナルコトナシ。

六　左ノ施線ノ部分ニツキ文法上ノ差異ヲ說ケ

（イ）啼く鶯の聲すなり
（ロ）今これを說明するなり
（ハ）そこに人ありや
（ニ）あなゝたのみなき人の心や（三五、女）

解答　（イ）ノなりハ咏嘆ノ助動詞ナリ。（ロ）ノなりハ指定ノ助動詞也。（イ）ハ「聲ガスルワイ」ニシテ、（ロ）ハ「說明スルノデアル」也。咏嘆ノなりハ終止段ニ接シ、指定ノなりハ連體段ニ接ス。（ハ）ノやハ疑問ノ助辭ナリ。（ニ）ノやハ咏嘆詞也

（イ）ハ「人ガアルカ」ニシテ、（ロ）ハ「心デアルワイ」ナリ。疑問ノやハ終止段ニ連ナリ、咏嘆詞ノやハ場合ニヨリサマザマニテ定メナシ。

七　左ノ文ニ誤アラバ正セ

（イ）此品に手を觸るべからず

(ロ)かくと申せしかばそれにてよしと言はれし

(ハ)雪を戴く峰巒は雲表に聳へ藍を流る湖水は樹林の間へ隱見す（三五、女）

解答 (イ)此品に手を觸るべからず

(ロ)かくと申しかばそれにてよしと言はれき

(ハ)雪を戴く峰巒は雲表に聳え藍を流す湖水は樹木の間に隱見す

姿考 (イ)べからずハ終止段ニ接スベキ助動詞ナリ、サレバ觸るべからすノ如ク連體段ニ接スルハイミツキ誤也。

(ロ)申すハ佐行四段活用ノ動詞ニシテ、しハ佐變、加變ニ例外アル外、動詞ノ連用段ニ接スベキ助動詞ナレバ、申しト云フベク申せしトハ云フ能ハズ。過去ノ助動詞きハ終止形也、しハ連體形也、サレバ上ニ第二係ノ語（ぞ、なん）ナキ以上しヲ以テ文ノ終止トハナスベカラザル也。(ハ)聳ゆハ也行下二段也、波行ニアラズ。流るハ自動詞也、藍をトイフ目的語ニ對シ、他動詞流すヲ用キザルベカラズ。へハ方向ヲイフ助詞也、にハ位置ヲ云フ助詞也、林樹の間ハ隱見すル位置ナレバにナラザルベカラザル也。

八 か、やノ用法ヲ例ニ就イテ説明ヨセ（三六、男）

解答 共ニ疑問ノ助詞ナリ。其用法上ノ區別下ノ如シ。

か 動詞、形容詞、助動詞ノ連體段ニ接ス

例 彼は勉強するか。花は美しきか。いつ出頭すべきか。

や 動詞、形容詞、助動詞ノ終止段ニ接ス

例 彼は勉強すや。花は美しや。余は出頭すべしや。

更ニ注意スベキ事三アリ。

一、上ニ疑問辭如何、何時、幾何等ノ語アル時ハ下必ズかヲ以テ之ニ應ズベシ。

二、かハ名詞其他ノ體言ノ下ナル指定ノ助動詞「なり」ノ省畧セラレタル場合直チニソノ體言ニ接シテ「花（なる）か」「鳥（なる）か」ノ如ク云フヲ得レドモ、やハコノ事不可能ナリ。

三、や、か共ニ文ノ上ニアル時ハ下ハイヅレモ連體段ヲ以テ結ブベシ。「花や美しき」「何れか是なる」ノ類也。

九 左ノ文ヲ文ノ構造ノ上ヨリ解ケ

帝國議會は毎年之を召集す（三六、男）

解答 提示客語　主　修（副）　客　述

帝國議會は　（天皇）　毎年　之を　召集す

參考 提示客語トイフ名稱ハ編者ノ特案ニ出ヅ、コハ文法學者間ニ種々ノ異論存スルモノ也。「帝國議會」ト「之を」トハ同格ニシテ共ニ客語タリ、而シテ「帝國議會」トイフ語ヲ特ニヌキイデテ之ニ主語ノ形式ヲ與ヘタル一種強勢ノ語法タル也、以テ余ガ提示客語トイハントスル理由ヲ知ルベシ。

一〇 左ノ文ノ中ニ誤アラバ訂正セヨ

(一)意志さへ鞏固ならば大抵の困難には打ち勝ち能ふものなり

(二)如何に勉強さるゝとも御身の健康をして損ぜしめらるな。（三六、男）

解答 (一)意志だに鞏固ならば大抵の困難には打ち勝ち得るものなり

(二)如何に勉強せらるとも御身の健康を損ぜらるな

參考 (一)さへゝ添也、ココノ文意ハ「外ノ事ハ兎ニ角意志ダケガ」云々ナレバだにナラザルベカラズ。能ふハ能はずト否定ニノミ用キルテ常トシ、「且何タスル事能ほず」ト事ノ字ヲ承ケテ之ヲ打消スベキ詞ナレバ、事ノ字ノ省畧セラレタル場合ニモ、ナホ連體段ニ接スルヲ法トス。コレ文法上ノ問題トイフヨリモ、寧ロ意義及慣用上ノ問題ナリ。トマレカクマレ勝ち能ふノ如クニハ云フベカラズ、勝ち得る又ハ勝つ事を得、勝つを得ノ如クイフベキ也。(二)勉強ハ佐變ノ活用ニシテともハ終止段所接ノ助詞也。健康損ずトハ云フベカラズ、從ツテ之ヲ使役形トナシタル健康をして損ぜしむノ形モ不可ナリト云フベシ。損ずハ他動詞ナレバ、健康をして損ぜしむトイハバ、何ヲトイフ客語ヲ要スルコトトナルベシ。コレ甚シキ不條理ナラズヤ。サレバ強ロテ使役ノ形式ヲ取ランニハ、一應受身ノ形トシテ健康損ぜらるトナシ、更ニ使役語ヲ加ヘテ健康をして損ぜられしむノ如クナサザルベカラズ。サレドカカルハ日本語ノ慣用上イカガハシキモノ也。本文しめらるなノらるハ受身ニアラズシテ敬語也。ヨクヽ辨ズベシ。

一一 左ノ漢字ニ和訓ヲ付シテ其ノ活用ヲ示セ

絶 老 射 懲 費（三六、女）

解答 絶ユ（タ） 老ユ（オ） 射ル（イ） 懲ル（コリ） 費ユ（ツヒ）

一二 動詞ノ名詞法（假體言）ヲ說明セヨ（三六、女）

解答 名詞法トハ動詞ノ連用言ノ居据ハリテ名詞トナリタルモノヲイフ。

讀みヲ覺ユ。花みニ行ク。學びノ道。ノ如キコレ也。

語 ＼ 活用	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
絶	下二	え	ゆ	ゆる	ゆれ	えよ	
老	上二	い	ゆ	ゆる	ゆれ	いよ	
射	上一	い	い	いる	いれ	いよ	
懲	上二	り	り	る	るれ	りよ	
費	下二	え	え	ゆ	ゆる	ゆれ	えよ

一三 左ノ文ヲ訂正シ且其ノ理由ヲ說明セヨ

(イ)此の處へ塵芥を捨てるべからず

(ロ)正直ならば人に信用さる

(ハ)少年に金錢を持たすは害あり（三六、女）

解答 (イ)此の處に塵芥を捨つべからず

理由 ハ方向ヲ云フ助詞ナレバ、カク確然タル位置ヲ示ス場合ニハ用ヰルベカラズ。

捨てるハ口語ノ云ヒザマナリ、文語ニテハ捨つるトイフベシ。サレドべからずハ終止段所接ノ助動詞ナレバ捨つるべからずニアラズシテ、捨つべからずトイフベキ也。

(ロ)正直ならば人に信用せられむ

理由 信用すハ佐行變格ナレバ信用さトイフ活用ナシ。又上ニ正直ならばトイフ未定條件法ノ語アルヲ以テ、下文之ニ對シ信用せられむノ如ク未來ノ形ヲ用ヰルヲヨシトス。

(ハ)少年に金錢を持たするは害あり

理由 コノ文ハ少年に金錢を持たする事は害ありノ事トイフ語省畧セラレタルモノ也。事ハ體言ナレバ、コノ上ニ來ルベキ用言ハ、スベテ連體段ナラザルベカラズ。然ルニ持たすハ終止段ナレバ、改メテ連體段ヲ用ヰ、持たするトナシタル也。

一四 五十音ノあ行や行わ行ヲ片假名平假名及羅馬字ノ三樣ニ記セ　(三七、男)

解答

あ行					
片假名	ア	イ	ウ	エ	オ
平假名	あ	い	う	え	お
羅馬字	a	i	u	e	o

や行						わ行				
片假名	ヤ	イ	ユ	エ	ヨ	片假名	ワ	ヰ	ヱ	ヲ
平假名	や	い	ゆ	え	よ	平假名	わ	ゐ	ゑ	を
羅馬字	ya	i (yi)	yu	e (ye)	yo	羅馬字	wa	i (wi)	u (wu)	e (we)	o (wo)

ヰヱハ兩樣ノ字體アルヲ示シi(yi)等括弧ノ中ニ示セルハ學理上然カアルベケレドモ、實際ニハ斯ク綴ラザル事ヲ示シタル也。

參考 古クハ也行ノイハ**ゐ**ト書キ、エハ**ゑ**ト書キ、ワ行ノウハ**ヲ**ト書キタレドモ、今ハ全ク廢字トナリテ用ヰラルコトナケレバ、答案トシテカカル形ヲ示スハ要ナキ事ナルベシ。

一五 左ノ語ノ活用ヲ表ニテ示シ且ツ二ツ以上ノ意義アルモノハソレニ相當スル漢字ヲ列記セヨ

(イ)きる　(ロ)うく　(ハ)うたてし　(三七、男)

解答 (イ)切る〈自動下二 / 他動四段〉　鑽る〈他動四段　着る〈他動上一

(ロ)浮く〈自動四段 / 他動下二〉　受く、請く、承く〈他動下二

品詞 ＼ 活用語 ＼ 活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
動詞 切る 鑽る	ら	り	る	る	れ	れ
動詞 切る	れ	れ	る	るる	るれ	れよ
動詞 着る	き	き	きる	きる	きれ	きよ
動詞 浮く	か	き	く	く	け	け
動詞 浮く、受く等	け	け	く	くる	くれ	けよ
形容詞 うたて（久活用）	く	く	し	き	けれ	○
形容詞 志久活用	しく	しく	し	しき	しけれ	○

きる ニ綻るトイフ語モアレド、今日ノ普通語ニモアラネバ、サノミハトテ畧シツ

一六 次ノ文ノ中ナルとノ意義ノ異同ヲ説明セヨ

(イ) 古語に曰く妖は德に勝たず

(ロ) 悔ゆとも及ばじ

(ハ) 取ると取らざるとは汝にまかす（三七、男）

解答 (イ) 補語格ノとナリ。ココニテハ「妖は德に勝たず」トイフ挿入文ヲ補語トナシテ動詞曰くニ接セシムル用ヲナ

セルモノ也。凡テモノ事ヲ指定シテイフ意ノ助詞ナル也。

(ロ) 逆態假定前法ノとニシテ、口語ノ「テモ」ニ當ル。コノ例ノ如クもト熟シテともトイフヲ常トスレドモ、古クハとノミヲ用キテ悔ゆと及ばじノ如クニモイヘリ。動詞ノ終止段形容詞ノ連用段ニ接ス。

(ハ) 並立ノとナリ。「犬と猫と」「花と月と」ナドノとト同ジ。ココナルモ「取ると取らざると」ノ意ニテ、モト體言ニ接スベキモノナレバ、ソノ用言ニ連ナルニ當リテハ、必ズ連用段ヨリスルヲ法トス。

一七 次ノ歌文ニ誤アラバ訂正セヨ

(イ) ひとめ見し君も來るやと櫻花けふは待ちみて散らば散わなん

(ロ) 讐へ殺戮さるまでも誓ふて敵に降服するな

解答 (イ) ひとめ見し君もや來ると櫻花けふは待ちみて散らば散らなん

(ロ) 假令ひ殺戮せらるるまでも誓うて敵に降服すな

參考 (イ) やハ終止段所接ノ助詞ナレバ來るやトハイフベカラズ、サレバトテ來やニテハ歌ニナラズ、來るかトイハンモ調ヲナサズ、や、か上ニアル時ハ連體段ニテ結ブヲ法トスレバ、君もや來るトイフベキ事論ナキ也。散りなんハ未來完了ナリ、ココノ意ハ「散ルナラ散ツテモラハウ……ドウカ今一日ダケ散ラズニキテ呉レ」ノ意ナレバ願望ノなん卽チ未然段所接ノなんヲ用キテちらなんトイフベキナリ。

(ロ) 讐へハ比喩ノ意也、「ヨシヤ」ハ假令トイフベシ。殺戮すハ佐變ナレバ殺戮さトハ活用セズ。までハ連體段所接ノ助

詞ナレバせらるるまでもトイフベキ也。誓うてハ誓ひてノ音便ナレバふニアラズ。否定命令ノ副詞なハ終止段所接ノ詞ナレバするなトハイフベカラズ。

一八　傍線ヲ施シタル語ノ異同ヲ文法上ヨリ説明セヨ

(イ)思はず知らず聲を立つ
(ロ)知らざるを知らずとせよ
(ハ)知らずして過ぐ
(ニ)知らずば教へん　(三七、男)

解答　イヅレモ知るトイフ動詞ノ未然段ニずトイフ否定ノ助動詞ノ接シテ、知ろトイフ意ヲ打消シタルニ外ナラザレド、ソノ文中ノ職分自ラ相異ナリ。(イ)ハ副詞法ニシテ、立つトイフ語ニ對スル副詞ノ役目ヲナスモノタリ。(ロ)ハ終止法ニシテ、插入句ノ形式ヲナシ、せよニ對スル補語ノ役目ヲナスモノタリ。(ハ)連用法ニシテ、下ニ接シタルしてハ、「ありて」ノ意ナリ、知らずしてト熟シテ始メテ副詞トナレルコト(イ)トハ稍趣ヲ異ニス。(ニ)ハ未然段ニばヲ承ケテ順態假定前提法ヲナセルモノナリ。以上副詞法、終止法等イヘルハ助動詞ずニツキテ云ヘルモノナルコト元ヨリ也。

一九　次ノ文ニ誤アラバ訂正セヨ

平凡の生活は概して健全の生活なり自己の額に汗して自己の衣食をなし自己の精力を揮ふて自己の生涯を過ぐ仰ぐで天に愧ぢず俯して人に怍じず餘あるの樂みなきも堪ゆべからざるの悲みなし　(三七、男)

解答　平凡の生活は概して健全の生活なり自己の額に汗して自己の衣食をなし自己の精力を揮うて自己の生涯を過ごす仰いで天に愧ぢず俯して人に怍ぢず餘あるの樂みなけれども堪ふべからざるの悲みなし。

參考　揮うてハ揮ひてノ音便ナレバふニアラズ。過ぐハ自動詞也。生涯をトイフ目的語アル以上、必ズ他動詞過ごすナラザルベカラズ。「門を過ぐ」「白駒の隙を過ぐ」ナド云ヘド、此をハ「ヨリ」「邊ヲ」ノ意ニテ自ラ別ナリ。仰いでハ仰ぎてノ音便ナレバひニモアラズ、ゐニモアラズ。なきもハ最普通ノ誤用ニテ、或文法家ハ之ヲ正シトサヘ論ジ、許容案ハ誤解ヲ生ゼザル範圍ニ於テ之ヲ是認セリ。サレド逆態前提ノ意ハとニアリテもニアルニアラザレバ、ナホ場合ニ應ジともどもノイヅレカヲ用キルヲヨシトスベシ。ココニテハ下ニ悲みなしノ如キ既定ノ言ヒザマヲ用キアレバ、あれどもトハ改メツル也。怍ぢノ他行上二段ナルコト、堪ふノ波行下二段ナルコト前ニモイヘリ。「餘あるの樂み」「べからざるの悲み」ノのヲバ過誤ニシテ不用ナリト論ズルモノ往々ニシテコレアリ。サレバ許容案ハ特ニ之ガ項ヲ設ケテ是認シアリ。餘あるべからざるハ連體段ニシテ樂み、悲みハ體言ナレバ「餘ある樂み」「べからざる悲み」トイハンコト元ヨリ至當ナレド、コノのヲ以テ直チニ誤謬ナリト論ゼンガ如キハ如何アラン。「餘ある(事)の樂み」「べからざる(事)の悲み」ノ如ク事トイフ體言ノ省畧セラレタルモノトモ論ゼラルベキニアラズヤ。コノ類例我文法中甚多カリ。コトニ況ンヤコノのアルガ爲メニ、文ノ格調甚ダ宜シキヲ得ル場合少ナカラザルヲヤ。要スルニ吾人ハコノのヲ以テ誤用ニアラズト認メント欲スルモノ也。

二〇　だにトさへトノ區別ヲ記セ　（三七、女）

解答　だにハ事物ノ輕キヲ舉ゲテ其餘ノ重キヲ言外ニ引證スル助詞也。さへハ重キガ上ニ更ニ又添ヒ加ハル意ノ助詞也。

參考　既ニ國語解釋ノ部ニモ詳解シ文法ノ部ニモ說キタレバ、十分ニソレラヲ參照センコトヲ要ス。

二一　左ノ施線ノ部分ニツキテ文法上ノ差異ヲ說ケ

（イ）花散らむ　花散りなむ

（ロ）生き殘りしもの　生きとし生けるもの　（三七、女）

解答　（イ）散らむハ動詞散るノ未然段散らニ未來ノ助動詞むノ添ハリタルモノニテ、單ニ「散ラウ」ノ意。散りなむハ散るノ連用段散りニ現在完了ノ助動詞なガ添ハリ、更ニ未來ノむノ添ハレルモノニテ、未來完了ノ意ヲ表ハス、卽チ「散ツテシマフダラウ」也。

（ロ）殘りしノしハ過去ノ助動詞きノ連用段ニシテ、生きとしノしハ强勢ノ助詞ナリ。前者ハ「生キ殘ツタ者」ノ意。後者ハ「苟モ生アルモノハ」ノ意ト知ルベシ。

二二　左ノ文ニ誤アラバ正セ

（イ）君子は欺くべきも誣ゆべからず

（ロ）何某は大學の業を卒りて歸國せしと云ふ

（ハ）今にして斷然之れを廢さずは後必ず悔ふる事あり　（三七、女）

解答　（イ）君子は欺くべけれども誣ふべからず

（ロ）何某は大學の業を卒へて歸國せりと云ふ

（ハ）今にして斷然之を廢せずば後必ず悔ゆる事あらん

參考　（イ）欺くべきもノ誤ナル由ハ第十九問ノ參考ヲ見テ知レ。誣ふノ活用ハ波行也。也行ニアラズ。

（ロ）ノ卒りてハ自動詞、業をニ對シテ卒へてトイフベシ。と云ふノとハ終止所接ノ助詞也、しハ連體ニシテ終止ニアラズ、サレバ、歸國しき、歸國せり、歸國したりナドアルベキ也。

（ハ）廢すハ佐變。悔ゆハ波行ニアラズシテ也行上二段也。

二三　左ノ漢字ニ和訓ヲツケテ其ノ活用ヲ記セ

薫　辨　閉　恨　斃　（三七、女）

解答　薫ル（カヌ）　辨フ（ワキマ）　閉ヅ（トヅ）　恨ム（ウラム）　斃ル（タフル）

活用＼語	薫	辨	閉
活段	四段	下二	上二
未然	ら	へ	ぢ
連用	り	へ	ぢ
終止	る	ふ	づ
連體	る	ふる	づる
已然	れ	ふれ	づれ
命令	れ	へよ	ぢよ

假	上二	み	み	む	むる	むれ	みよ
艶	下二	れ	れ	る	るる	るれ	れよ

二四　ばノ用法ニツキテ知レルコトル記セ　（三七、女）

解答　ばハ、甲ノ語句ト乙ノ語句トヲ連絡セシメ、ソノ間ニ因果ノ關係ヲ成立セシムル助詞ニシテ、コレニ未定ト既定トノ別アリ、未定ナルヲバ順態假定前提法又ハ假定條件法トイヒ既定ナルヲバ順態確定前提法トイヒ、又既定條件法トイフ。例ヘバ

未定　雨降らば行かじ。　勉めずば落第せん。

既定　雨降れば道悪しくなる。　缺員あれば募集す。

コノ例ニヲモ知ラルルガトク、未定ハ用言ノ未然段ニ接シ、既定ハソノ已然段ニ連ナルナリ。未定ナルハ「若シ何々ナラバ」ト物事ヲ假定シ云フ意ニシテ、既定ナルハ、物事ヲシカト確定シテ云フ意又ハ「既ニ何々ナルニ因リテ」トイフ意ニ用ヰラルル也。

二五　左ノ文ニ誤アラバ正セ

(イ)誓ふて君恩に報ひるべし

(ロ)義朝を殺せし人は誰れなりや

(ハ)たとへ名を汚して生くるもかひなし　（三七、女）

解答　(イ)誓うて君恩に報ゆべし

(ロ)義朝を殺しし人は誰れなるか

(ハ)たとひ名を汚して生くともかひなからむ

説明　(イ)誓うてハ誓ひてノ音便也。報ゆハ也行上二段也、波行ニアラズ。べしハ終止所接ノ助動詞也。

(ロ)過去ノしハ佐變ノ外ハ連用所接也、殺すハ四段活用ニシテ、ソノ連用段ハしナレバ殺ししトイフベク、殺せしトハイフベカラズ。誰れノ如キ疑問辭アル時ハ下ハかニテ之ニ應ズルヲ法トス。

(ハ)「ヨシヤ」ノ意ハたとひ也。生くるもノ誤ニツイテハ、第十九問ヲ參照セヨ。サテ上ニ生くともトアルヲ以テ、下コレニ應ジテかひなからむト改メタル也。サレド必ズシモ然カアラザルベカラズト論ズルガ如キハ、理ノ一面ノミヲ見テ未ダ他ノ一面ヲ見ザルモノトイフベカラム。口語ニモ「生キタツテ仕方ガナイ」トイフ。「生キタツテ」ハ假定也、「仕方ガナイ」ハ確定ナリ。かひなしハドコマデモかひなしニテ、牢乎トシテ拔クベカラザル論結タリ、ソレニ假ニ或場合ヲ設ケテ論ズルモノトモ見ルヲ得ベシ。「甲ガ乙ナリトモ丙ハ丁ナリ」ノ論法、豈時アツテ合理ナラズトセンヤ。但斯クノ如キハ勿論特別ノ場合ニシテ、普通ニハヤハリ未定ハ未定ト相呼應スルモノト心得ルヲ宜シトスベシ。

二六　國語ノ形容詞ヲ英語ノ形容詞ニ比較シテソノ性質ノ異同ヲ說明セヨ　（三八、男）

解答　形容詞英語ニテハ Adjective トイフ、其根本ノ用法タル「名詞及代名詞ヲ形容、制限ス」ル點ニ於テハ則相

同ジ。而モ其餘ノ性質ニ於テ甚ダ相異ナルモノアリ。左ニ對照表示スルコトトナスベシ。

國語ノ形容詞	英語ノ形容詞
ソノ語自身述語トナル	動詞（verb）ノ助ヲ假ラザレバ述語トナラズ
命令法以外ノ凡テノ法アレドモ比較ナシ	比較（Comparison）アレドモ法（mood）ナシ
法ニヨリテ語尾活用ス	比較ニヨリテ語尾變化ス
活用ニヨリテ副詞トナル	〃 ヲソヘテ副詞トナルモノアリ
形容詞法ノ時ハ形容スベキ語ノ前ニ來ル	同上

二七 口語ニテ「本をかつて來た」トイフトキノ「かつて」ハ地方ニヨリテソノ意味ヲ異ニスルガゴトシソレヲ文法上ヨリ説明セヨ　（三八、男）

解答 かつて（關東……「買ひて」ノ意　關西……「借りて」ノ意）

共ニ促音便タルニ過ギズ。「買ひて」ヲ「買つて」トイフハ「云ひて」ヲ「云つて」トイヒ「吸ひて」ヲ「吸つて」トイフ類ニシテ、「借りて」ヲ「借つて」トイフハ「散りて」ヲ「散つて」、「去りて」ヲ「去つて」、「降りて」ヲ「降つて」ノ類也。關東ナルハ波行促音便トイフベク、關西ナルハ良行促音便トモイフベシ。イヅレモ他ニ類例アレバ、イヅレヲヨシトモ定ムベカラズ、兩者全ク語根ヲ異ニスルモノノ、音便ノ結果偶々相一致スルニ至レルノミ。

二八 左ノ動詞ニ送假名ヲツケテソノ連體段ト命令段トヲ示セ

(イ)据　(ロ)怨　(ハ)甘　(ニ)往　(ホ)出　（三八、男）

解答

	送假名	連體段	命令段
(イ)据	シ	スル	セヨ
(ロ)怨	ウラム	ウラムル	ウラミヨ
(ハ)甘	アマンズ	アマンズル	アマンゼヨ
(ニ)往	イヌ	イヌル	イネ
(ホ)出	イヅ	イヅル	イデヨ

二九 やトかトノ（共ニ疑ヲ助辭）區別ヲ記セ　（三八、女）

解答 高師第八問ニ同ジ

三〇 左ノ施線ノ部分ニツキ文法上ノ差異ヲ説ケ

(イ)いさ知らず　いざ來給へ
(ロ)机に向ふ　春來にけり　(三八、女)

解答 (イ)いさ知らずノいさハ副詞ニテ「否」「果シテドウダカ」等ノ意也、いざト濁ルベカラズ。いざ來給へノいざハ眩嘆詞ニテ、他ヲ誘フ意、自ラ思ヒ立ツ意ノ詞ナリ。「サア」「ドリヤ」等ノ意。
(ロ)机ニノニハ位置ヲ示ス助詞ニシテ、來にけりノにハ現在完了ノ助動詞ぬノ連用段也。

三一　左ノ文ニ誤アラバ正セ

(イ)何處ともなく足に任して落ち行き給ふ心の中ぞ哀なれ
(ロ)宿痾癒へて多年の憂苦消る失せり　(三八、女)

解答 (イ)何處ともなく足に任せて落ち行き給ふ心の中ぞ哀なる
(ロ)宿痾癒えて多年の憂苦消え失せたり

參考 (イ)任ずハ下二段ノ活用也、コレヲ四段ニ活用スルハ後世ノ訛也。ぞノ係ニ對シ連體段なるニテ結ブベキコト元ヨリナリ。上ニこそトナクテハなれトハイフベカラズ。(ロ)癒ゆハ也行ノ活用ナリ、消ゆモ然リ。失せハ下二段活用ナレバ失せりトハイハズ、りハ四段活用ノ已然段ニノミ連ナリ得ベキ詞也。

三二　他ノ詞ヨリ轉ジテ名詞トナリタルモノヲ說ケ　(三八、女)

解答 他ノ詞ヨリ轉ジテ名詞トナリタルモノヲ轉來名詞トイフ。凡ソ左ノ二種ナリ。

(1)動詞ヨリ轉來セルモノ　動詞ノ連用段ヨリスルモノニテ、コレヲ動詞ノ名詞法トモ稱ス。
學びヲ好ム　敬へヲ受ク　つり(釣)ニ出掛ク　ノ類コレ也。
(2)形容詞ヨリ轉來セルモノ　(一)語根ニサ、ミ等ノ語ヲ添ヘテナルモノ　(二)終止法ヤガテ名詞トナルモノ
(一)ノ例　高さ　深み
(二)ノ例　善し惡しヲ定ム
ソノ他　長きヲ取リ短きヲ捨ツ等連體段ヨリスルモアレド、コハ下ノ體言「事」「者」「所」等ノ省畧セラレタルモノト見ルヲ得ベシ。

三三　左ノ施線ノ部分ニツキ文法上ノ差異ヲ說ケ

(イ)人たる道　行きたる人
(ロ)人まつ虫の聲すなり　其の謀空しくなりにけり　(三八、女)

解答 (イ)人たる道ノたるハとあるノ約ニシテ指定ノ助動詞也、名詞ヲ形容詞ノ如クナラシムル詞也。行きたる人のたるハ現在完了ノ助動詞たりノ連體段ニシテ「行ッタ人」又「行ッテココニハ居ラヌ人」ノ意也。前者ハ名詞ニ接シ、後者ハ動詞ニ接ス。(ロ)人まつ虫の聲すなりノなりハ眩嘆ノ助動詞ニシテ「聲ガスルワイ」ノ意。其の謀空しくなりにけりノなりハ下行四段活用ノ動詞ノ連用段ナリ。

三四 左ノ文ニ誤アラバ正セ

(イ)音樂と裁縫は必ず女子の修むべきものなり

(ロ)死傷者幾何なりしや數ふに堪えざりき

解答 (イ)音樂と裁縫とは女子の必ず修むべきものなり

(ロ)死傷者幾何なりしか數ふるに堪へざりき

參考 (イ)音樂と、ニ對シ裁縫と、ト對立シイフヲ法トス。必ずトイフ副詞ノ位置ヲ改メタルハ女子のガ主語ニシテ必ずハ修むトイフ述語ニ係ルモノナレバナリ。副詞ガ名詞ヲ隔テテ動詞ニ係ルハ、ソノ名詞ガ「人徒に道を説く」「身は空しく海底の藻屑と消ゆ」ノ如ク客語、補語等ノ場合ニシテ、「徒に人道を説く」「空しく身は云々」ノ如ク主語マデモ隔テンハ散文トシテハイカガアラム、マツ取ラザルヲ可トナスベシ。(ロ)幾何ニ對シカトイフベシ。にハ連體段所接ノ助詞也。堪ふハ波行下二段也。

三五 てにをはノ「に」ト「と」ト類似セル場合ヲ比較シ例ヲ擧ゲテ説明セヨ (三九、男)

解答 「に」ト「と」ト類似セルハ次ノ二ツノ場合ナリ。

(一)差抑ヘテ名詞ヲ補語トナスモノ {木、石になる。水を湯になす。雪を花に見て。 / 木、石となる。水を湯となす。雪を花と見て。}

(二)重用スル動詞ノ間ニ入リテまたノ意ヲナスモノ {降りに降る。吹きに吹く。語りに語る。 / 降りと降る。吹きと吹く。有りとある。}

(一)ハ全ク相互用スベク(二)ハ互用スベキモノナキニアラネド、大方慣用アリテ一定セルモノノ如シ。但シ意ハ全ク相同ジ。

三六 「ます」トイフ口語ノ助動詞ニツキテ知レル所ヲ述ベヨ (三九、男)

解答 ますハ一般崇敬ニ用ヰル助動詞ニシテ、

未然　連用　終止　連體　已然　命令

ませウ　ましタ　ます　まする　ますれ　ませ

パ　テ　テモ　バ

ノ如ク變化シ、動詞ノ連用段ニ連ナル。但ませハ「上り」「いらつしやい」「下さい」等敬語ノ動詞、助動詞ニ接スルヲ常トシ、連體ハまするニアラズシテますナルガ如シ。まするハ特ニ卑下ノ意ヲアラハス語吻ノ終止法トシテ用ヰラルル者ノ如ク、未然ト已然トハ口語ノ常トシテ殆ンド正シキ區別ナシ。條件法ニ「ますト」ナドイフモアリ。

三七 左ノ文ニ誤リアラバ訂正セヨ但シ理由ヲ附スルニ及バズ

引き續き御平安にゐらせられ候や先日は參上致し候うて御取込中を御手厚の御饗應を辱ふし感謝の至りに堪へず候早速御禮申し上げ可くの處今日まで延引致し候

(三九、男)

解答 引き續き御平安にいらせられ候や先日は參上致し候うて御取込中御手厚の御饗應を辱うし感謝の至りに堪へず候早速御禮申上ぐ可きの處今日まで延引致し候

參考 いらせられ・います・トイフ敬語動詞ヨリノ轉カ、又ハ古キ書簡文ノ慣用語ナル被爲入ヨリ出デタルナルベク、居ニハアラズ。ベクハ終止段所接。上ぐべき(答)の處ノ筈ノ省畧ナレバ。上げべくナドトハイフベカラズ。

三八 上一段活用ノ動詞ヲ列擧セヨ (三九、女)

解答 〔カ行〕着ル 〔ナ行〕煮ル、似ル、肖ル 〔ハ行〕干ル、乾ル、簸ル、嚏ル 〔マ行〕見ル、顧ミル、試ミル、鑑ミル 〔ヤ行〕射ル、鑄ル 〔ワ行〕居ル、率ル、率ル、用ヰル

三九 名詞動詞ガ副詞トナル場合ヲ示セ (三九、女)

解答 「昔、男ありけり」「今日來ずば」ノ如ク名詞ガソノママ副詞トナルモノアリ、「誠に」「日に」「常に」ノ如クニヲ加ヘテ副詞トナルモアリ。動詞ノ副詞トナルハ「謹みて申す」「走りて行く」ノ如ク連用段ニテノ添ハルヲ常トス。「謹み申す」「走り行く」ノ如キヲモ副詞トイハバ云ヒツベケレド、コレラハ概ネ熟語動詞、連語動詞ナドイヒテ副詞トハイハズ。

四〇 左ノ文ヲ單語ニ分解シテ其品詞ノ名稱ヲ記セ

汝の志眞によしされど將來身を立てむと思はばまづ朋友を求めよこれ處世の要訣なるぞ (三九、女)

解答

代	助	名	助	形	動	助	助	名	名	助	動	助	助	動	助	副	名	助	動
汝	の	志	眞	に	よし	され	ど	將來	身	を	立て	む	と	思は	ば	まづ	朋友	を	求め
			副				接續									副			

助	代	名	助	名	助	動	助
よ	これ	處世	の	要訣	なる	ぞ	

四一 動詞ト形容詞トノ差異ヲ記セ (三九、女)

解答 動詞ハ五十音ノ同一行ニ活用スレドモ、形容詞ハ善く、善しノ如ク異ナリタル行ニ活用ス。コレ差異ノ一。動詞ニハ命令ノ法アレドモ、形容詞ニハコレナシ、コレ差異ノ二。動詞ハ住む、讀むノ如ク物ノ働キヲイヒ表ハスコト普通ニシテ、有リノ如ク往々物ノ狀態ヲイフ語アルニ反シ、形容詞ハ物ノ狀態ヲイヒ表ハスノミニシテ、物ノ働キヲイヒ表ハスコトナシ、コレ差異ノ三。

四二 左ノ文ニ誤アラバ正セ

溪に沿ふて進まば山高く聳へ水清く流れて塵外の趣あり枝にさいずる鳥花にたわむる蝶も欣々春をよろこぶものゝ如く積日の勞苦も一掃され足の疲るを覺へず

(三九、女)

解答 溪に沿うて進めば山高く聳え水清く流れて塵外の趣あり枝にさへづる鳥花にたはむるる蝶も欣々春をよろこぶものの如く積日の勞苦も一掃せられ足の疲るるを覺えず

參考 趣ありノ語ニ對シ、又全文前後ノ關係上ヨリ考ヘテ、進めばノ如ク既定ノ法ナルベキコト一見明カナラム。ソノ餘ハ活用マタハ假名遣ノ誤ニテ、コレ迄モ屢々訊キタル事ドモナレバ、一一説明スル要ナカラム。

四三 例ヲ擧ゲテ左ノ句ノ意義ヲ文法上ヨリ説明セヨ

無くば
無ければ
無かりせば　（四〇、男）

解答　無くばハ形容詞無しノ未然段ニ條件法ノ助詞ばノ添ハリタルモノニテ「若シ無イナラバ」ノ意。コレヲ假定條件法、又ハ順態假定前提法トイフ。「異議なくば採決せん」ノ如シ。

無ければハ無しノ已然段ニ同上ノばノ添ハレルモノニテ、コレヲ既定條件法、又ハ順態確定前提法トイフ。「無ケレバ」「無イカラ」等ノ意也。「世に望み無ければ煩悶も起らず」ノ類。

無かりせばハ無しノ連用段無くカ良變ノありニ接シテ無かりトナリ、ソノ連用段無かりニ、過去ノ助動詞しかニ對スル未然段トモイフベキせガ接シ、更ニばソ加ハリタルモノニテ、既ニアリタル事ヲ「若シナカツタナラバ」ト後ヨリ反シイフ意ナル也。例ヘバ「忠君愛國の念なかりせばなどてかかる偉勳をば立つべき」ノ如キコレ也。

四四　左ノ文ニッキテ品詞ヲワカチ且活用スル語ハソノ段(法)ヲモ示セ

いまにきつと立派な方におなりなさるでございませう　（四〇、男）

名	助	副	名	助動(連體)	名	助	接頭	動(連用)	動(連體)	助動(未然)	助動(終止)
いま	に	きつと	立派	な	方	に	お	なり	なさる	で	ございませう
副			形容動詞								

解答　ませうノ助動(終止)ハ「ませ」ノ未然段ニ助動詞うノ添ハレルモノト說クモアランカ。サレドナホなさらん、なさり、なさる、なされノ如ク四段ニ活用スル敬語動詞ト見ルヲ可ナリトセン。ございますハ「在ル」トイフ意ノ漢語御座ト和語いますトノ連結ナリト說クモアレドイカガアラム。余ハ御座ありトイフ語ニますノ接シタルモノト云ハント欲ス。まうすハモトいますト同義ノ動詞ナルベキコト論ナケレド、今ハ既ニソノ義ヲ失ヒ、助動詞トシテ取扱ハルベキモノトナレル也。コノ說ニヨリテ頗中ナルませうノ語ノ系統ヲ表示スレバ

ござ——(あ)り(い)——ませ——う　(あ)ハ省畧セラルルコトヲ示シ(い)ハ音ノ轉ズルヲ示ス。
御座　　うハむトイフ文語ノ未來ノ助動詞ノ轉形ナルコト元ヨリ也。
goza + ari + mase + u　　ローマ字ノ分ニツイテ考察セバ更ニ明カナラム。

四五　今日トイフ語ヲ修飾語トセル文ト主語ニセル文トヲ一ツヅツ作レ　（四〇、男）

解答　余は今日東京に着したり
主　修
今日は四月一日なり

四六　左ノ文ヨリ動詞助動詞ヲエラビ出デテソコニ用ヒラレタル段(法)ヲ示セ

ボアソナードの任ををへて本國に歸らんとするや井上氏は病のために其の送別會に出席することあたはざりしかば人をして餞の言を述べしめたりき　（四〇、男）

解答　をへ＝動、連用段　歸ら＝動、未然段　ん＝助動、終止段　する＝動、連體段

出席する＝動、連體段　あたは＝動、未然段　ざり＝助動、連用段　しか＝助動、已然段　述べ＝動、未然段　しめ＝助動、連用段　たり＝助動、連用段　き＝助動、終止段

四七　左ノ文ノ意義ノ異同ヲ説明セヨ

太郎次郎と三郎を訪ふ

太郎と次郎と三郎を訪ふ

太郎次郎と三郎とを訪ふ　（四〇、男）

解答　第一ノ文意ハ「太郎ガ次郎ト共ニ三郎ヲ訪フ」也。第二ノ文意ハ「太郎ト次郎トガ共ニ三郎ヲ訪フ」也。コノ二文ハツマリ同一事ナレド、前者ハ太郎ガ主タル意アリ、ココノトハ「ト共ニ」ノトナリ、後者ハ太郎ト次郎ト對等ニシテトハ「對立」ノトナリ。第三ノ文意ハ「太郎ガ次郎ト三郎トコノ二人ヲ訪フ」也。前二者ト全ク相異ナリ。

四八　左ノ文ニ文法上ノ誤謬アラバ訂正セヨ但シ理由ヲ述ブルヲ要セズ

いかなる方便を用ふれども目的すら正しければ可なりといひ得るや　（四〇、男）

解答　いかなる方便を用ふとも目的だに正しくば可なりといひ得るか

參考　だにトすらトハ畧相同ジク時アリテ全ク相通用スルモ差支ナキ場合ナキニアラネド、モトだにハ「デモ」「ダケ」等ニアタリ、すらハ「ヤハリ」「ナホ」等ニアタルモノナレバ、本文ノ如キ場合ニハ全然混用シガタキナリ。用ふとも、正しくばノ如ク改メタルハ假定ノ論法ナレバ也。可なりヲ改メザルハ確定ノ論斷ナレバナリ、コノ事前ニモコトワリオキタリ。やハ終止ニ接スベシ、サレド得やトイハシハ文調上イカガハシケレバ連體所接ノかニ改メタル也。

四九　左ノ文ノ漢字ニハ訓假名ヲツケ且活用スル語ハソノ活用ヲ記セ

櫂折れ舟傾きて渦巻く水底に沈みぬ　（四〇、女）

解答　櫂（かい）折れ舟（ふね）傾（かたむ）きて渦巻（うづま）く水底（みなそこ）に沈（しづ）みぬ

活用＼語	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
折れ	動	下二	れ	る	るる	れる	れよ
傾き	動	四段	か	く	く	け	け
渦巻く	動	四段	か	く	く	け	け
沈み	動	四段	ま	む	む	め	め
ぬ	助動	（時）	な	ぬ	ぬる	ぬれ	ね

五〇　左ノ文ニ誤アラバ正セ

志いかに堅くも身體弱ければ目的を達し得まじ　（四〇、女）

解答　志いかに堅くとも身體弱くば目的を達し得まじ（得じ）

參考　コノ文ハ前後スベテ假定ナレバ既定弱ければヲ未定弱くばニ改メタル也。堅くもノ如キ形式ハとも、どもノイヅレカニ改ムベシ。而シテ、ともハ形容詞ニ限リ、其連用ニ接クベキモノタルナリ。得まじヲ「エまじ」ト讀ム時ハ

過誤トナル、まじハ終止所接ノ助動詞ナレバ也。カカル所ハ得じト書クノ誤ヲ生ズルコトナキニハ若カザルベシ。

五一 左ノ文ヲ單語ニ分解シテソノ品詞ノ名稱ヲ記シ且活用スル語ハソノ段(法)ヲモ示セ

今朝は雲霧なごりなく晴れて海山はるばると見渡さる　(四〇、女)

解答

今朝	は	雲霧	なごり	なく	晴れ	て	海山	はるばる	と	見渡さ	る
名	助	名	名	形(連用)	動(連用)	助	名	副	助	動(未然)	助動(終止)
			副								

五二 左ノ語ノ異同ヲ説明セヨ

(イ)有らなむ　有りなむ

(ロ)見るとも　見れども　(四〇、女)

解答 (イ)有らなむハ「アツテホシイ」トイフ願望ノ意、願望ノ咏嘆詞なむガ動詞有リノ未然段有らニ接シタルモノ也。有りなむハ「アルダラウ」ト云フ未來完了ノ意ニテ、詞動有リノ連用段ニ現在完了ノなガ接シ、更ニ未來ノむノ加ハリタルモノ也。(ロ)見るともハ「タトヘ見テモ」ノ意、逆態假定前提法ニテ、動詞見るノ終止段ニともトイフ助辭ノ接シタルモノ、見れどもハ「見タツテ」「見ルケレドモ」等ノ意、逆態確定前提法ニテ、動詞見るノ已然段ニどもトイフ助辭ノ接シタルモノ也。

五三 左ノ動詞ノ活用形ヲ表ニテ示セ

潰ゆ、仰す、死ぬ、媚ぶ、射る、(四一、男)

解答

語＼活用	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
潰ゆ	下二	え	え	ゆ	ゆる	ゆれ	えよ
仰す	下二	せ	せ	す	する	すれ	せよ
死ぬ	奈變	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね
媚ぶ	上二	び	び	ぶ	ぶる	ぶれ	びよ
射る	上一	い	い	いる	いる	いれ	いよ

五四 左ノ助動詞ヲ含メル説明語ヲ有スル文ヲ作レ

(甲)使役、打消、過去、(乙)受身、推量、(四一、男)

解答 (甲)父、子を學校に入らしめ　使役　打消　ざり　過去　き

(乙)敵艦やがて撃退せらる　受身　推量　べし

五五 左ノ文ヲ普通文ニ書キ改メヨ

あくる朝劉邦は張良樊噲をつれて鴻門に行つたそして項羽にいふには私はあなたと力を合せて秦を攻めましたあなたは黄河の北で戰はれ私は黄河の南で戰ひましたしかし私はまづ秦の都に攻め入ることができたのは自分ながら案外です私に惡意はありませんわるく思つてくださるなといふと項羽もあなたをうたうとしたのは私の心

から出たのではありませんといつでいるゝと馳走をして劉邦をもてなした

解答 翌朝、劉邦は、張良・樊噲を伴ひて、鴻門に到り、項羽に向ひて云ふやう「余は、君と力を合せて、秦を攻めぬ。君は、黄河の北にて戰はれ、吾は、黄河の南にて戰ひしが、おのれ、先づ、秦の都に攻め入ることを得たるは、我ながら意外とする所なり。我に惡意あるにあらず、惡しうな思ひ給ひそ」といふ。項羽も「君を討たんとしたるは、余が心より出でたるにはあらず」とて、さまゝに馳走して劉邦をもてなしけり。

五六　動詞ノ音便ニツキテ知レルコトヲ記セヨ　（四一、女）

解答 動詞ノ音便ハ凡ソ次ノ四種ニシテ、イヅレモ連用段也。

一、伊音便　書きてヲ書いて　置きてヲ置いて

二、宇音便　云ひてヲ云うて　隨ひてヲ隨うて

三、撥音便（鼻音便）　止みてヲ止んで　飛びてヲ飛んで

四、促音便　持ちてヲ持つて　戰ひてヲ戰つて　去りてヲ去つて

五七　左ノ施線ノ語ノ異同ヲ說ケ

（イ）花は咲けりや　珍らしやこの花

（ロ）心あらむ人に見せばや　心あてに折らばや折らむ　（四一、女）

解答 （イ）花は咲けりやノやハ疑問ノ助詞ニシテ、珍らしやこの花ノやハ感嘆詞ノや也。疑問ノやハ終止段ニ接ス。

（ロ）心あらむ人に見せばやノばやハ自己ニ對スル希望ヲイヒアラハス助詞也、大槻氏ハコノやハ感嘆詞ニシテ「見せばやなべテハばやヲ感嘆ノ助詞ト見テ差支ナカラム。折らばや折らんノばやハ假定條件法ノ折らばニ疑問助辭ノやガ添ハリタルモノニテ「折ルナラ折ラウカ」ノ意、卽チ折らば折らんやノやガ上部ニ移レルマデ也。

（ヨケム）や」ノ如キ言葉ノ省畧セラレタルモノナリトテ見せばノばトやトヲ分チ說ケリ、ソレモサルコトナガラ、カイナ

五八　係結ニツキテ知レルコトヲ記セ　（四一、女）

解答 係結ハ强勢ニ關スル文法上ノ約束ニシテ

一、そ、なんヲ「二段ノ係」トモ「ぞなんノ係」トモイヒ

二、こそヲ「三段ノ係」トモ「こそノ係」トモイフ。

文ハ用言ハ終止段ヲ以テ結ブベキモノナルヲ、若シ上ニコレラノ係アル時ハ

一、「ぞなんノ係」ニ對シテハ用言ノ連體段ヲ以テ結ビ

二、「こそノ係」ニ對シテハ用言ノ已然段ヲ以テ結ブ

コトトナル也。例ヘバ

一、人ぞ見えぬ。月ぞ出でたる。

二、人こそ見えれ。月こそ出でたれ。

ノ如シ。コノ係ヲ有スル語ト、結トナル語トハ、必ズ思想上ノ連絡アランコトヲ要ス。サレバ主文ノ係結ト插入句ノ係

結トハ全ク沒交渉ナルベキナリ。一例ヲ擧グレバ、「彼の人こそ月は出でぬといひけれ」トイフベク、コレヲ「彼の人こそ月は出でぬれといひね」トセバ誤ナルガ如シ。

五九 讀まるトイフ語ノアラユル意義ヲ說ケ（四一、女）

解答 一、受身（讀マレル）祕密の手紙を人に讀まるノ類

二、敬語（ガ讀ミニナル）君は毎朝書を讀まるかノ類

三、可能（讀メル）難解の書も努めて讀まば讀まるべしノ類

凡ソ以上ノ三種ナルガ、尙時トシテ「自然ニ讀ム氣ニナル」ノ意ニテ、文机（フヅクエ）に向へばまづぞ書打（フミ）ふまるノ如ク云フコトモアルベシ。

六〇 左ノ文ニツキテ附線ノ語ヲ說明セヨ

急ぎしが及ばざりき

家の風をも吹かせてしがな

昨日こそ早苗とりしか

召されしかば參りき

何事もなかりしか（四二、男）

解答 急ぎしがハ過去ノ助動詞しニ、事ノ裏返ル意、又ハ案外ニ出デタル意ノ助詞がノ接シタルモノニテ「急イダケレドモ」ノ意也。吹かせてしがなハ過去ノ助動詞しニ願望ノ意ノ詠嘆詞がなノ添ハレルモノニテ、「吹カセテモラヒタイモノダ」ノ意。早苗とりしかハ過去ノ助動詞きノ已然段ニテこにニ對スル結ナリ。召されしかばハ同ジキ過去ノきノ已然段がばヲ取リテ既定條件法ヲナセルモノニテ「召サレタカラ參ツタ」ノ意也。最後ノなりしかハ過去ノしニ疑問ノ助詞かノ添ハレルモノニテ「何事モナカツタカ」ノ意也。

六一 左ノ文ニツキテ活用スル語ヲ擇ビ出シソノ活用形ヲ表ニシテ示セ

血族とは血統の連續せる者をいひ之を直系親傍系親の二つとす

强者存して弱者滅び强國榮えて弱國衰ふ（四二、男）

解答

品詞＼活用	活段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
動詞	いひ	四段	は	ひ	ふ	ふ	へ	へ
	す	左變	せ	し	す	する	すれ	せよ
	存し	左變	せ	し	す	する	すれ	せよ
	滅び	上二	び	び	ぶ	ぶる	ぶれ	びよ
	榮え	下二	え	え	ゆ	ゆる	ゆれ	えよ
	衰ふ	下二	へ	へ	ふ	ふる	ふれ	へよ
助動詞	せる（現在完了）	せら	せり	せり	せる	せる	せれ	○

六二　死ぬトイフ語ノ活用ガ口語ト文章語トニ於テ相違ノ點アリヤ若シアラバ説明セヨ

（四二、女）

解答　死ぬトイフ語ハ口語ニテハ四段ニ活用シ、文語ニテハ奈行變格ニ活用ス。左ノ如シ

活段／區別	未然	連用	終止	連體	已然	命令
口語　四段	な	に	ぬ	ぬ	ぬる	ぬれ	れ
文語　奈變	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	れ

六三　推量ノ助詞動ヲ列擧シテソガ動詞ト連續スル方法ヲ説ケ（四二、女）

解答　推量ノ助動詞ハらむ、めり、らし、ましノ四ナリ。

らむハ押すらむ、受くらむノ如ク諸動詞ノ終止段ニ連リ、良變ニノミハ有るらむ、侍るらむノ如クソノ連體段ニ連ル。

めりモ流るめり、往ぬめりノ如ク諸動詞ノ終止段ニ連リ、良變ニノミハあるめりノ如クソノ連體段ニ連ル。

らし　亦上例ト同ジク諸動詞ノ終止段ニ連リ、良變ニノミハ連體段ニ連ル。

ましハ以上ノ三種ト異ナリ、凡テノ動詞ノ未然段ニ連ル。有らまし、報いまし、死なまし、行かましノ如シ。

六四　助詞ともどもノ二ツガ動詞形容詞ニ連續スル方法ヲ説ケ（四二、女）

解答　ともハ動詞ノ終止段、形容詞ノ連用段ニ連リ、どもハ動詞、形容詞共ニ已然段ニ連續ス。一例ヲ示セバ次ノ如シ。

動詞　來シ	未然　こ	連用　き	終止　くトモ	連體　くる	已然　くれドモ	命令　こよ
形容詞　善シ	く	くトモ	し	き	けれドモ	○

六五　左ノ文章中ニアル動詞ト副詞トヲ指示セヨ

恐る〳〵神前に進みて願はくは神慮を告げ給へとしきりに額づきぬ（四二、女）

解答　動詞　進み、告げ、給へ、額づき

副詞　恐る〳〵（動詞恐るヲ重用セルモノ）　願はくは（動詞願ふノ延音ニ助詞はノ添ハレルモノ）　しきりに（動詞しきるヨリ轉來シテ助詞にノ添ハルモノ）

外國語學校

一　左ノ語句ノ誤謬ヲ説明セヨ

(イ)從ふて　(ロ)堪ゆべけむや　(ハ)業を終れり　(ニ)彼の件を任したり　(ホ)委細は後よりしらさむ　(ヘ)下されまじく候ふ　(三五)

解答　(イ)從ひてノ音便ナレバ從うてトアルベシ。(ロ)堪ふバ波行下二段ナレバ堪ふべけむやトアルベシ。(ハ)終れりハ自動詞ナリ、業を終へたりトアルベシ。(ニ)任すハ下二段ナレバ彼の件を任せたりトアルベシ。(ホ)しらすノすハ下二段ノ如キ活用ノ使役助動詞ナレバ委細は後よりしらせむトアルベシ。(ヘ)まじハ終止段所接ノ助動詞ナレバ下さるまじく候ふトアルベシ。

二　左ノ文ノ時刻ハ如何

昨年是とするところ、今年その非を知り、今年是とするところ、明年、その非を知る。(三五)

解答　昨年ハ過去、明年ハ未來ナレバ

昨年是とせしところ、今年、その非を知り、今年是とするところ、明年、その非を知らむトアルベキナリ。

サレド世態人情ノ通則ヲ論ズルガ如キ場合、往々問題ノ如ク時ヲ顧ミザル文ノ是認セラレザルニモアラズ。ソハ元ヨリ或特殊ノ場合ニ限ルコトニテ、改正文ノ如カルヲバ原則ト心得ベキ也。

三　語格文法ノ誤謬訂正

本日御尋仕筈に候得共、少々用事出來候に付、明日參上仕候。御都合よろしければ、かの御約束の書籍は、この使に御渡被下度候。(三六)

解答　本日御尋仕筈に候へ共、少々用事出來候に付、明日參上可仕候。御都合よろしくば、かの御約束の書籍は、この使に御渡被下度候。

參考　候ふハ四段活用ノ動詞ナレバ候得共トハイフベカラズ、但書翰文特用ノ語格トシテ一般ニ通用セルモノ也。「候ひしが」ナド云ハバ文法上時ノ觀念ハ一層正確ナルモノトナルベシ。よろしければハ形容詞よろしノ已然段ニばノ添ハレル既定ノ條件ナリ。都合ヨロシキカ否カハ他人ノ事ニ屬スレバ、カク既定ニハイフベカラズ、「若シ御都合ガヨイナラバ」ノ意ナレバ、よろしくばト未定ノ條件ナルベキコト元ヨリ也。尋れ、仕る、候ふ、渡し等活用ノ假名ヲ加フルガ正シキコト論ナケレド、コレヲ省畧スルハ殆ンド書翰文ノ常例ナレバ、敢テ誤トハイフベカラジ。

四　各動語ノ語尾ハ五段ニ變化スルモノナリソノ變化毎ニ有スル格法　(三六)

解答　各動詞ノ語尾ハ六段ニ變化スト説クヲ普通トス、五段トイヘルハイカニカ。六段ノ名稱ハ通常トイヘリ。今各段ノ有スル重ナル格法ヲ表示スレバ左ノ如シ。

未然段　連用段　終止段　連體段　已然段　命令段

未然段
(1) 不然法(ズ)　行かず、見ず
(2) 將然法(ム)　行かむ、見む
(3) 假定條件法(バ)　行かば、見ば

連用段
(4) 名詞法　學びの道、まひを舞ふ
(5) 中止法　書を讀み字を習ふ、月を見花を賞す
(6) 連用法　行き過ぐ、笑ひ興ず

終止段
(7) 第一終止法　學校に行く、字を書く
(8) 逆態假定前提法(トモ)　雨降るとも、春來ども

連體段
(9) 第二終止法　花ぞ咲く、鳥なん啼く
(10) 連體法　咲く花、なく鳥
(11) 第三終止法　花こそ咲け、鳥こそ啼け

已然段
(12) 既定條件法(バ)　花咲けば、月見れば
(13) 逆態確定前提法(ドモ)　行けども、雨降れども

命令段
(14) 命令法　行け、見よ

五　左ノ文句中ニ語法上ノ誤アリ、正セ。

(イ) 性質慧敏にして事務に通曉の者を要す。
(ロ) 此の處塵芥を捨てべからず。
(ハ) 此の土地は此の木に適するや。(三七)

解答　(イ) 性質慧敏にして事務に通曉せる者を要す。
(ロ) 此の處塵芥を捨つべからず。
(ハ) 此の土地は此の木に適するか。

參考　(イ) にしてハ助動詞ノ中止法ナレバ、下亦助動詞ノ連體段ヲ以テスルニアラザレバ相共ニ者トイフ體言ニハ係ルベカラズ、又事務にノにモ下ニ用言ヲ承クベキ助詞ナリ、旁通曉せるトイハネバ叶ハヌ也。

六　左ノ文句ノ内ニ假名遣及ビ文法上ノ誤謬アラバ正セ

(イ) 予が閑窓のもとにこつ〳〵と聞ゆる音終日やまずいかなるものゝひゞきにやと窓を推してこれを伺ふに老さらばへし翁の眼がねをかけて筵の上に石臼の目を切りて居たり(雲萍雜志)

(ロ) 今より我徒弟となりて世をのどかにくらし生涯無事に過るの志はなきやもし二人ともその志あらば今より直に伴ひて法をつたへて一庵の留守居ともなして得さすべし

（同上）

（ハ）かの中吉が忠功をあらはさんとて口の内に中としるしてこれを家の印として今も浪華にとゞまさかへしとぞ（同上）（三八）

參考（イ）いかなるもののひびきにかチいかなるもののひびきにかト改ム。さらばへしチさらばひしト改ム。（ロ）過るの志ノのチトリ、過るチ過ぐるトナス、但コノのチハ強ヒテ誤トハイフマジキコト前ニ既ニイヘルガゴトシ。なきやチなきかト改ム。（ハ）とみさかへしとぞチとみさかゆとぞト現在ニ改ム、今もトイフ語ニ對シテ也。

七　左ノ文句中ニ語法上ノ誤アラバ正セ

彼の者はいつごろ上京するべしと申せしや（三九）

解答　彼の者はいつごろ上京すべしと申ししか

參考　べしハ終止段所接也。申すハ四段活用ニシテしハ連用段所接。やハ終止ニ接スベクかハ連體ニ接スベシ。

八　左ノ文ノ中ニ文法上ノ誤謬アラバ、ソヲ訂正シ、ナホ、ソノ誤謬タル所以ヲ略述セヨ

云ひ寄る由のなきまゝに、琴を學ばん爲にとて來りつるとはいひしなり、こは長者を欺くに似たれども、その虛言は已むことを得ざりし實情より出でたるなれば、許されて對面せられば、肝膽を吐き、志願を告げて、翁の助を借らんと欲す、かくても意に叶はずば、退けられんこと勿論たるべし。（四〇）

解答　來りつるチ來りつト改ムベシ、とハ文ノ終止ニ接スベキ助動也、而シテ琴を學ばん爲にとて來りつトイフ插入文ニハ第二ノ係語等アルニアラザレバ、第一終止ニテ結バルベキコト論ナシレバ也。許されて對面せらればノ上ニ若しノ語チ加ヘせらればチせられなばノ如ク改メバ意義モ明カニ口調モ滑カナルベシ。サレドコハ文法上ノ誤謬トハイヒ難カルベシ。許され、對面せられノ如ク敬語重複スレバ、上チ許しテト改ムルモ可。

九　忠度、（俊成に）宣ひけるは「かかる身として、御ため憚あれども、一門榮華盡きて、都に安堵せず、西海へ落ち下り侍る、亡びん事疑なし、世靜まりて後、定めて勅撰の沙汰候はんか、縱ひ身は八重の鹽路の底に沈むとも、藻鹽草かき置く末の言の葉、後の世までも朽ちず、片見に傳はり侍れかし、と思ひ出で、河尻より忍び上りて候、これぞ年頃よみ集めたりし舊詠どもにて侍る、身と共に波の下に水屑となさん事、遺恨に侍り、之を砌下に進らせ置き候、勅撰の時は、必ず思召し出だせよ」とて、卷物一卷、泣く泣く、鎧の引合せより取り出でたり。

（イ）右ノ文ノ中ニ、文句ノ末ニ、或ハ侍るトアリ、或ハ侍りトアリ。是ニ對スル文法上ノ論議如何

（ロ）右ノ文ノ中ニ、思ひ出で、取り出でたり、思し召し出だせよナドアリ。他動詞ノ場合ノ出ノ活用ニ對スル論議如何（四一）

解答　(イ)侍りハ良變ナレバ遣恨に侍りノ如ク第一終止ノ際ハ侍りトアルベシ。舊詠ともにて侍るトアルハ上ノこれぞニ對スル第二終止ナレバ也。落ち下り侍るハ下ニ「上は」ナドイフ語ノ書畧セラレタルモノトイフベク、卽チ連體ノ形ニシテ眞ノ文ノ終止ニハアラザル也。

(ロ)いづトイフ下二段活用ノ語ハ自動詞トシテ用キ、之ニ對スル他動詞ハ佐行四段ノ出すヲ用ヰルガ常ナレド、古クヨリいひいづ、とりいづ、えりいづノ如ク或種ノ熟語動詞ニ限リ他動詞トシテモ用ヰラレタル也。

一〇　左ノ文ニ誤謬アラバ正セ

明日は水曜なりや。今日は何曜日なりや。

明日もまたこゝに來るべし。明日もまた君を訪問すべし。(四二)

解答　第一ノ文ハ正シ。第二ノ文ハ「今日は何曜日なるか」トイフベシ、上ニ疑問辭アル時ハ下ハかニテ結ブガ法ナレバ也。第三ノ文ハ「明日もまたここに來べし」トアルベシ。べしハ良變ノ外ハ終止ニ接スベキ語ナレバ也。第四ノ文ハ正シ。

專門學校入學者檢定試驗

一　次ノ文章ニ誤謬アラバ訂正セヨ

(イ)學問さするはそも〳〵何の爲なりや

(ロ)酸素と水素とを化合せば水とならむ

(ハ)もし御意見も候へばゆめ〳〵御遠慮下されまじく候　(三六)

解答　(イ)學問せさするはそも〳〵何の爲なるか

(ロ)酸素と水素と化合せば水とならむ

(ハ)もし御意見も候はばゆめ〳〵御遠慮下さるまじく候

參考　(イ)さすハ動詞ノ未然段ニ接スベキ助動詞ナレバ學問ヲ一應佐變ニ活用シ、ソノ未然段學問せヨリコレヲ連ヌベキナリ。(ロ)化合すハ元素自身ノ働ナレバ水素をトハイフベカラズ、とハ上下ニ並置スベキ助詞也。(ハ)もしニ對シ未定ノ候はばナルベキコト元ヨリ也。まじハ終止所接ナレバ下さるまじトイフベシ。

二　次ノ文ヲ品詞上幷ニ文章上ヨリ解剖セヨ

櫻ちる木下風は寒からで空に知られぬ雪ぞ降りける　(三六)

解答　品詞上　櫻＝名　ちる＝動　木下風＝名　は＝助　寒から＝形容動詞　で＝助　空＝名　に＝助　知ら＝動　れ＝助動　ぬ＝助動　雪＝名　ぞ＝助　降り＝動　ける＝助動

文章上

副詞句

主 述
櫻 ちる

主 述
木下風は 寒からで

形容句

第二客 述
空に 知られぬ

主 述
雪ぞ 降りける

複文

三 疑ノや、か及ビ禁止ノなヲ適當ニ有り、爲、死ノ三語ノ下ニ附ケヨ（三七）

解答 有りや　有るか　有るな
や　爲や　爲るか　爲な
死ぬや　死ぬるか　死ぬな

爲ハすト讀ム佐行變格活用ナリ

四 例ヲ擧ゲテ左ノ語ノ自動詞ナルカ他動詞ナルカヲ辨明セヨ

去る、癒ゆ、增す、渡る、告ぐ、（三七）

解答 去るハ自他兩樣ナリ、「今を去る事五百年」「苦痛漸く去る」等ハ自動詞。「友人妻を去る」「苦痛を去る」ナドイフハ他動詞ナリ、今を去るナドイフ時ノをハ目的格ニアラズ、ヨリノ意味ト知ルベシ。癒ゆハ「病癒ゆ」ナドイヒテスベテ自動詞也。增すハ自他兩樣也、「數增す」ナドハ自動詞ニテ、「數を增す」トイヘバ他動詞也。渡る自動詞也、「川を渡る」「月日をわたる」ナドノ類ニテ、コノをモ目的格ニアラズ、位置ヲ示シテ名詞ヲ副詞ノ格ニナスモノ也。告ぐ他動詞也、「思を告ぐ」「天下に告ぐ」ノ類也。

五 左ノ文中誤アラバ正セ

(一)年老ゐて悔ふともかひなし　(二)鐘の音冴へて聞ゑたり

(三)わが爲しえざることは人に强ゆべからず（三七）

解答 (一)年老いて悔ゆともかひなからむ　(二)鐘の音冴えて聞えたり

(三)わが爲しえざることは人に强ふべからず

參考 (一)ノ文末かひなしトアリテモ時トシテ正シカルベキコト前ニ既ニアゲツラヘルガ如シ。ソノ餘ハミナ動詞活用ノ誤也。

六 花や咲きなむ　花も咲かなむ　花見にとてなむ行きける

文法上右ノなむノ區別ヲ立テヨ（三八）

解答 咲きなむノなむハ現在完了ぬノ未然段ナニ未來ノむノ添ハレルモノニテ未來完了ノ意也。咲かなむノなむハ他ニアツラヘイフ意ニテ願望ノ詠嘆詞ナリ。とてなむ行きけるノなむハ第二段係ノ助詞也。

七 左ノ文章ニ文法上ノ誤アラバ正セ

或法律家のしるせし文に、罪人の譴責さるゝところを、人に見せしむるは、惡しゝと覺ゆるなりとありし（三八）

解答 或法律家のしるしし文に、眼人の讀賣せらるるところを人に見しむるは惡しと覺ゆるなりとありき。

八 助動詞ノむトイフ文語ハ口語ニテイカニ書キ改ムベキカソノ例ヲモ示セ。（三八）

解答 うト書クベシ。ミニ＝ロノ如ク父音ノ省畧セラレタルモノナルベケレバ也。行かむ＝行かう。學ばむ＝學ばう ノ如シ。但シ見る、着るノ如ク一段活用ナルハやうトナル。見む＝見やう。着む＝着やうノ類也

九 左ノ文章ニツキテ用言ノ時ヲ說明セヨ

（イ）日暮れぬいざ歸りなむ　（ロ）家の風をも吹かせてしがな（三九）

解答 （イ）暮れぬ＝現在完了（暮るトイフ働ノ今マサニ終レル意）　歸りなむ＝未來完了（ぬノ未然形なニ未來ノむノ添ハレルモノニテ歸るトイフ働ノ未來ノ或時ニ終ルベキ意ココハ誘ヒ促ス意ニイヘル也）

（ロ）吹かせてしがな＝過去完了（つノ連用段ニ過去きノ連體段しノ添ハレルモノニテ過去ノ或時ニ吹かすトイフ働ノ完クナレルヲイフ意ガ吹かせてしトイフ内ニ含マレアル也。コレニかなトイフ願望辭添ハリテ願ノ意ヲアラハス也）

一〇 左ノ三ツノなヲ區別セヨ

（イ）花の色はうつりにけりな　（ロ）主なしとて春な忘れそ、（ハ）あそび暮らさな（三九）

解答 （イ）ノなハ感嘆辭也。日語ノ「ナー」「ヲイ」等ニ當ル。（ロ）ノなハ下ノそト相應ジテ打消トナル副詞也。（ハ）なハなむノ類ニテ用法殊ニ古シ、願望、アツラヘ等ノ意ヲアラハス感嘆辭也。口語ノ「何々シテホシイ」「何々スルガヨイ」等ニ當ル。

一一 左ノ文章ヲ品詞ニ解剖セヨ

（イ）見せしめのため嚴重に處罰す　（ロ）色こそ見えね香やはかくるゝ（三九）

解答 （イ）名（假體言）　助　名　副　動　（ロ）名　助　動　助動　名　助　助　動
（イ）見せしめ　の　ため　嚴重に　處罰す　（ロ）色　こそ　見え　ね　香　や　は　かくるる

一二 左ノ兩樣ノ書キ方ニツキテ文法上ノ正否ヲ判別シ其ノ理由ヲ說ケ

（イ）人に笑はれまじと勵みぬ　人に笑はるまじと勵みぬ

（ロ）楠公は忠を盡しし人なり　楠公は忠を盡せし人なり（三九）

解答 （イ）笑はるまじトアル第二ノ文ヲ正シトス　まじハ終止段所接タリ、然シテるトイフ受身ノ助動詞ノ終止ハるナレバ也。（ロ）盡ししトアル前ノ文正シ。しハ佐變ト加變トニ例外アル外連用段ニ接スベキモノタリ、然シテ盡すハ四段活用ノ動詞ニテ、ソノ連用段ハせニアラズしナレバ也。せしトイフハ佐行下二段ノ載せし及佐變ノ勉強せしノ類ト知ルベシ。

一三 次ノ助動詞ヲ口語ニ講スベシ

べし、まじ、めり、（四〇）

解答 一、ダラウ　不日到着すべし
二、デキル　大海も渡るべし

三、答ゲ　國民みな兵たるべし

四、ヤサイ　明日出頭すべし

まじ　マイ　來まじ、往くまじ

めり　トミエル　秋は往ぬめり、もみぢ亂れて流るめり

一四　次ノ語ノ活用ヲ記セ

覺（おぼ）　霞（かす）　敎（をし）　帶（ぬ）　（四〇）

解答

語＼活用段	未然	連用	終止	連體	已然	命令
覺	下二 え	え	ゆ	ゆる	ゆれ	えよ
霞	四 ま	み	む	む	め	め
敎	下二 へ	へ	ふ	ふる	ふれ	へよ
帶	上二 び	び	ぶ	ぶる	ぶれ	びよ

一五　次ノ文ヲ單語ニ分解シ然シテ其ノ各品詞ノ名稱ヲ記セ

(イ)面白く遊ばんと欲せばよく勉强したる後ならざるべからず

(ロ)櫻花美しく咲きて蝶の輕げに飛ぶさまは絶えてなき風景なり　（四〇）

解答

(イ)面白く　形　遊ば　動　ん　助動　と　助動　欲せ　動　ば　助動　よく　形　勉强し　動　たる　助動　後　名　なら　助動　ざる　助動　べから　助動　ず　助動

(ロ)櫻花　名　美しく　形　咲き　動　て　助動　蝶　名　の　助　輕げ　助動　に　助動　飛ぶ　動　さま　名　は　助　絶え　助動　て　助動　なき　形　風景　名　なり　助動

一六　左ノ語句ニ誤アラバ正セ

(イ)笑ふて答えず

(ロ)汝は何歳なるや

(ハ)飢えたる人に食をあとふ

(ニ)市街の中央に大砲を据へて頻りに打ち出せしかば諸軍勢に乘じて進みし

(ホ)恥じて能く改め覺へて忘れず　（四一）

解答

(イ)笑うて答へず

(ロ)汝は何歳なるか

(ハ)飢ゑたる人に食をあたふ

(ニ)市街の中央に大砲を据ゑて頻りに打ち出ししかば諸軍勢に乘じて進みき

(ホ)恥ぢて能く改め覺えて忘れず

一七　左ノ文章中ニ誤アラバ之ヲ正シ且ソノ理由ヲ述ベヨ

(イ)此所に塵芥葉でべからず

(ロ)仁德天皇はいと慈仁におはしゝ君なり (四一)

解答 (イ)葉でべからず(ヲ)葉つべからずト改ム。べからずハ終止所接ノ助動詞、葉つハ下二段活用ニテソノ終止段ハ葉つナレバ也。(ロ)おはしし(ヲ)おはせしト改ム。おはすハ四段活用ニアラズ、佐行變格ナリ、而シテ過去ノきハ佐變、加變ニ限リ左ノ如ク特殊ノ方法ニテ連ナルマキモノナレバ也。

	未然	連用
佐變	せ(しか)	し(き)
加變	來(こしか)	來(きし)

一八 左ノ歌ノ中ニアル單語ヲ各品詞ニ分チ且活用アルモノハ之ヲ示セ

春雨のふるはなみだかさくらばなちるををしまぬ人しなければ (四一)

解答 春雨(名)の(助)ふる(動)は(助)なみだ(名)か(助)さくらばな(名)ちる(動)を(助)を(助)しまぬ(動)人(名)し(助)なければ(形)

活用 ＼ 語	未然	連用	終止	連體	已然	命令
四段	ふら	ふり	ふる	ふる	ふれ	ふれ
四段	ちら	ちり	ちる	ちる	ちれ	ちれ
四段	をしま	をしみ	をしむ	をしむ	をしめ	をしめ

一九 左ノ文ヲ品詞ニ分解シ且別ニ其主語ト述語トヲ指示セヨ

古の聖賢と聞えし人も世の疑を免れ給はぬ事多かり。正しき證なからんには漫に人を疑ふべからず (四二)

解答 古(名)の(助)聖賢(名)と(助)聞え(動)し(助動)人(名)も(助)世(名)の(助)疑(名)を(助)免れ(動)給は(動)ぬ(助動)事(名)多かり(形)。(人)正しき(形容動詞)證(名)なからんには(形容動詞)漫に(副)人を(名)疑ふべからず(助動)

ぬ	(否定)	ず	ず	ず	ぬ	れ	○		
なけれ	久活	なく	なく	なし	なき	なけれ	○		

参考 今文章法ニヨリ更ニコノ文ヲ解剖スレバ左ノ如シ

形容句

修(形) 古の

補 聖賢と聞えし

述

主 人も

修(形) 世の

客 疑を

免れ給はぬ

述

主 事

多かり

述

副詞句

主 (人)

修(形) 正しき

主 證

なからんには

述

修(副) 漫に

客 人を

疑ふべからず

述

複文

複文

二〇　例ヲ擧ゲテ係結ノ法則ヲ說明セヨ　（四二）

解答　高師第五十八問ヲ見ヨ

二一　次ノ文ノ誤ヲ正シ且其ノ理由ヲ詳說セヨ

（イ）人と禽獸の差異は言語を有すと有せざるとによりて別るゝと或人いへり

（ロ）花を咲かしむるも雨、散らせしむるも亦雨ならずや

（ハ）彼もし兄の剛健なるに似れば死して身後の名を成さむ、もし又弟の如き怯懦ならば生きて生前の辱を受くるべし　（四二）

解答　（イ）人と禽獸[1]との差異は言語を有すると[2]有せざるとによりて別ると[3]或人いへり

〔理由〕（1）人ト禽獸ト相對立セルモノナレバ、上下ニトヲ置キテ相應ズベキ也。（2）有する（事）と有せざる（事）とト相對立セル事ノ字ノ省畧ナレバ上モ有する下連體段ニ改メザルベカラズ。凡テ對立ノトガ動詞ニ連ル時ハソノ連體段ニ接スベキモノ也。之ニ反シ（3）對立以外ノと、本例ナル補語格ノとノ如キハ、必ズ文ノ終止ニ連ルベキモノナレバ、別るとト改メザルベカラザル也。

（ロ）花を咲かしむるも雨、散らしむるも亦雨ならずや

〔理由〕しむハ使役ノ助動詞ニテ動詞ノ未然段ニ接スベキモノタリ、然シテ散るハ四段活用ノ動詞ナレバ散らしむトイフベク、散らせしむノ如クニハイフベカラズ。

（ハ）彼もし兄の剛健なるに[1]似ば死して身後の名を成さむもし又弟の[2]如く怯懦ならば生きて生前の辱を[3]受くべし

〔理由〕（1）似ればハ似るノ已然段ニばノ添ハレルモノニテ既定條件法ナリ、然ルニ上ニもしトイフ語アレバ相合ハズ、似ばノ如ク未定條件ノ法ニ改メザル可カラザル也。（2）如きハ連體段也、然ルニ、怯懦ならばハ怯懦にトイフ副詞ノあリトイフ動詞ト連結シテナレル形容動詞トモ見ルベキモノナレバ、ココハ連用段如くナラザルベカラズ、若シ怯懦漢ナドトアラバ、下ノなりハ指定ノ助動詞トナルベク、卽チ連體段如きヲ用キテヨキ譯トナル也。（3）べしハ終止段所接ノ助動詞、受くハ下二段活用ニテ其終止段ハ受くナレバ、受くべしト云フベク受くるべしトハ云フベカラズ。

明治四十三年四月二十九日印刷
明治四十三年五月　二日發行

國語問題釋義
定價金五拾錢

東京府下豐多摩郡大久保村百人町百二十二番地
編者　塚本哲三

東京市神田區錦町一丁目十九番地
發行者　三浦理

東京市京橋區木挽町二丁目十三番地
印刷者　新井由藏

東京市京橋區木挽町二丁目十三番地
印刷所　新井電新堂

不許複製

發行所　東京市神田區錦町一丁目十九番地　有朋堂書店
振替口座東京　七一四八
大賣捌所　東京市神田區裏神保町一番地　三省堂書店
同　大阪市東區南本町四丁目　三宅莊藏書店

748W41

近刊豫告

立教中學校講師　塚本哲三先生編

漢文問題釋義

本書は國語問題釋義と同一の旨趣を以て編纂せられたるものなり

24

259
219イ

049814-000-3

259-219

諸官立学校入学試験国語問題釈義

明治35—42年度

塚本　哲三／編

M43
BEM-0546